

令和五年十月一日発行(毎月一日発行)

創刊大正十三年 通巻一一五七号

日川協加盟

川柳塔



No.1157

十月号

川柳塔 百周年 創刊記念 合同句集 発刊ご案内

「川柳塔」は大正十三年の「川柳雑誌」創刊から数えて、令和六年で百周年を迎える。これを記念して合同句集「川柳塔」を発刊致します。

合同句集は昭和四十九年以来十年ごとに刊行し、今回は平成二十六年に続く第六集となります。同人・誌友はもちろん、一般の方々のご参加も歓迎致します。一人でも多くのお申し込みを心からお願い申し上げます。

川柳塔社

- ☆刊行 令和六年七月一日発行
- ☆締切 令和六年一月三十一日(水)
- ☆体裁 B6判・ハードカバー・上製本
- ☆参加費 五千円(句集一冊呈・送料込み)
- ☆申込 一人十五句(自選)
- ☆掲載句 所定用紙に掲載句(平成二十六年以降の発表句・または未発表句)を記入し、左記川柳塔事務所へお申込み下さい。
- ☆送付先 大阪市天王寺区大道一一一四一七一七一〇一
TEL・FAX (〇六)六七七九一三四九〇
川柳塔社 合同句集係 宛

課題と選者(各題2句 共選)	
課題吟	「紙」「青砥たかこ(鈴鹿川柳会)
	「江島谷勝弘(川柳塔社)
「誘う」「島田駒舟(印象吟句会銀河)	自由吟
「西斎尾くにこ(川柳塔社)	「小島蘭幸(番傘川柳本社)
投句要領	規定の用紙(コピー可)または用紙の入手できな い場合は便箋などご使用いただきても結構です。
投句料	一〇〇〇円(切手は不可)
投句締切	令和六年一月二十日(火)消印有効
送付先	〒543-10052 大阪市天王寺区大道一一一四一七一七一〇一 TEL/FAX (〇六)六七七九一三四九〇 川柳塔社 試上大会係宛

賞及び発表
※ 投句用紙は11月号に同封します。

第十二回 春の川柳塔まつり誌上大会募集

川柳塔社では、日頃句会などにお出掛けになれない方々を含め、結社を越えて広く川柳をお楽しみいただく機会として、第十二回誌上大会を企画いたしました。参加要領は左記のとおりです。是非皆様のご参加をお待ち申します。

句集『きのこ雲』と反戦作家

小島蘭幸

こんにちは小島蘭幸です、被曝78年の今年こうして皆様にお会い出来てとても嬉しく思います。

慰靈碑へ一番熱い日が巡る

伯峯

被曝50周年平和祈念川柳大会の石原伯峯広島川柳会会长の作品です。
昭和31年8月、句集『きのこ雲』が発刊されました。序文は川上三太郎氏です。

仮名で書くヒロシマの痕に警うあり

三太郎

ザラ紙に刷つて発行された「きのこ雲」は長い間絶版となり、「幻の句集」となつていきましたが、昭和63年8月、復刻版として発行されました。その中で森脇幽香里氏は「自らも被曝し、二人のわが子をさがし歩き、何万という人々の地獄図絵をまのあたりにした私としては、核の恐ろしさに、目をつむり、手をこまねいていることはできなかつた。核の恐ろしさの真実を、私たちが黙っていて、誰が世界の人々

にアピールすることができよう。その思いが私の心をかりたて句集『きのこ雲』となつた」と書いておられます。

髪が抜けると泣いた少女にもう逢わず 午朗
先生の死屍は大きく手を広げ 木公

ケロイドをかくす長袖暑く着る タケコ

句集『きのこ雲』は、新潮社の『短歌・俳句・川柳101年』に掲載されています。

無礼なる妻よ毎日馬鹿げたものを食わしむ 夢道

自由律俳人、橋本夢道は、プロレタリア俳句運動に挺身、俳句事業に連座して投獄されています。

暁をだいて闇にいる薔

彬

プロレタリア川柳の旗手、鶴彬は、29歳の若さで獄中死しています。

世界平和はみんなの願いです、本日はありがとうございます。

令和5年8月27日に開催された第74回広島平和祈念川柳大会、私の挨拶の要旨です。
被爆死された川柳人への黙祷から始まる平和祈念川柳大会は、何とも言えぬ重さがあります。

合掌

座右の句

俺に似よ俺に似るなど子を思ひ

麻生路郎

私の句

辛ければうつ伏せに寝て泣けばいい 三谷松太郎

川柳塔 十月号 目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田尋「三日市町秋祭り」

■巻頭言 句集『きのこ雲』と反戦作家	小島蘭幸	(1)
賢弟愚兄	高瀬霜石	(2)
川柳塔(同人吟)	小島蘭幸選	(4)
波蘿草の花	野沢省悟	(36)
英語 de Sento	吉村侑久代	(37)
誹風柳多留一三篇研究		(38)
自選集		(38)
句集の森	小西無鬼	(43)
温故知新		(40)
水煙抄	川上大輪選	(44)
檸檬抄		(59)
愛染帖	新家完司選	(60)
橋高薰風句集『肉眼』		(64)

賢弟愚兄

高瀬霜石

世に、川柳句集は山ほどあれど、重版になるのはきわめて稀であろう。僕の手元にある『加藤鰐川柳句集 かつぶし』は、その稀な句集のひとつだ。

静岡の鰐が(ごめん、弟分なので呼び捨て)亡くなつて、もう6年になる。

僕よりひとまわり以上も年下なのに、52歳の若さでこの世を去つた。

末期の肺臓がんで、余命半年と診断された彼は、急いで句集を編んだのだった。「かつぶし」のあとがきから。

——高瀬霜石さんと知り合つたのは「化粧川柳」という企業応募川柳で霜石さんがグランプリ、僕が準賞を頂いたのがきっかけであった。とにかく霜石さんの句は明るくてユーモアに溢れていて、僕はたちまち大ファンになつた。そして思い切つて青森県弘前市のお宅まで押しかけて「弟子にしてください!」とお願いしたのである。ナン

一路集（「やがて」）	村上玄也選	：(68)
初歩教室「道」	石澤はる子選	：(69)
川柳塔鑑賞	平井美智子	：(70)
水煙抄鑑賞	内田志津子	：(72)
せんりゅう飛行船	牧野芳光	：(74)
インスピレーション・ナビ	新家完司	：(75)
■句集紹介「ここでゆつくり」小谷小雪著	大西泰世	：(76)
川柳塔なら創立25周年記念誌上大会に寄せて	川上大輪	：(78)
『麻生路郎読本』余滴	中原比呂志	：(79)
各地柳壇（佳句地十選／藤井則彦・渡辺富子）	乗原道夫	：(80)
柳界展望	：(82)	
第25回全日本川柳誌上大会 入選作品	：(87)	
十月各地句会案内	：(100)	
■編集後記（ひとつこと／饗庭風鈴）	：(101)	
十月各社句会案内	：(102)	
霜石さんだけではなく、僕は本当にいい先輩や仲間に恵まれて幸せだった。川柳をやつて本当に良かったと思つていて。あちらで句会の準備をして待つてゐるから皆もゆつくり来てほしい。ありがとうございました。	：(104)	

トズーズーしくて訳のわからないヤツだと思われたことだろう（笑）霜石さんは「弟子にすることは出来ないけれど兄弟になろうや。今日から蟹はオラの弟になる」と契りのネクタイ（一升瓶の柄）とネクタイピン（鉛筆の形）をお揃いで身につけるようにプレゼントしてくれた。それらは今でも大切にしていて、選者をする時には身につけるようにしている。

霜石さんだけではなく、僕は本当にいい先輩や仲間に恵まれて幸せだった。川柳をやつて本当に良かったと思つていて。あちらで句会の準備をして待つてゐるから皆もゆつくり来てほしい。ありがとうございました。

平成27年秋 加藤 蟹

出不精の僕が、蟹に誘われるまま全国大会などに出かけるようになり「塔まつり」で、憧れの鬼遊さん、正坊さんにも会えたし、蘭幸、完司、楓楽、朱夏諸先輩の知己を得ることができたのだつた。

弟は富士山 兄は岩木山

霜石

人生にときどきふつてわくメロン 芳賀博子
私の句
イクツニナツカナア雲流れ行く 堀本のりひろ

座右の句

— 平成27年秋 加藤 蟹 —

小島蘭幸選

川柳

越谷市 久保田 千代

動けない主人見舞つて痛むもの
働いた末に孤独と鬱病と

生きるのは楽ではないと知る介護
肩書きで生きた過去などすぐ剥げる
平和主義痛みを知らぬ子が増える
鉛筆も削れない子が人を刺す

豊中市 水野黒兎

玉砂利に染みついてる負の記憶

本棚のかミユが青春呼び戻す

ビール一杯余分に飲んで誕生日

銀河なお煌く里の父祖の墓

愛嬌のあるデスマスク蟬落ちる

大正の母に令和は霧の中

岡山市 工藤千代子

素麺以外メニューが浮かばない暑い
残暑お見舞いの音で鳴る風鈴

受け入れた老いが自由をくれました

あつたかい手ですね幸せなんですね
家計簿を開くと洩れるドッコイショ
肉の無いカレー怖くなかった昭和

大阪市 平井美智子

お元気ですかあの夜の月を送ります
さよならの手紙に誤字が二つある

本心は見せない今まで焼きプリン
瘡蓋を捲れば海の荒れる音

哀しみの形に散つてゆく花火
八月の折り緑の風が凧ぐ

松山市 大内せつ子

モジリアニに愛されたいとふと思う
内緒話とびら開けると鳥になる
なぞなぞが解けたら僕は帰ります

コバルトブルーに沈めた嘘は消えません
蟻さんの行列深夜便を聞く
フィルターで救えなかつたことばかり

松江市

石橋芳山

あさつては咲きます晴れの日が続く
よく喋るラッキヨのような人

消し炭になつてく自己嫌悪進む
強風に自我を磨いて浮くカモメ

空瓶のコロコロ淋し過ぎる夜
葬儀屋の裏にパンツが干してある

地球よゴメン怒り静めて下さいな
絶好の読書日和にする猛暑

犬山市

金子美千代

デジタルは苦手と言つておれぬ世に
鈍感力ついたかふわふわ日が過ぎる

シユワシユワシャリシャリチリンチリン盛夏

笠岡市

藤井智史

水点下千度の孤独救う愛
太陽光発電をする脳味噌

許してください 吞みたいときもある
憂鬱の特効薬に読む句集

わたくしの心の中はピカソです
柳界のピンチ 召喚するホープ

鳥取市

前田楓花

カルシウム摂れと毎日ちりめんじやこ
カツプ麺晚ごはんなら叱られる

人脈も出来た古希まで生きられた

国盗りの欲がブーチン狂わせた
八十億の中の一人があなたです
原爆の日のヒロシマは蟬しぐれ

今治市 永井松柏

蓮根の白さは示唆に富んでいる
噂話についた尾ひれに毒がある

密室で繰り返される茶番劇

韻を踏みながら歴史は繰り返す
病人になるため病院に通う

井の中で夜郎自大に気づかない

尼崎市 山田耕治

採血の痕を娘に見つけられ

ファイトファイト八十六の誕生日

眠れないのと施設の姉の電話

クリニックで亡母をよく知る人に会う

ユニセフのシャツを一枚買いました

まるちゃんもたまちゃんもいる通学路

鳥取市 岸本宏章

乱開発のしつペ返しか土石流

強いられた忠誠心が恐ろしい
天日干し人間だけの知恵だろう

泣く笑う眠る赤児の自然体

亡母の味偲ぶコンビニ塩にぎり
家族数で比較はできぬ電気代

大阪市 川端一歩

信号の赤に一こと言うてやる
たっぷりの墨で私はノーと書く

痛いとこ衝いてきましたありがとう

米子市 竹村紀の治

幸せな今日一日を句で閉じる
長寿の秘訣聞かれてハハハ笑うだけ
生き方は花より団子これも良し
まびき菜を上手に炊いてくれた母

老春という花があり水をやる

ケチとズル僕にも少しあるようだ

東かがわ市

川崎ひかり

ウナギ半匹乗り切れるのかこの猛暑

未婚化で進む過疎化に老人化

夏越祭遺影と見てる遠花火

ステテコになると男は皆同じ

無言劇主役身に付く七回忌

喜劇役者見せてはならぬ舞台裏

奈良県

長谷川崇明

日曜日ぶらりぶらぶら梅田地下

歩かねば水を飲まねば六千歩

便利さも煩わしさのあるLINE

何時何処で雨が降つても記録的

レシピなどないが美味いぞ男メシ

娘の帰省今日は華やぐ物干し場

岸和田市

岩佐ダン吉

夢ですか明かすときつと笑いはる

割り勘の端っこ俺が見ると言う

だらしない奴だが校正の名手

ウナギ半匹乗り切れるのかこの猛暑

未婚化で進む過疎化に老人化

夏越祭遺影と見てる遠花火

ステテコになると男は皆同じ

無言劇主役身に付く七回忌

喜劇役者見せてはならぬ舞台裏

大阪市 小野雅美

比べたりしないワタシは私です

今日は何ができたかと問うカレンダー

眠れますように枕を買い替える

帰宅後の楽しみビールよりアイス

マニキュアは剥がれ財布はくたびれて

叱つてくれた父おとなしくなつてゆく

名古屋市 山本 三樹夫

各務原市 喜多村 正儀

金婚から波風立たぬ空氣生む
電氣代苦にして暮らす部屋の隅

国会の議員になると視野狭い
本氣なら手抜きと力違うはず

平和条約ブーチンの後考る
スーパーをゆっくり回り涼をとり

犬山市 関本かつ子

可児市 板山まみ子

九十も普通になつて来る長寿

猛暑日はもう飽き飽きの夏休み

なでしこの頑張り夢をもう一度

ウクライナ思えば猛暑嘆けない

コロナ明けもうすぐ会えるあの笑顔

半世紀前は三十度で暑い

エアコンも畳も替えて子等を待ち

六歳で日本が負けた日の記憶

豊橋市 西郷紀美代

京都市 清水英旺

しゃがむより椅子が必要の草むしり

勝てば官軍といわせないブーチンさん

しがらみを捨てて卒婚憧れる

鎮魂の夏次々と亡き友の顔

曾祖父に助けられたと盆の墓

きょうという日があつてこそ明日がある

リピーター多いチョコだがちと高い

思い出の大半どこかに置いてきた

石川県 堀本のりひろ

京田辺市 北野クニオ

ずーとずーと咲かずに生きてはや八十路

朝食がおいしい時はウエルネス

妻入院すつと寂しさ同居する

暑気払い言うて毎日酒を飲む

老い二人口を開けばグチばかり

山の神偶にや御留守が心地良い

目指せ百歳玄孫に会える夢抱いて

好きな事やつて暮れれば長生きに

眉間ジワ一本増えて八十路越す

苦労人問題抱え耐えている

長岡京市

山田葉子

大阪市岩崎公誠

これつて猛暑水栓ひねりお湯が出る
住職のお経スピードアップする
努力家に見えてたけれどよく遊ぶ
賀茂なすをじっくり焼いて暑気払い
コリウスの葉夏の花には負けてない

八幡市

武田悦寛

大阪市内田志津子

夏の風弱氣をひよいと裏返す
手術終え少しはにかみゲータッチ
かさ立てに傘と並んでへんろ杖
2階から見えた見えたと花火酒
出来不出来遺伝のせいにしておこう

大阪市

東敏郎

大阪市江島谷勝弘

天国を下見に行つたままの父
安倍マスクプレミアつかず処分する
生玉子眉を顰めて見る価格
鏡にはスッピンの顔見せてます
試着室入つたままの夫待つ

大阪市

石田孝純

大阪市榎本舞夢

葉っぱ色の里砂色の都会 夏
天を衝く積乱雲のガハハハハ
五歩歩けば夏の雫が額から
一本勝負暑さVS蝉の声

アリンコが四股踏んでいる炎天下

落ち着かぬ世相の内に夏休み
校庭は百周年に燃えている
盆踊り本格的に櫓建て
校歌音頭練習励む親も子も
一方で戦争してゐるこの世相

階段は一段づつと無理をせず
コスパから選んだランチ続かない
デイに出てやる気の友と握手など
勝てぬこと承知の上でまだねばり
恩返し考えている間に進む老い

大人になつたなしつかり主張する
三年ぶりキャリーバッグが闊歩する
失態は部下のした事なんてねえ
あとひといきあと一息とページくる
孫の冒険初めての一人旅

大阪市

内田志津子

この頃はスルメ高くて焼れない

故障ゼロ十六年目のマイカー

アホですわアンパン巡りしています

豆類がすべて大好き元気です

うれしいねちょっと一杯行くらしい

大阪市

内田志津子

大阪市 大川桃花

大阪市 近藤 正

引き出しの開け閉めふえて日が暮れる
お地蔵さまみつも越えて行く眼科

語らない所に悲劇かくれてた

難聴だつた父の無口が解る今

何もかも裏目そんな日もたまにある

大阪市 大沢のり子

猛暑です蝉の鳴き声聞こえない

泣けてくる母の浮きでたあばら骨

丁寧に洗つた母の足の裏

特盛のナスで三品出来上がり

なんとなく幸せ今日も普通の日

大阪市 奥村五月

ブーチンに地獄の動画送りたい

絵馬の数これで合格はずせない

熱中症恐いが今日も缶拾い

あの世では帰りの道は教えない

携帯で遊び結婚忘れてる

大阪市 古今堂蕉子

歳とれば益々似ます姉妹

生き方で脳の成長助長する

しみじみと見てる怪我した足の裏

落雁のうまさが分る歳になり

孫二十歳つるつるの肌黒い髪

ベーブルースを超えた翔平驕りなし

豪雨と熱波地球の呻き声がする

核抑止無用と総理ブーリング

彬忌をなぜ歳時記に載せんのか

島民を生贊にして基地地下化

大阪市 坂裕之

こつこつと育てた花が咲き誇る

真っ直ぐに歩いてるのが辛くなる

あれこれと言つてくる人たまに居る

会えばすぐオイと呼び合うクラス会

どうなるか分からぬから楽しいの

大阪市 高杉力

終章に少しマチスの赤が欲し

これ以上好きだと言えれば罪になる

よく吼える犬と紹介状にある

カピバラは争うことが大嫌い

座右の句いつか超えたいとは思う

大阪市 高杉千歩

朝一番幸せですと叫びます

外出用靴が並んでお待ちかね

うつかりしていたら百まで後三年

何くそと思うばかりで動けない

お仏壇空き家に置いたままお盆

大阪市 田 中 廣 子

大阪市 寺 本 実

山の朝頂点に立ち御来光
若者にかこまれ若さ保つて
母を見る幼子の目キラキラと
無駄ですが孫とやりとり楽しいな
北ミサイル民の疲弊はどうなるの

大阪市 田 中 ゆみ子

方言が抜けてしまつた子が戻る
難しい人だ笑つてばかりいる
ほどほどに文句をつけて買わざ去る
抜け道と思い迷路に迷い込む
暑いなあ地獄に住んだ気分です

大阪市 中 井 萌

九割方友が喋つて電話切れ
役にたたない話で盛り上がる酒席
異文化をかすかに纏い子の帰省
欲しい物がない淋しさを知つてゐるか
昼寝している間に柿が色づいた

大阪市 谷 口 義

賢人は無駄に苦労はしていない
八十の壁は高いか分厚いか
同姓の表札についほくそ笑む
レジ前の菓子の誘惑侮れぬ
行きませんお得ランチのない曜日

大阪市 原 田 すみ子

妹は花を摘んでた終戦日
平凡に生きる上等ではないか
おばあさんにもカチワリの思い出がある
おくすり手帳持つて長生きしています
介護保険掛けてます使っています

大阪市 寺 井 弘 子

真夏の扇風機ぐらゐの戦力
暑さにも寒さにも顔は正直
じりじりと猛暑 元気を溶けさせる
無口でもここにいるぞと咳払い
クーラーひと部屋否応無く一緒

大阪市 平 賀 国 和

コスモスの大地の風とたわむれる
いやな予感飲み込んだぐち疼きだす
不況期に仕事有るだけ有り難い
そわそわと借り物持つて落ち着かぬ
長電話そろそろ椅子を用意する

大阪市 降幡弘美

堺市今井万紗子

店員にすすめられたら断れぬ
ほとんどが期限切れてる調味料

本当の球児の敵はこの暑さ

好きな人がいるから全部がんばれる

赤児抱くように優しく持つ豆腐

大阪市 宮崎シマ子

ホームの行事ミニ花火に参加

用意万端ヘルパーさんよありがとう

九十八歳の手に持たせてくれた線香花火

幼い時兄妹にあつた線香花火

草笛を吹く少年の目に涙

大阪市 山本加おり

氣イつけやお互い言つて切る電話

マスク越しでも内心が見え隠れ

翔平のスゴイプレーに癒される

少しだけ成長したな傘寿きて

あんた誰我が子忘れた母がいた

大阪市 横山里子

初蝉か思えば耳の誤作動か

どの医者も「歩きなはれ」の一言で

ウォーキング朝は眠いし夜怖い

夏バテに友の手製の十薬茶

楽しい人だと思われて泣けない

余力ある内せつせと徳を積んでおく
この暑さだれもいらない散歩道
言い聞かす今日が一番若いんだと
今日もまたメダカ五匹がお友達
夏の宿題じいちゃんついに駆り出され
玉砂利の音を励みに百度石
羅漢にも後悔してゐる顔がある
愛犬も孫もじじばば使い分け
あの世へは遅刻をせずに逝つたやつ
老い一人月下美人と睨めっこ
シャーペンの消しゴム使う羽目になり
赤鉛筆がたやすく折れたのも昭和
いたずらが好きでたまらぬ文房具
筆箱に危ういものが紛れ込む
筆箱の中の自由は守り抜く

堺市 柿花和夫

ホーリー

ホーリー

ホーリー

ホーリー

ホーリー

堺市 源田八千代

熱中症警戒アラート其処彼處

あなたの静かさ尊びますと師のサイン

妹生まれ頃もしくなつた二歳児

しっかりと二歳の姉の仕草観る

育児上手と若いママさん褒めたげる

ほんとんどが期限切れてる調味料

本当の球児の敵はこの暑さ

好きな人がいるから全部がんばれる

赤児抱くように優しく持つ豆腐

ホームの行事ミニ花火に参加

用意万端ヘルパーさんよありがとう

九十八歳の手に持たせてくれた線香花火

幼い時兄妹にあつた線香花火

草笛を吹く少年の目に涙

初蝉か思えば耳の誤作動か

どの医者も「歩きなはれ」の一言で

ウォーキング朝は眠いし夜怖い

夏バテに友の手製の十薬茶

楽しい人だと思われて泣けない

堺市齋藤さくら

池田市太田省三

若人の歌声響く甲子園
ナストマト胡瓜もうまい夏の膳
五十点取れる人生めざして
何やかや言うてはるけどお人好し
ゆつくりと歩こ二人三脚手をつなぐ

スキップで帰る子らあ夏休み
スキップで登校今日はプールの日
軽々と抱き上げた孫今はパパ

肩叩き切符で軽くなつた肩
無事着いた電話に肩の荷が下りる

堺市坂上淳司

若者の腕力欲しい水害地
キツチンは生きる力を産むところ
学園祭ゆるキャラショードラマ
チャンネルを間違えたまま見る
シベリアに甲種合格なお眠る

堺市澤井敏治

コロナ禍の誰にも会わぬ墓参り
献立表帰省の孫孫に合わして
ひと時の心安らぐ盆供養

老人に優しいアンティークな喫茶
うかうかと生きてやがては秋になる
貝塚市吉道あかね

朝顔の熱中症を見ましたか
節電かな明かりの減つたけもの道
自肃ふえ終バスダイヤ早くなる
一人ではムリ様変わりした梅田地区
形状記憶していたはずが迷いだす

堺市内藤憲彦

何人も夜空に浮かぶ遠花火
夏つばきもしもの時を聞けぬまま
サヨナラの文字が乾かぬまま秋に
ドキドキの術後三年クリアする
淋しくて大きな声についてゆく

柏原市津村志華子

大阪は安い旨いにまごころも
心では妻の背中を揉んでる
ご無沙汰に酒を供えて墓洗う
少年の顔して古里を語る
熱中症へ号令かけて水を飲む

夕茜静かに今日を閉じてゆく
幾度の転居最後にケアハウス
生きすぎて疲れ果てる影法師
ご近所と相身互いで丸く住み
高齢のヨイトマケですどっこいしょ

河内長野市 大島 ともこ

河内長野市 藤塚 克三

この命どこまで燃やし続けるか
もうちょっとも少し見せてこの景色
ほんやりと“幸せ”的字をなぞる今

陽炎の先にくつきり私の図

トップ死守このストレスは分かるまい

河内長野市 木見谷 孝代

神社まで歩いて試す今日の膝

賽銭は少し頼み事も少し

散歩コースのグランド閉鎖という知らせ

クーラー漬けで高校野球女子サッカー

ほおずきを飾り華やぐご仏壇

河内長野市 坂野澄子

空想が好きなわたしは無限大

絞首刑にしたい男がひとりいる

花束になれぬ彼岸花の憂い

バランスはやっぱり母が振るタクト

瘡蓋が剥がれて微罪ひとつ消え

河内長野市 中島一彌

久々の汗は空き家の草むしり

愛用の藤椅子出して迎え益

帰省子よ今年も来たね黒揚羽

もぎたての夏丸かじりするトマト

12 柿味も素つ気もない私

河内長野市 藤塚 克三

償いはカネモノでなく思い遣り

こだわりを止めたら視野が広がった

余生でも愚直に生きて終の章

汗涙流した後は願い華

捨う神留守か賽銭効きめない

河内長野市 村上直樹

6Bの太さ猛暑よいざ勝負

もう少し気張れ少子化国の明日

久々の母の手料理子に還る

穏やかな余生曾孫に子やあなた

河内長野市 森田旅人

成人の孫いきなりのツーショット

勉強もきつとしてると子を思い

子と会える出張パパのよりどころ

あの孫が嫁にしたいで一位だと

守りあい泣くも笑うもひとつ絵

岸和田市 雪本珠子

一病を手懐けながら今日も暮れ

人生の答出ぬまに曲がり角

こんな世は素直になれぬなんとなく

バラ色の人生だった筈なのに

吹田市 太田 昭

高槻市 富田保子

労りの言葉の陰にある期待

ひらかなの似合う女が酌に来る

迷路から抜けるヒントを風に聞く

奇人を囮む俺も変人かも知れぬ

老ろう介護接ぎ木の紐も緩み出す

高槻市 片山 かずお

後期まだ遊ぶつもりの靴を買う
歳ですから枕ことばにする後期

口ほどは体が動かない後期

妻に手綱を持たれて閑白を演ず

妻がいないと何もできないのに威張る

高槻市 島田 千鶴子

身勝手なヒト科が地球狂わせる

酷暑きてまだ続家籠り

百日紅酷暑に負けておられない

今日もまたそうめん湯搔く夏盛り

友の窮地聞くしかできぬ腑甲斐無さ

高槻市 初代正彦

それなりに妥協している土踏まず

なるほどと試す夕食後の散歩

義理がたいオトコの寄つて暑気払い

斜陽のパチンコ屋にぎやかな飲み屋

A I の進化世の中どう変わる

病院は休みお寺は無休です

A型はもしもの構え先にする

ぬか床も賑やかになる夏が来た

髪染めて用もないのにショッピング

失敗も美談に化ける八十路坂

高槻市 鳥居 宏

ひよろひよろの腕にもやはり蚊はたかる

極楽へちよいと昼寝の扇風機

冷房の窓に涼しい夏の空

草むしり雀ちよこんとついてくる

被爆国なぜ核禁を語らない

高槻市 松岡 篤

炎天を怖がりながら墓掃除
クーラーは休暇も取れずすみません

立ち話までも奪つている暑さ

まだ嫌だマスク外した人の横

入念な気温チェックと水補給

豊中市 池田純子

レトルトと冷凍食でおもてなし
ピイキヤーが去つてふたりの朝ごはん

冷凍庫すき間ができる息をする

いい時代だったと友と振り返る
入道雲が七変化して大あはれ

豊中市 上出修

腹の虫治まらなくて下剤飲む

会期末玉虫色でシャンシャンシャン

丑三つ時目が冴えてくる本の虫

雷鳴に夜の空気も震てる

腰回りサイズを聞いてゴムにする

豊中市 きとうこみつ

週に一度は気合をいれてする掃除
私好みのムツシユの店で買う野菜

フランスで飴ちゃんあげて道を聞く

大阪のおばちゃん花のパリを行く

挨拶がわりにカンロ飴などいかがですか?

豊中市 藤井則彦

寂しいな知らぬ間に減る日本人

思い出から導く明日のエネルギー

老後ではない日もあるという八十路

ナツメロに涙を流す歳となり

独断をするのも事を為す術か

豊中市 松尾美智代

体温を越える熱さに耐えて秋

静かに咲いて今日一日の沙羅の花

朝歩き待つてくれる月見草

会いに来てくれる元気な孫の靴

愚痴を言うたびに私が小さくなる

豊中市 松田蟻日路

これ雀日陰の風で息つけよ

皿洗いすませて覗く冷蔵庫

梅雨あけて日暮れの雨が偲ばれる

竿の先飾りの様に赤トンボ

四年振り通りに光る山車の列

富田林市 中村 恵

急がねば雲の梯子は外される

満面の笑みで隠している涙

許す気はあるのに謝ってくれぬ

いつの間にかいな泣き虫怒り虫

大きな溜息はひとりのときに吐く

富田林市 山野寿之

母の手は温い絆の幼い手

憧憬の的寅さんのぶらり旅

人間の自然破壊が生む被害

ただいまがお帰りなさい聞く阿吽

娘のセーターリー解いて孫のベスト編む

寝屋川市 川本信子

体温を二度越す猛暑立ち眩み

帰省なしそれぞれ盆の過ごし方

「北国の春」テープの中で歌う母

プライドは内ポケットの中に有る

少しづつ退化の脳で五七五

寝屋川市 伊達 郁夫

羽曳野市 磐本 洋一

立ち止まる余裕をくれた道の花
のんびりと朝顔萎むまで朝寝

ハツとする入道雲が亡父の顔
笠舟の流れる先にある孤独

微力でも差し出す片手空けておく

寝屋川市

富山 ルイ子

羽曳野市

宇都宮 ちづる

日本中どこも炎暑に包まれて
スカスカと知らず胡瓜を友にあげ

娘婿一人で秋田旅行中

夏ヤサイ朝夕水やり大変

夏ヤサイの手入れ何時もありがとう

寝屋川市

平松 かすみ

羽曳野市

徳山 みつこ

バースデー娘シニアの仲間入り
アルバムの手足の型は宝物

子育てはお隣さん助けられ
オレオレは我が家に居ます御安心

寝屋川市

廣田 和織

羽曳野市

藤原 大子

貧しさと淋しさに耐え老いていく
深呼吸忘れて僕を見失う
鉤ひとつ老いた親父の手になじむ
転職の覚悟大きく深呼吸

寝屋川市

廣田 和織

羽曳野市

藤原 大子

私の正体分かるまで捲る
貧しさと淋しさに耐え老いていく
深呼吸忘れて僕を見失う
鉤ひとつ老いた親父の手になじむ
転職の覚悟大きく深呼吸

寝屋川市

富山 ルイ子

羽曳野市

宇都宮 ちづる

誕生やす貴方何方と妻までが
アルバムを開き忘れた龜寿今
妻指輪メッキ剥げても光つて
枝豆が大豆と知らぬ都会つ子

破れ靴父の形見で下駄箱に
枝豆が大豆と知らぬ都会つ子

寝屋川市 富山 ルイ子

羽曳野市 宇都宮 ちづる

甲子園知らない人とハイタッチ
長い列ひと先ず並ぶ好奇心

初回限定安いと買った不要品
連絡船かもめがずっと付いてくる
のはずれの答は補聴器のせい

夏ヤサイ朝夕水やり大変

夏ヤサイの手入れ何時もありがとう

寝屋川市

平松 かすみ

羽曳野市

徳山 みつこ

毎朝会釈するけど名前知りません
経過いいと医師が咳きほつとすると
病院帰りルンルンと花を買う

ライバルとも握手妥協点探る
憲法と軍拡の論点がずれる

貧しさと淋しさに耐え老いていく
深呼吸忘れて僕を見失う
鉤ひとつ老いた親父の手になじむ
転職の覚悟大きく深呼吸

寝屋川市

廣田 和織

羽曳野市

藤原 大子

私の正体分かるまで捲る
貧しさと淋しさに耐え老いていく
深呼吸忘れて僕を見失う
鉤ひとつ老いた親父の手になじむ
転職の覚悟大きく深呼吸

寝屋川市

富山 ルイ子

羽曳野市

宇都宮 ちづる

羽曳野市 三好專平

肩の力抜いて一局夏風

声涸れて怪物となる溽暑かな

心ボロボロからだピリピリ秋の水

かぐや姫演歌うたいて泣くばかり

憤怒すべなき卒寿の桃源郷

東大阪市 佐々木 満作

ライブラリー読書三昧の避暑地

ストレスも暑さもビールで吹つ飛ばす

赤とんぼ稻穂の先で思案顔

家電品買い換え躊躇する齢

電気代気にせずエアコンのお世話

東大阪市 西村哲夫

縁側に風鈴消えて風は来ず

見逃した出合いの多き恋のこと

粗大ゴミその人生を捨てずいる

自我の花咲かせた縁を喜ばず

スマホ使用嫁が説教してくれる

枚方市 谷 英也

大国でも隣の飴が甘いです

大谷に負けじと飛ばせ甲子園

八十路です歩けるときに歩いとこ

いい香りふらふら入るパン屋さん

段段畠先人の汗涙ぶ過去

楽しさは二乗だ夫婦川柳家
夫真面目出来てなくとも行く句会

付いて来た夫がハマった五七五

月イチの力試しだ塔本社

待つてます川柳塔の輪の中で

枚方市 藤田武人

結論が出ない話を繰り返す

隣席でお裾分けしてから夫婦

プライドが勝り拳が下ろせない

柵も肩書も取れ回遊魚

四年ぶり常連客が顔を見せ

藤井寺市 太田扶美代

某月某日今日から夫の杖になる

まだわたしについてくる気の影法師

のんびりだけど悲しい事はたんとある

お肌カサカサ恋を忘れてからずつと

仲直りのきっかけ朝顔が二輪

藤井寺市 鴨谷瑠美子

内科歯科どこの椅子にもあるドキリ

コマーシャルばかりを皿に盛りつける

風のない日の風鈴はそぐわない

姉の歯並びきれいだつたわかき水

先生が泣いて敗戦知りました

枚方市 栃尾奏子

藤井寺市 鈴木 いさお

箕面市 酒井紀華

跡継ぎがいない棚田に星が降る

損得ぬきの付き合い出来る友がいる

シャトルバス眠つたままで二往復

愛の讃歌口遊みつつ行く八十路

推敲を重ねて佳句へまだ遠い

藤井寺市 吉田 喜代子

箕面市 出口 セツ子

米寿超え探し物増え忙しい

三十八度我が体温をポンと超え

若いねえ猛暑の中の甲子園

お参りもクーラー無しの墓の水

暑くとも夕立あつたその昔

松原市 森 松 まつお

箕面市 中山 春代

熱爛と昭和歌謡に酔つている

お小遣い値上げ交渉決裂す

好きな事でメシが食えたら至福なり

堂々と募集している闇バイト

それなりの人降りてきたダットサン

箕面市 大浦 初音

箕面市 広島 巴子

愛の花アガパンサスが咲きました

食べた後せめて食器は運んでね

都合よく物忘れするおじいちゃん

子供の頭クエッショングマークぎつしりと

考えすぎ心配性で疲れます

歯を抜いて美人になつたシンデレラ
事件後に防犯カメラ本気だす

遺言書 仏壇の奥 奥にある

お迎えが来るまで生きる自助努力

雨に煙る思い出抱いていい時間

土用の丑今年は誰もつきあわぬ

国産のはずが今年は美味しい

独りでは食後の茶店つまらない

遊ぶプランいっぱい入れるカレンダー

悔いのないように生きろと砂時計

空っぽと知りつつ洗う父の墓

化粧して出る気になれぬこの炎暑

ゆつくりでゴメン苦手なセルフレジ

卓袱台へいっこ・はとこの遠い夏

つまみ食いうふ塩分補給中

サフアリーのトラも熱さで寝転がる

ペンギンのヨチヨチかわいいお出迎え

おおパンダカメラ目線で笛食べる

クーラーを入れてご先祖お迎えを

おまちかね孫とスイカの種飛ばし

八尾市 寺川 はじむ

神戸市 奥澤 洋次郎

お笑いトークさんま御殿に見る極意
駄洒落にも笑い渦巻くウサギ小屋

笑いと涙コント猛暑の解熱剤
二刀流と敵も味方になりたがり

恐怖のネット甘い言葉で誘い出す

八尾市 村上 ミツ子

言葉より少しの温さ下さいな
青サギも優雅に芦屋ビオトープ

パーチャルで想い叶えて亡父と呑む
かば焼のにおいとタレでもう一杯
非情な国食料までも武器にする

神戸市 城戸 誓子

エアコンつけてのんびりみてる野球
夏休みはないが年中休みです
帰省ラッシュユマスクしている人もいる
かなしいが挫折に慣れてきてしまう
テレビ見る元気なくなるほど暑い

大阪府 米澤 淑子

またとない今日という日がいとおしい
蛇口からぬるま湯が出る猛暑
何するにもスロー老いにはかなわない
衣食住充分足りて感謝だけ
ますかけの手相の曾孫幸よあれ

神戸市 上田 和宏

人が減り生ごみが減りカラス減り
子供減り見守り仕事すぐ終わる

妻が呼ぶ磨いた窓を見に来いと
ひと休みしないと出来ぬ次のこと
ひとまずと今日一日を締めくくる

墓参りだけのさみしい盆帰省
古里は心に残す古いま
この夏も一台増えた扇風機
この暑さ過ぎりや懐かし過去のこと
ヤングケアラー孫に囮まれ好好爺

神戸市 近藤 勝正

氣をつけねばいかんと思う我慢慣れ
悪ぶつてあなたも弱い人なんや
台風にいきいきしているワイドショリー
妻逝つて愚痴をこぼせぬ淋しさや
天賞をもらい調子がおかしなる

神戸市 奥澤 洋次郎

神戸市 斎藤 隆浩

神戸市 松倉 正美

ゴミ当番早く起きろとセミ時雨
押し入れに眠つたままの健康器

品薄と皆が言うから品薄に
優先順親は目当り子は電波

お盆玉仰山並べて孫を待つ
約束通り今年も向かう九段坂

吊床で猫と微睡む昼下り
性善説またも裏切る中古車屋

通夜の席同窓会に早替わり

責任は取れないけれど責任者
孫と会う今日だけ杖はやめとこう

神戸市 敏森 廣光

神戸市 山口 美穂

エアコンが夏の私の命綱
爺ちゃんもやつぱり夏は半ズボン
青空よ雲よ私も自由だよ

この暑さ怠け心を認めあう
地上の酷暑知らんかったと蝉が鳴く
夕飯の一品として冷奴

草木の吐息きこえる炎天下
鏡のわたし認めたくないけど私

百日紅あなたはほんま強いなあ
孫と会う今日だけ杖はやめとこう

神戸市 富永 恭子

神戸市 山崎 武彦

白黒を言い切ることの難しさ
まつたりとアイスモナカを半分こ
塩飴をころがしながらウォーキング
丸い背にあなたが老いていく不安
しあわせで元気に見えているらしい

神戸市 能勢 利子

明石市 糊谷 和郎

人混み無理とテレビで見てる大花火
熱中症の対策練つて甲子園
日中はエアコン点けて野球見る
涼しくなれば半額になるお買い物
日が落ちて打ち水すればなお涼し

明日を抱く両手はいつも開けてある
おろかさに気付くまで続ける戦
破れ傘の下で平和を囁みしめる
たまには許そう何もせぬ日のわたし
温もりは思い出せない亡母の膝

尼崎市 森 菊江

三田市 稲角優子

泣き虫が母になつたら強いこと
鰻横目に鰻一盛買うとする
気がつけば妻が全てを握つてた
タヌキ移住街はおいしい物だらけ
正義の数人の数だけあると祖父

尼崎市 山田厚江

三田市 上田ひとみ

忙しい忙しいわと蟬が飛ぶ
一番前で小さな声で歌うたう
すみつこに父の言葉が残つてゐる
営業マン顔いつぱいの笑顔する
二次会の練習をするカラオケ屋

加西市 山端なつみ

三田市 大西重男

盆棚経早朝からのスクーター
お寺様冷えおしほりを長く手に
寺総代スマホ片手に道案内
温暖化そんな優しい暑さかよ
地球沸騰化グテレス氏の対策は

川西市 山口不動

三田市 九村義徳

大谷が打てば夫婦は仲直り
寝て見てる花火フェスへの群衆を
空蝉の仲間の声の中にいる
土蔵壁朝一番の夏陽照る

櫓建ち今夜自治会盆踊り

アバウトに生きて白寿を目指してゐる
天翔ける父によく似た夏の雲
すてられぬ父の木椅子も庭に溶け
昇る陽も夕日もすきだ君が好き
夕立が過ぎて詩集を買う港

少しだけほめてあげたい私です
沢山作つて娘へ配達の日々
年齢が愛おしくてたまらない
ありがたく先輩の声聴いている
もう会えぬ会えなくなつた影を追う

三田市 大西重男

行水がシャワーに押され死語になる
転んだが誰も見られずそつと立つ
カニカマを蟹と信じて食べてみる
見栄張つていた時やはり若かつた
失敗を認めぬ彼は頑固者

三田市 九村義徳

すぐやるが悔いが後からやつてくる
人情と義理のはざまにいる迷い
ぬるま湯に浸かりなかなか出られない
秋晴れだ休みにしたい月曜日
休みます忙しすぎて身が持たぬ

三田市 住 吉 美和子

三田市 堀 正和

正 和

盆おどり小さな輪つか過疎の村
この夏は地球沸騰時代とか

もう住めぬわかつていても泥をかく

美しい水の流れが魔の川に

電車内皆下向いて指体操

三田市 多 田 雅 尚

三田市 村 田 博

タワマンに高所恐怖症は住まぬ
注意書き読まず飲んでる薬漬け

冷蔵庫ビールを冷やす空きが無い

墓掃除来る人皆んな高齢者

母の命日黙祷される日と同じ

三田市 中 山 昭 美

宝塚市 丸 山 孔 一

受診日は衣装整え化粧して
老化だともつともらしく医者が言う

手遅れか暑さ沸騰する地球

死ぬ程と冗談言えぬこの暑さ

どんどんと孫は追い越す背も知恵も

三田市 野 口 真桜子

丹波篠山市 北 澤 稲 民

気がつけば正座していた御説教
日焼け止め日傘と帽子炎天下

羅針盤壊れどこ行く日本丸

干し上がる池にわんさか外来種
二死満塁いざルーキーの名が呼ばれ

時として昔を偲ぶ脛の傷
波風は立たぬ寝た振り惚けた振り

朝昼晩エアコン休むヒマはない
そろそろと薬も酒も在庫切れ

通販と高い出前に頼るしか

巣籠りで今日も一日三百歩

妻としか口をきかずに日が暮れる

逆転はプライド脱いで火が付いた
自画像に白髪足してる成れの果て
久びさのカラオケ声も固まって
それ程でも御座いませんと自慢する
人好きの妻のお蔭で友が出来
がり版刷り蠍紙とインクの香 昭和
流れ星消えた後から願い事

ひたすらに地球を消費するヒト科
真心をつかい果した日の疲れ
正当な儲けは汗の匂いする
これ以上政治嫌いにさせないで
人の運一寸先が予知出来ぬ

丹波篠山市 酒井健二

西宮市 福田正彦

ああ二度とやさしい夏はもう来ない

連想のラストはいつも君になる

才がないから固い男で売る

ちよくちよくと苦労ができるボケません

今になつて花粉無い杉植えている

丹波篠山市 藤井美智子

南あわじ市 萩原狸月

早朝の散歩おいしい風に逢う

卒寿まで穏やかな師の人生句

失敗も老いのお愛想悪びれず

罪のない児へ親のエゴ許せない

生きて來た八十路への道摩訶不思議

西宮市 亀岡哲子

奈良市 東定生

玉音へ夾竹桃の赤カンナの朱

たっぷりと水飲んでいるありがたさ

南十字がきれいと葉書着いたきり

学童疎開楽しいことを思い出す

仏さまお暑いでしよう茄子の馬

西宮市 福島弘子

奈良市 大久保眞澄

G7の決意新たに八月忌

帰る所ある幸せを知る戦

腹ペコの猫思いつつ急ぎ足

朝晩誤嚥がこわいパピブペボ

目を凝らすまさかの庭の糸トンボ

耐えかねて積ん読の山崩れ出す
笠地蔵笠を日傘に替えましょう

子供よりえげつない大人のイジメ

それも私がしないといけませんか
自分のことだけで精一杯です

饒舌も着地の兆し見えてこず
百貨店早送りする一季先

運命の足音静か今日も無事

滾る陽がプラス志向を搔き立てる

思考力無にしてくれる蝉しぐれ

缶ビール一つで酔えて罪がない

日日静かほっこりまるい句が生まれ

青春はいいな猛暑の甲子園

募金箱スルー出来ずにワンコイン

現地には何割届くこの募金

地球からしつべ返しの沸騰化

複雑なパズルのような梅田地下

遺伝子は嘘はつかない良く喋る

スクランムを裏で組んでる嫁姑

電動チャリ免許返納したら乗る

奈良市 東定生

奈良市 加藤 江里子

アンケート孤独感じるほうにマル

南吉の童話私の処方箋

辞書を繰るひととき文字に癒される

母おればこんな私を叱るだろ

大丈夫意外と強いこの私

生駒市 飛永 ふりこ

朝顔から小言が漏れる怠け癖

ご先祖にいつも詫び入れ感謝です

墓参り母の声するありがとう

激辛のラーメンが消すいらつきを

平和という命尊ぶ蟬の声

奈良市 高橋 敬子

奈良市 辻内 げんえい

奈良市 米田 恭昌

奈良市 雷聞 こえ

予報の雨期待をすれば降らぬ日々

枯れないで木木にエールの水を遣り

いい湯だと安堵出来る日早く来て

印籠は黄門ブーチンは核で
企業の不正まさかの事も平然と
結局付けまわされていた民のがわ
雷聞こえ待つているのに遠ざかる

三食とオヤツに昼寝日課です
解けるはず孫の宿題そつと見る
三日間解けぬクイズを夢で解く

桜井市 安土 理恵

ひまわりの迷路もう秋桜に變つてる

神さまお願い老いに鞭うつのはやめて

ダイヤ婚すぎたし好きに生きたいの

リハビリの効果急いてはなりませぬ

おじいさんは向こうで待つてはるんちやう

香芝市 山下 じゅん子

香芝市 横山 じゅん子

香芝市 佐々木 あきら

拉致の子に祖国は遠し波の音

海猫は防人 尖閣の沖を舞う

坪庭だつて四季を奏でる夢がある

百均で憂さ晴らしする小市民

お供えを掠めて孫が鉢叩く

奈良県 安 福 和 夫

奈良県 渡 辺 富 子

麦わら帽探しに出たの森村さん
立ち読みの著書に思わず吸い込まれ
若き日に胸ときめいたミステリー

五十代心に決めたマイウエイ
戦ない世こそ前提サバイバル

川風へゆかたのふたりしおび逢う
だんだんとおぼろの記憶増えていく

夏草の伸び放題にある若さ
ほんやりとかすむ記憶を追う地酒
終章をゆつたり生きてゆくつもり

奈良県 谷 川 憲

和歌山市 上 田 紀 子

燈花会が情緒深める奈良の町
それなりの起伏もあって並に生き
妻の日々花の手入れが楽しそう
昔の恥今も時々夢に出る

八十路旅若さの熾火まだ消さぬ

奈良県 中 原 比呂志

和歌山市 柏 原 夕 胡

日経だダウだと関係ないニュース
飢えながら働いていた敗戦日
長寿国苦労分け合う施設増え
敬老日万才万才とはいからず

ベビーカー乗っていたのは小型犬

奈良県 中 堀 優

和歌山市 松 原 寿 子

娘さん恋をしてそういう匂い
裸でいい楽しい時をもう一度

明らかに黒であるけど攻められぬ
前進か後退か決め兼ねている

終戦の記念日だって皆知らぬ

山間の空気素肌に持ち帰り
脳洗う秘境の風が心地好い
行く末はどう転んでも運まかせ
何回も痛手を負つて立ち上がる
繕つてやる気出さねば済むから

和歌山市 松 原 寿 子

橋本市 石田 隆彦

汚染水軽くなつたと流す海

孝行の償い父母はもう遠く

弁償も無く泣き寝入り詐欺被害

良い野菜作る一心鉄を振る

免許返納踏ん切りつかぬエピローグ

山口市 岩国市

兼崎 徳子

存在が気にならないのがめおと岩

こつこつの貯筋が元気作り出す

手にとまるきれいな蝶を探す旅

振り向かず今出来る事する全部

衣替え犬も意外にいそがしい

岩国市 上村 夢香

猛暑日にわたしの本気試される

平和の誓い若人の声高らかに

一駅でも小さなドラマ待つて

ひまわりの迷路どこまで続くのか

現役の女医は元気な九十歳

防府市 坂本 加代

華やかに見える人にもある苦悩

ドキドキを忘れてしまうぬるい日々

欠席の理由見つけてほつとする

通院もフレイル防止引き締まる

「らんまん」に触発される草の花

規則逃れ慣れてれば癖になり
実力者規則を都合で解釈す

雁字搦めすべて規則がものを言い

賛作と模写の区別はどこでする

都合によりにせものふりをする

鳥取市 奥田由美

盆の客去つて再燃倦怠期

帰省児にポチが譲った爺胡坐

孫帰り屋台の金魚だけ残る

酷暑でも妻は無縁の夏細り

家族なし五人が開くクラス会

鳥取市 岸本孝子

梅雨明けを確かめ梅の土用干し

惚けぬよう趣味の梯子はいい薬

ギラギラに朝の散歩もままならず

今はもう一番楽なスニーカー

地球汚し暑い寒いと不足言い

鳥取市 田賀八千代

不協和音母の笑顔に溶けていく

花ビラが一枚欠けてまた一人

笑つていよう最終章もあとわずか

しあわせの形でトマト熟れていく

無農薬戦に勝てぬプチトマト

鳥取市 池澤大鯨

鳥取市 谷 口 回春子

鳥取市 山 下 凱柳

アブラゼミ網戸に止まり何語る
涼求め行つたり来たり二十坪

頑張つた証はいつも蚊帳の外
愛妻が時々夢に出るという旧友

隙間風涼しさ運ぶ時もある

鳥取市 永 原 昌 鼓

時々は虫干しするか老いた脳
句作りに追われ寛ぐ暇も無し
十七音の言葉の裏の心読む
怪しげなネット情報つい聞く
包み紙だけは豪華なお中元

鳥取市 吉 田 弘 子

台本はないがどうにか生きられる
いい話自然に頭下がります
仕返しをしても心は晴れぬもの
あれもこれも時代遅れでついて行く
する事のない一番辛いこと

鳥取市 中 村 金 祥

好き人の声キヤツチする空耳よ
やさしさが今ボクには安定剤
猛暑続く朝の冷気の草むしり
知恵くらべ私を笑うカラス達
私が番号になる診察券

倉吉市 大 羽 雄 大

イキイキと生きる構えが薬です
古希の坂守りに入る事はせぬ
お守りは貴方心配せず暮らす
経験をさせてくれる超豪雨
何事もなくて静かに床につく

鳥取市 福 西 茶 子

でもというヒマがあつたら一步出る
泣き落しまではしないが拗ねてている
読みすぎて隣遠くに置いている
軽くすむコロナ六回目の効果
ヨシヨシと力をこめて言うばかり

境港市 藤 原 久 直

頼もしさよりも優しい人の横
飲んだ水ほどトイレに通わない
三回忌まだまだ迎え要りません

猛暑日も食欲だけはちゃんとある
暴走と度胸は母のDNA

鼻歌は何時も昭和の流行歌
我が町も花火打ち上げ五千発
ネタ探し類語辞典は離せない
蝉たちよ一緒に昼寝しませんか
エアコンで命を守る熱帯夜

— 28 —

米子市 池田美穂

米子市 妹能令位子

第五類コロナは無視と決めたんだ
止めたのにまたぞろ増えてるサプリ
あの国の人とみごとな隊列よ
ビール缶見られぬようにゴミ捨て場
豪雨に日照り天は忘れた匙かげん

米子市 伊塚美枝子

流行の家に仏壇ありません
流行り服私のサイズ拒否をする
行列で待つほどの舌持てない
マスク義務解除で困る法令線
夏草に立ちむかうからまだ元気

ひまわりの黄色も暑いこの猛暑
猛暑日の連続記録まだ続く
日本一最高気温今日は何処
雨降れと猛暑の空を見て祈る
猛暑にも負けずパワーでゴルフする

米子市 後藤宏之

朝のうち畑に水をやつておく
西瓜の皮乾燥させてから埋める
ストレスを溜めない服を着て過ごす
猛暑日の安全守り家に居る
覚悟するどうせあの世はひとり旅

米子市 成田雨奇

節約と贅沢ちょうどいい加減
てるてる坊主返事は見てのこの雷雨
胃カメラの返事ムニヤムニヤ要注意
国債発行いつまで続くやら
新しい友はラジオがよさそうだ

米子市 後藤美恵子

流行はぼくの美学に合わなくて
流行に乗ってコロナになりました
先頭で前へならえと声かけた
爪切つただけで終った暑かつた
閉めた戸をまた開けて見た消していた

米子市 野川宣子

反感を買う天下りもう古い
噛み甲斐が一味違うひとに会う
選挙カーちょっとと過疎地を賑わせる
三回忌姉の形見が身になじむ
亡き姉の匂いが残るネックレス

字余りも字足らずもあり指を折る
「はいります」流行つていいよ我が家でも
勝ち組の列で私が一人浮く
ミニ・ブチもアイコも並ぶ道の駅

鳥取県 門 村 幸 子

鳥取県 山 下 節 子

親の恩時がたつほど身に沁みる
三年分の力爆発夏祭り

ペダル漕ぐ汗びっしよりのヘルメット
髪結えぬ伯桜鵬よくやつた

激辛ラーメン本気ですする夏挑む

鳥取県 斎 尾 くにこ

よく笑うたつたひとつ得意技
おもてなし今日は私がわたくしを

野線を飛び越えていく手書きメモ
キャッシュレス自主練をせぬ脳となる

フルトップすぽつと開けてアゴ竹輪

鳥取県 竹 信 照 彦

砂の上素足で歩くサラサラと
芝生歩くフワフワ靴で踏みしめる

林歩く枯葉サラサラズック靴
風呂洗い十年位ボクの役

詩吟詠う腹の底から声を吐く

鳥取県 本 庄 ひろし

欲も無く気まぐれだからつき合えた
サジ投げた芸を覚えぬうちのボチ

この腹はビールのせいだが止められぬ
叶うなら復活したい二十代

遠回り酔いもさめたしもう一軒

目を合わすただそれだけで意思通う
仕返しを気にしていたら進めない

BGM自然に体動き出す

真つ青な空の向うは宇宙基地
一日を時計の針に左右され

松江市 藤 井 寿 代

松江市 松 本 知恵子

トマトもぐグリーンシャワー浴びながら
千客万来蝮ムカデにスズメバチ

物価高湖上花火も有料化
クーラーつけて一日野球見る贅沢

墓仕舞私と夫散骨で

松江市 松 本 知恵子

四年ぶり花火明るい夜が来る
穴道湖の魚よごめん花火の夜

酷暑なり夏に初めて痩せました
梅干してすつきり軽く一区切り

初盆の辛さ句友の顔浮かび

出雲市 伊 藤 玲 峰

どうしよう どうしましようか うろうろと
話し相手途切れぬよう側に居る

楽しい話で食べさせましょく好きなもの
病室に友達が出来お蔭様

美味しいもの戴き分け合い笑い出る

安来市 原 徳利

岡山市 前田 恵美子

鹿之介忍ぶ月齢カレンダー
心臓を鍛えるノーアウト満星

おいお前幼馴染みの犬と猫

爽やかに揺れよレインボーフラッグ
点数付けられぬ今どきの子供

岡山市 大石洋子

岡山県 高岡茂子

寛解の友の安堵の暑中見舞い
毎日を不要不急に生きている

優等生は昼寝するにも気を使う
昼寝して初期化ならぬかこの老軀

省エネの水まき高い水道料

岡山市 丹下凱夫

岡山県 田中恵

ジヨギングの美魔女にエール送り 夏
万歩計忘れて損をした気分

風景を一変させるゲリラ雨

木槿咲き百日紅咲く今朝の窓
風の道なのかヒマワリ カンナ咲く

岡山市 永見心咲

岡山県 藤澤照代

むくむくと旅恋うココロ雲の峰
寝転んで十年先を語る雲

展開図さてこの後をどうたたむ
目薬を下さい明日がぼやけます

二の手打つ駱駝の背なで揺れてから

猛暑日は日傘をさして陰歩く
お犬様クーラー「弱」で生きている
老犬介護クスリ飲ませてオシメさせ
野菜たち守る水やり日が暮れる
台風は来ないで雨よ降ってくれ

ばあちゃんの団扇で昼寝した昔
汗拭く紫蘇ジュースの氷ゆれ

大雨予報思い出させる五年前

マスク外れ友の笑顔が久し振り

今日もまたメモした紙を捜して

かけ引きを知らぬ笑顔が美しい
一筋の涙のあとがわかない

花一輪差して心を和ませる

やさしさが心にしみる八十路坂

四面楚歌遠くに聴いた子守唄

火加減は団扇で饅焼き上がる

お茶漬けが独りの音を立てる昼

風化してはならぬ原爆ドームの灯

猛暑日に訪ねて欲しい雪女

何もかも沸騰はじめ夏は病む

広島市 岸 本 清

三原市 笹 重 耕 三

優しさにナイーブになる老いの坂
武力ではこの世に平和訪れぬ

炎天下日陰を探し遠回り

水を買う昔は思いもしなかつた
ビッグモーター今の世の中垣間見え

尾道市 小 川 道 子

愉快に駆け引き今日の雲の流れ
レツツゴー何があるうと無からうと

あら不思議あれから風がタクト振る
ミラクルな出逢いだつたよなあ亡友よ
インプット過ぎゆく日々が褪せぬ間に

尾道市 小 畑 宣 之

去り逝ける友が懐かし八十路坂
願い事八十路になれば安楽死
八十路坂口は出さずに汗をかく
あれやこれ汗かくことが健康法
爺さんはいくつになつても軽い腰

竹原市 岩 本 笑 子

友達の友達が来てたそがれる
たくさんの人と会つてた墓参り
あの人もこの人もいて花だより
大会誌届くこんな私の手もとにも
友情が友情を呼び花が咲く

雨降つたり止んだりほんやりと過ごす
ここだけの話に猛暑日が宿る

夏休み受験へ切り替える球児

国境線たどると不条理な戦火

ショベルカー見ると子どもになる後期

高知市 三 谷 松 太 郎

テレビ見て笑っています吠えてます
これでもかまだこれでもか噛んで噛み
よさこいの踊り尽きない夕囃子
初鳴きの恥じらいつつも庭のセミ
ネジバナの律儀なことよ左巻き

土佐清水市 辻 内 次 根

蝉の声着信音と間違える
幸せはお風呂上がりのバスタオル
フランス語ひとつ知つてロゼワイン
ねばならぬ所を少しだけ曲げる
蝉しぐれ今日も朝から風がない

阿南市 小 畑 定 弘

あの世からしきりに妻が呼ぶのです
花からの視線を浴びる老いの庭
老いとても恋に会う日の髪を剃る
何時だつてレジはこの娘と決めている
風流なお人でしたと盆の僧

松山市 栗田忠士

一雨は欲しいが台風は困る

野放団に伸びて可憐な葛の花

側に居るただそれだけでいいんです

辛も苦も溶かしてくれる君が居る

まつすぐに描けなくなつた手を擦る

松山市 古手川 光

台風まで沖縄苦しめる無情

温暖化招いてるのはヒトのエゴ

このままじややがて辞書から「四季」も消え

あれもこれも値上げ血圧まで上げる

御巣鷹山想い出してと盆が来る

松山市 宮尾みのり

キラキラネームの人も川柳するだろか

ふるさと内子 塔の表紙は面白い

いい顔になつた頃には皺も増え

割り切つたつもりへ情がからみつく

団体で売るタレントの同じ顔

松山市 柳田かおる

朝のうつ上手く焼けないタマゴ焼き

ノンアルで酔えるんですよ嬉しい日

拘りを捨てて時代の風にのる

存分に咲いて器に拘らず

大物になるには線が細すぎる

今治市 安野かか志

それぞれの思惑があるデモの列

梅雨明けにいっぱい貯まる農作業

早苗田をおそう田螺の不埒もの

騒がしくカラスの声が朝を裂く

腹ペコの猛禽類になるカラス

西予市 黒田茂代

六月の終らぬうちに女郎花

手術後はどこへ行くにも背にリュック

ゴミ出しも月二・三度で済む独居

これから何年一人の食事続くのだろ

もう乗らぬ自転車車庫で所在なげ

西予市 西田美恵子

無かつた事にしてねスイカを召し上がれ

ふと意地悪をしたくなつたの天気雨

霧の中聞きと無い事聞かされて

この町しか知らぬ喜寿はもう近い

星空からこぼれて君に抱かれたの

北九州市 小松紀子

逢いたい抱きしめたい黄泉の二才

暑中お見舞愛犬にクーラーを

前向きな心おしゃれでどりもどす

夏野菜向こう三軒おすそわけ

猜疑心強い人とはつきあわぬ

福岡県 本田 さくら

宮崎県 黒木 栄子

わたくしの心置きざり時すすむ

散歩道小さな花がまた来たね

かわいいなピヨンピヨンはねる蛙の子

鏡みるなと思つたしみボツン

核兵器なくす運動わたくしも

唐津市 坂本 蜂朗

札幌市 小澤 淳

シャキシャキのつもりが今日もけつまづく
凹んでも五七五に支えられ
レトルトへ一味足してシェフの味
枯れ枝もマムシに見える生息地
そつと来てぬつと顔出す夫の友

年ごとに妻の命令ストレーント

親を越え異郷に生きる子が二人

自慢の子いるのに誰も聞きもせず

手を握ることも出来ない愛でした

熱帯夜ゴキブリ見ないのも不安

シャツ出しが流行り令和が着膨れる

初採れヘレタスピーマン茄子トマト

死に方を選べぬ老人の避難

戦争の混沌老いを脅かす

世界平和国の悲劇の上に立ち

熊本市

杉野羅天

黒石市 石澤はる子

半年は雪の話を主題にし

成長にグループもありボスも居る

核ボタン押すか押せぬに評論家

親と子になつた不幸も喜びも

先立つた友に逢いたし夏の雲

一日のリズムが狂う休刊日

ふる里にようやく響く笛太鼓

日に一度私のことも褒めてやる

地味すぎて形見の着物出番ない

心して水分補給今日も暑い

熊本県 岩切康子

黒石市 北山まみどり

災害予想備品月日をチエックする

取立てを毎朝膳に盛る幸せよ

年重ね夫の援助が身に沁みる

リハビリを終えて明日から村暮し

飴玉もかまずにおれぬ私の歯

弘前市 稲見則彦

バッカスが囁くのです断れぬ
古日記誤字脱字には参ります

マドンナも十人十色クラス会

盆踊り昭和も遠くなりました

ヤーヤドオーネぶた今年は熱かった

塩竈市 木田比呂朗

食欲に体力維持という理屈
長風呂は迫る締め切りへの備え
ああゲーム優先席を独り占め
保険証ペーパーレスを拒絶する
敬遠を妻に教えたショータイム

男鹿市 伊藤のぶよし

生きてます夏には夏のナマハゲと
転んでも青空つかみ立ち上がる
来い来いと呼ぶ声のする向こう岸
一氣には盗んでいかぬ前頭葉

乙で粹唐辛子なら七色で

上尾市 中村伸子

夏空に手本のような入道雲
スイカ派ですかメロン派ですかアンケート
吾娘の街暑さ日本一のニュース
微熱ですでもコロナかと怖いです
何故でしよう元教師かと聞かれます

花火師の腕を競つて隅田川

四年ぶり日本の空は大はしゃぎ

朝ドラをパントマイムにしたバイク

辛うじて翔平さんで気が晴れる

炎天の手摺に触れた手が逃げる

東京都 川本真理子

おだやかに見返すという処世術
ピッチャーの影伸びてくる五回裏
亀の努力諦めずまだやっている
雨なんか降らぬと言う背見送つて
皆それぞれ自分の風を待つている

八王子市 川名洋子

四年振り猛暑蹴飛ばし夏祭り
妻の手から飛んだつもりが手の中に
断捨離の手を休ませる古写真
隅っここの椅子で順番待つて
おいてけばりは食らわぬとスクワット

横浜市 川島良子

地球沸騰化干物になつた夏の陣
逞しくなつたばあばをホッとさせ
失敗の数と笑い合う思い出
何とかなる何とかなつて生きている
老いの恋明日のことはケセラセラ

朝霞市 前田洋子

波蘿草の花

(10)

野沢省悟

「川柳触光舎」主宰

朝一にゴクゴク生命へ水を飲む

川崎ひかり

「生命」がイイ。重く堅い言葉であるがこのように句に使える。年々暑さが厳しくなつて来て、今年も猛暑がつづく。寝ていても汗をかき身体の水分が減つてゆく。朝起きてマズ一杯の水を飲む人は多いだろう。

ワタシではなく、一匹の生き物としての身体に水を飲ませる。猛暑がワタシが生き物であることを実感させてくれたのだ。

まだ明日があると思つてゐる惜眼

辻内次根

退職すると、時間に余裕ができる。はじめは張り切つていろいろなことをするが、それも一時のこと。川柳はつづけているが

四六時中、川柳をつくつてゐるわけでもない。ついつい昼寝をすることが増える。昼寝は気持ちイイ。でも一日酔いのように何

か後ろめたい。それがこの句から滲む。でも、これまで長い間働いて苦労してきたもの、昼寝したって、ゆつくり寝たつていいと思う。人生のお駄賀だと思つて。

バタンキュー僕はしあわせなんですね

内藤憲彦

山田葉子

幸せとは何かを考えるとなかなか難しい。だが作者は、疲れ切つてしまふことが幸せだと喝破した。仕事やスポーツか、あるいは大変な事の後か。布団に横になり、朝寝たことすら忘れて目覚めた。その目覚めの時感じた、充実感。バタンキューといふオノマトペが旨い。

くもの巣に一番星がおちてくる

酒井紀華

山田葉子

微妙な心境の句。一番星は作者のたいせつな夢か。その夢が落ちてゆく、それも蜘蛛の巣へ。ゆつくりと落ちてゆく夢を、やわらかいがあやうい蜘蛛の巣が受け止められる。まだ落ちてしまわない夢。作者の瞳に、蜘蛛の巣がキラキラと輝いた。

独裁者核と添い寝で見る夢は

中井萌

こちらの夢はキナ臭い。八月のヒロシマ、ナガサキが今年ほど身近になつたことはな

梅雨に猛暑納得の上膝痛む

山田葉子

高橋敬子

行き先は階段坂のない名所

高橋敬子

「膝」、歳を増すたび痛みを訴える人は多いでしょう。僕も時々痛みます。文代さんはようになかなか納得できない僕は、文代さんをたいへん尊敬します。膝のため旅行先を考えることになります。どこに行つても歩きますから。ここは発想を変えます。膝が痛くても行ける所を名所にすればいい。例えば句会場とか大会場とかね。

いだろう。「添い寝」という言葉に込められた作者の思いは、批判というより恐怖であろう。その恐怖を世界中の人が共有している現実。

お金とヒマと二つ揃つたことがない

英語 de Senryu ⑭

麻生葭乃 『福壽草』 (1955)

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

パトロンへひけめ感じる兄を連れ

*take my brother
who feels inferior
to my patron*

パトロンへ妹の靴もたのんどき

*now is a good time
to ask your patron
to buy your sister's shoes*

take 連れて行く *brother* 兄弟(兄) *feel* 感じる *inferior* 劣等感 *ひけめ*
patron パトロン *good time* 潮時 *ask* 頼む *buy* 買う *sister's shoes* 姉妹(妹)の靴

～リバーウィローのため息～⑬ 吉村侑久代詩集『めぐる季節 Greetings From The Four Seasons And Each Month』(JUNPA BOOKS 2023) 日英バイリンガル版

タイトルにあるように四季12か月にちなんだ詩、俳句を収録した吉村の作品集である。作品を纏め、出版に至るにはさまざまな動機があるだろう。私の場合は度重なる業病との闘いや、傘寿を迎えるにあたり自分を冷静に見つめ、自分を奮い立たせたかった。故郷のことを詩で表現してみたかったが、重くならないように書くことは難しく、俳句の凝縮した形の方が肩の力を抜いて書くことが出来た。

雨蛙 / 揺れる木の葉で / 我が家を守る / その威厳のある態度 / その孤高の姿 / 修行僧のごとし / 每朝 / 窓越しにのぞき見をして / 机の上にある / わたしの書き物を / 静かに / 読んでいる / 雨蛙
a small tree frog/ protecting my house/ on the swinging leaf/ his aloof figure/ his dignified manner/ he is like an ascetic priest/ he peeps/ through the window/ and silently reads/ my writings on the desk/ every morning/ Mr. Tree Frog (夏のご挨拶)

また今秋も / 彼はあの曲を / サックスで吹く / いつも同じ音を / はずしても気にしない / 半分耳を閉じ / 半分目を開けて / わたしはうさぎのように / 林檎をかじっている
this autumn again/ he plays the saxophone/ same notes he misses again/ he doesn't care/I nibble an apple/ like a rabbit/ closing my ears half/ closing my eyes half (九月のご挨拶)
立春や忘れ物した気配あり *the first day of spring.../ I feel like/ something lost*
三日月は亡き親たちの遊覧船 *the crescent moon/ sightseeing boat/ for deceased parent*
麦秋や戻ることなきこの刹那 *wheat harvest.../ this moment/ no return*
断捨離は夢のまた夢冬苺 *all things thrown/ my dream forever.../ winter strawberry*

誹風柳多留一三篇研究 38

伊吹和男・高野範雄
山田昭夫・小栗清吾
細井龍夫

清 博美

305 上の句ハカめきくとよし時が事

伊吹 百人一首にある後鳥羽院の、

人もをし人もうらめしあちきなく

世を思ふゆゑに物思ふ身は

から。鎌倉幕府との軋轢の中で詠んだ一首で

ある。上の句の「人もをし人もうらめし」の

人もをし（人がいとしくもあり）が寵愛する

亀菊で、人もうらめしが北条義時だというの

である。

この歌を詠んだのち後鳥羽院は承久の乱に

敗れ、隱岐の島で没した。

人もおしとハカめきくが事と見へ

清 賛。

307

いにえのおやは手あしてなげく也

清 賛。

—雨譚註・縁の下の力持 松前也

安四仁₃

306 きんてつの侍ゑんの下タに居る

伊吹 伊達騒動ものの松前鉄之助。金鉄は文

字通り金や鉄などの金属であるが、堅固で

しっかりといることの例えでもある。鉄之

助の鉄に利かせているのは、言うまでもない。

幼主亀千代を縁の下で荒木和助から護つた

忠臣鉄之助。

ちうしんハたとへにもれたちから持チ

東京都世田谷区次太夫堀公園に、江戸後期

の穀物蔵として利用された旧秋山家土蔵がある。移築復元されたものらしい。以下はネット検索からの引用。

土蔵本来の屋根の部分には粘土を塗つて

あつて、その上に茅葺屋根を置いている

だけなのだ。粘土はひび割れが多く、耐

火性はあつても屋根に使用するにはいさ

308 かやぶきの土蔵を庄屋ニツもち

伊吹 茅葺屋根の土蔵では、火災のときなど

役に立たないから、田舎蔑視の句だという意

見がある。いくら田舎であっても、火事や盜

難に弱い土蔵を建てるはずはない。この解釈

こそ田舎蔑視である。

手那槌感心ノ無造作な二ト夜酒 一四五五

清 賛。

「僕が名は足名椎と謂ひ、妻の名は手名椎

と謂ひ、女の名は櫛名田比売と謂ふ」と

まをしき。

などとある。

伊吹 須佐之男命の大蛇退治から。大蛇の生贊となつた櫛名田姫の父母の名が、足名椎と手名椎であつたから、手足で嘆くと表現した。「古事記」に、

さか不安である。そこで考へ出されたのがこの「置き屋根」と言うわけだ。火事で屋根に火がついたときは「置き屋根」だけが燃えて土蔵は安心なのである。

それで、何が面白い句なのか判らなくなつたが、町中に住んでいる者にとつては珍しい、

田舎風の茅葺屋根の土蔵を三つも持つてい

る、裕福な庄村屋である。

高野 茅葺きの土蔵が粹とも思えない。田舎蔑視の句だと思います。

山田 賛。江戸では享保以来瓦葺きの屋根は

普及していましたから、いくら何でも茅葺きの屋根の土蔵は無かつたと思ひます。

小栗 賛。ネットの説明の如きものならば、

实用性と美観を兼ね備えた名作で、蔑視されるものでは断然ない。「田舎風」とはいえる

だらうが。

清 賛。ネットの説明が本当であれば、小栗説と

まったく同感ということになる。

主題句は、江戸の作者が、実態はともかくとして、庄屋の裕福であろうことを想像しただけの句。

309 しんだ跡扱かわりてのその多さ

伊吹 美人の若後家に、亭主の代わりになつ

てやると申し出る男の多いこと。
若後家の兔角力になりたがり 八九三三
清 賛。

310 代みやくに聞ケばくすりとめし斗

山田 賛。

おとり子の兄ハ御帳について居る

とある。
鼓が上手、一人姉さま鼓が上手、一人姉さま下谷に御ざる、下谷一番伊達しやで御ざる、

明四智七
安五宮三

伊吹 代脈は、医者の弟子。医学に未熟であ

るから、患者あるいはその家族が病状を尋ねても、薬を処方通りに飲みなさいとか、食事

はとり過ぎないようとか、わかりきった回答しか返つてこない。

代ミやくハおなじかめしも喰ふなり

老 (?) 御めかけの老人アに様はき、なり

大口をきくのが後家のすがれなり

安八智四

伊吹 末枯れは、なれの果て。亡夫に操を立てるとか、男に未練はないとか大口を叩くのは、もう盛りを過ぎた、男が気にも留めない

老 (?) 後家である。

後家の髪此世で遣ふほどハ置キ

一二三九

山田 礎でもよいと思いますが、大口は「(2) みだらな話。猥談。おおぐちばなし」「(日国)」の意があり、老後家 (?) にふさわしい。

小栗 「大口」は、山田兄説の通り。そう解して面白い句。

ちなみに「三篇のまとめに、ひとり兄さまは、手鞠唄の一人姉さまの援用だとある。すなわち『宝曆現来集』(卷之二十一) に、

おらが姉さま三人御座る、一人姉さま太

清 賛。

自選集

小島蘭幸

木本朱夏

等身大の私に還る里の風
疣ひとつ悪人顔になつてきた

夏籠りふわりふわりといる作務衣
カープ坊やのバットは赤い羽根でした
赤い羽根とカープのコラボ着て飛ぶか

川上大輪

新家完司

ジ・エンドから始まつた物語
足跡を辿ると父に突き当たる
猫の耳噂話を溜めている

誰にでもある幸せの裏表
ホカ弁によるごと地球詰めてある

北野哲男

高瀬霜石

寺の鐘ご恩ゴオンと響くなり
分らんが静かに聞いているお経
老い二人ステージ2の物忘れ
不眠症昼夜二時間出来るらし

白寿から三途の川は屋形船

暴飲暴食ときどきバリアフリー
転びそうもないところでばっかり 転ぶ
風呂ビールそしてほんとのボクになる
認知症がんに糖尿病クラス会
74歳4センチ縮まつた

津守柳伸

福士慕情

朝顔の蔓に格闘強いられる
3種類競うて蟬のハーモニイ

妥協せずプラン通りに進む旅
木漏れ日と川風貴船回顧録

買い溜めたマスクへ自問自答する

西出楓楽

藤村亞成

曾遊の地ラハイナの火事胸塞ぐ
ト一横もグリ下の子も闇を抱く
絵に描いた餅も時には食べてみる
八十五もうルビコンは渡れない
近く住み遠く感じる孫一家

仁部四郎

松本文子

感性に栄養つけている読書
しばらくはスマホを持たず知る自由
パワフルな人道雲が頼もしい
タイヤ焦がし炎天下に墓参り
空蝉になつて猛暑に閉じ籠る

窓開けて世間を見れば好奇心
ブツブツと何か言つて的好奇心
好奇心国会中断テレビ点け
好奇心探して2級ウイスキー
好奇心それが杖です卒寿坂

平田実男

三浦強一

錦などないがふる里温かい
久々のハグ老妻を喜ばす
ピンポンでコロリ喜んでる身内
横で寝る妻の鼾が子守唄
訛りつていな絆を太くする

A.I.も分かりつつある人間味
コーランとバイブル神も戦好き
ただ析る平和憲法いつまでも
増えてます五臓六腑の修繕費
平等に神がくださる老病死

村上玄也

分断の亀裂広がる世界地図

急いでも急がなくとも来る最期

年老いた妻が無邪気に見えだした

無愛想な店員がいて買う気失せ

早朝から何か急かせる蝉の声

森山盛桜

断捨離をしたら空っぽ頭陀袋

何ピース足りぬかジグソーの地球

何某と呼ばれて底辺を生きる

造反は考えもせぬ辞書の文字

山本希久子

起きて立つ腰の痛みに耐えながら

茄子の煮びたし夏をどうにかやり過ごす

八月忌声高に読む第九条

夏の夜の夢ねぶたまつりの跳人とぶ

耳底に津軽三味線鳴りひびく

居谷真理子

碎け散るその一瞬の美しさ

月光がレールの傷に降りそそぐ

居酒屋の氣炎と蟹が吹く泡と

うたかたの命ぬくめてくれる酒

国道を牛が運ばれて行きます

川柳

(つづき)

横浜市 菊地政勝

温かい助言こころに刻まれる

色褪せた夫婦茶碗に見る苦勞

情報の過多へ判断遅れ気味

クラス会やんちやな過去を洗い出す

断捨離にされず古着が日の目見る

先人の教訓またも繰返す

空襲を知ってる人も減りました

元気を出せ元気を出せと蝉が鳴く

自己診断は夏バテ体重減らんけど

元気を出せ元気を出せと蝉が鳴く

生きてたのね言ったあの友先に逝き

(前月分) 神戸市 山口美穂

山口美穂

「川雜」語録

(25)

水族館

麻生葭乃

空が水色になつて暮れて来た
窓の外にも水色が流れてゐる
水色の中を電車がゆく

自転車が走る

何とせはしない水族館でありますこと

(「川柳雑誌」大正14年1月)

句集の森



『わらじ酒』

小に西無鬼

ぶらついただけの夜店で草臥れる
よほよほでまだ銀行に出入りする
コンパクト仕舞えば返事らしくなり
首相より豊か朝昼夜と飲み
捨てられていても咲いてる菜種なり
萌え出づる若葉が老いの目に痛し
禪僧に似て瓢箪のぶら下がり
此処までが私とこの門を掃く
不便さは足袋に右足左足
幼稚園の列と帰った日の和み
ガンジーに似た人も居て旅の汽車
肝腎の孫が動いている写真
なめくじのこう這いました跡をつけ
とんび今餅を見つけた輪を画く
墓石の凹みに眠る雨蛙

(昭和58年5月26日発行、川柳塔社)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

我が家では妻の口から天の声
慌てるな米がなくなることはない
再婚の妻をお前と呼べぬまま
辞令には一行 都合により解雇
まあまあのまあというのが気にいらん
わくら葉が残り若葉が散る無常
生老病死 起承転結にも似たり
祝儀より不祝儀多く歳暮れる
老犬の蹠蹠として行く枯れ野
編集者冥利につきる八〇〇号
七十の坂はゆつくり歩むべし
一つ許し一つ甘えて夫婦かな
気がつけば三日忘れていた日記
攻めるより守る戦がむずかしい
人の世に旅立ちがある生と死と
義歿はずす武装解除をするよう
銀杏散る私が消える日を想う

川上大輪選

久煙丸

大阪府 奥野 健一郎

気が付けば半分嘘をついている
し忘れた古新聞のパズル解く
似た人にまたすれ違う夕間暮れ

和歌山市 西川 千鶴

旅の目で見ればのどかな無人駅
禪寺の廊下修業の黒光り
諦めることでバランスとっている
聞くだけと言った話にのめり込み
せかせかと孤独行き交う交差点
栄華とはあんなものかな遠花火

大阪市 吉積栄次

悪魔の誘いには弱い私です
喧嘩したその日のとても長いこと
野良猫と目が合うヤバイ泣きそうだ
追伸の文字に覺悟の筆の跡
嘘ついた私に月も素つ気無い
お世辞にも旨いと言えぬ店に列

鳥取市 山野 すみれ

鳴きすぎる虫の知らせが懐疑的
グレたのは別れた親のせいにする
何時だつて個性的だと評価され
文字乱れ泣いていたのか古日記
一言も聞き洩らさぬと耳掃除
人生の荷物を下ろす骨密度

大阪市 森田遊子

茶葉開くように言葉を待つている
食い眠りその他に何をしただろう
灰汁抜きをすると私が消えてゆく

ひと言を引きずりながら日が沈む
秘密まで全ては知らぬ方がいい
花畠子供も蝶になつて飛ぶ
検査した奥歯に物がまだ残り
風車楽しい風を待つて
仲間にはなれそうも無い浮いた位置

船橋市 中嶋常葉

棘を抜くバラ色だけの巡り合い
甘い汁ほんの少しで良かつたの

蝙蝠の挑戦いつだつて本気

絶対に君を守ると熱い嘘

幻覚の狭間にポトリ恋に落ち
さようなら数え切れない向こう傷

豊中市 齋藤奈津子

昭和の絵日記驚いていた三十度
ピサの斜塔カメラ傾け建て直す

陽が西にカラス鳴くまで立ち話
髪染めて母は待ってる子の帰省

古日記すべて許してシュレッダー

犬を見てハッと気がつくお知り合い

府中市 岸田武

見るたびに笑いをかえす向日葵よ
花瓶にも水を一つ入れてみた

かぶせても孫は帽子を投げ捨てる
ステテコの膝に広げる広辞苑

おすそ分けほんの少しがいいのです
朝顔を妻と數えたころもあり

ひとときの心の揺れも見抜く友
反射する角度にいつも妻がいる

今の子は王長嶋を語らない

尼崎市 八木幸彦

ひとときの心の揺れも見抜く友
反射する角度にいつも妻がいる

今の子は王長嶋を語らない

台風が接近身体は動かない
落雷をとどめに去った通り雨

ふるさとにまだ気がかりな人がいる

奈良県 室田行久

相手立て謙虚さ滲む受け答え

初手はお茶緊張解す老獴さ
正論を大人の事情押し潰す

長寿国なつて若者増す負担
防衛費膨らみツケは増税で

皆黙る話の種はオレらしい

海南市 山中閑

神戸市 酒井宏

もつともつと採つておゆきと茗荷の子
ああ暑い喉元ならしラップ飲み

水出しの煎茶を日ごと暑気払い
流れ星逝つた弟ふと過ぎる

憧れの貴船川沿い鮎匂う

ひとり来て河鹿の声を聴いている

A.I.に恋の手ほどき訊いてみる

痴呆かな小言いわなくなつた妻

相伴の妻はもっぱら赤ワイン
盤上に扇子が踊る高段者

片陰を歩けば消える影法師
反省会まず乾杯と呑むビール

大阪市 池野 恵美子

大阪市 阪本秀子

公園の木陰の車昼寝どき

土用の丑手の届かないウナギの値

勉強は出来たが世渡り下手な人

難聴に春夏秋冬虫の声

あちこちが痛いというが口達者

大阪市 今村和男

大阪市 中村峰子

朝顔が聞き耳立てて二つ三つ

誰にでもいい顔してマンホール

そこそこに正義の味方いた昭和

聴くたびに途中で止まるオルゴール

信号の青が続いて休めない

大阪市 岡田恵子

大阪市 松田聰

老い二人まだ出来ること箇条書き

応援歌に聞こえる今日の蝉しぐれ

口パクもオッケーシニアコーラス部

ジグソーのピース剥がしてゆく試練

母からの着信履歴五分ごと

大阪市 久木野孝治

大阪市 森廣子

愛という寿命はまるでシャボン玉

何事もただしを付けて逃げている

再雇用三時頃から鼻毛抜き

里のどかコンビニ遠し街恋し

ぬけぬけと光泥棒隣りの木

行過ぎの恋にアラート鳴っている
懐かしい感じじ時代ワープする
足あとに努力の成果のこせるか
搖るぎない不戦を誓う原爆忌
盆供養父母の好物てんこもり

かなんなか助けた猫はわがままだ
次々と理解できないこと起きる
無宗教倫理はどこで学ぶやら

猫が逝き旅のパンフを吟味する
物忘れ日々増えてきた慣れてきた

血圧が上がるニユースが多すぎる
歩きスマホにぶつけられたが知らん顔
お互いに介護する気でいる夫婦
飼主に何故か似てくる犬と猫
孫帰る手を振り祖父母ホッとする

大阪市 森廣子

池田市 倉本一弥

ゆつくりが身体に見合う歳となる

免許返納決めかねて三年目

電動のママチャリ飛ばし過ぎでつせ

どんどん飲むぞ夏だビールだ屋上で

泣きごと言わん大黒柱だからです

泉大津市 助川和美

程々に手を抜き暮らすこの暑さ

押し入れにかくれそのまま寝てしまう

世話やける人なんですよ嬉しそう

利子つかぬ貯金に愚痴がついてくる

何事も夫に染まり五十年

泉佐野市 榎葉良子

アンケート全て普通に○つける

何が要る医者に薬を問われても

物忘れ増えた分だけ友が減る

風向きに合わず自分がいやな時

気配りがちょっと重荷の時もある

柏原市 神崎江

お先にとどうぞで交わす山の道

何もないけれどそばには君がいる

わだかまり溶けないままに母は逝き

さじ加減できずまたつい口を出す

チエロの音に私のこころ溶けていく

交野市 山野双葉

ワクワクがもう弾け出すリムジンバス

苦瓜の種赤々と夏熟す

拾う神になりたくて行く譲渡会

この星の賞味期限が迫ってる

灼熱の地球の叫び肌で聞く

河内長野市 穂口正子

粉ミルクのほんのお返しユニセフへ

コロナ禍が幻にしたフルムーン

自慢話畏れ入るまで聞かされる

ゲリラ雷雨稻妻描くイリュージョン

ハリマオが現われそうだ夏の山

吹田市 岩口のぞみ

大谷の試合に合わせ起きる朝

三年ぶりマスクの下はそんな顔

いろいろが思い出される家のキズ

照りつける陽は紫陽花に似合わない

三人席あいだ座るは勇気いる

摂津市 野々村レイ子

欠点を隠す私のおしゃれ服

目に見えぬ信頼という太い糸

七十路はシミしわチャームポイントよ

忘れない草心の奥に恋しざく

この旅の終着駅を知らぬまま

高槻市 三 谷 白 黒

東大阪市 青 木 隆 一

この齢で生命保険要りません
何もかもA.I.に負けてガラパゴス
姉逝つて妻を大事にしはじめた
耳遠く口論することありません
国営の放送局は怪しいよ

豊中市 貝 塚 正 子

しつけ糸一気に抜いて正座する
修正液塗つて事實を白にする

箱だけが残る高級ウイスキー
しなやかな猫の体に嫉妬する
老猾なオーラを放つ老いた猫

羽曳野市 黒 木 ひとみ

何気ない子の一言で元気出る
老木も木肌すべやか猿すべり
人情の溢れた昭和遠くなり
早朝の蝉の鳴き声目覚しに
久方の雨に心も潤いて

東大阪市 青 木 ゆきみ

頼りない奴を頼りにする私
好きな色白です腹は黒いけど
長いもの自慢話と鼻の下
通りやんせ聴いて眠れぬこともある
難しい話は無用立ち呑み屋

大阪府 浦 上 恵 子

あいさつのひと声相性を探る
虫の音が追い立てている蝉しぐれ
線香がお隣りからも匂う朝

知人から友へ昇格する月日
値引き品見つめて献立の思案

神戸市 米 田 利恵子

アイディアが満載散らかった机
味をしめ右や左に辞書スマホ
コーヒーは冷めるがアイディアは沸騰
O.B会女盛りに戻ります
ぬかるみもあったと友が話しだす

神戸市 田 本 古 鈴

損得の天秤今日は冴えている
両天秤かけてどちらもキープする
唐揚げに心動けば正常値
ごめんねとどちらが言うか根比べ

シーソーは心の重さ加味される

蝉唄うマイク放さぬ人のよう
酒タバコやめて人生樂しいか
生きていてまた会える日を待ちましょ
う天と地のはざまに浮かぶ人の夢

一生を悔いなく生きる難しさ

神戸市 みぎわはな

駅ピアノ騒音としか聞かぬ耳
早口で喋る歌にはついてゆけぬ
美しいメロディー懐かしい昭和
急いでも急がなくともわが一生
よく生きた生き切ったねと卒寿いま

神戸市 村 松 久 江

うわさ話左の耳は良く拾う
熱弁の半分程は聞き漏らす
たまにはね優しい嘘に救われる
時々は優しい声も出してみる
言い返す言葉用意し立ち向かう

尼崎市 板 谷 賢 二

背は縮む爪と無駄毛はよく伸びる
好きなだけ飲んでいいよと見放され
使い痛み増してくるまで二三日
補聴器が欲しい二人がでかい声
妻の留守友はテレビと冷蔵庫

尼崎市 山 本 百 合

伝えたいがいつも縋れるありがとう
じいちゃんが孫より先に蟬を追う
指文字で通じ合う愛育てる
ほんやりと死後のことなど蟬時雨
思い出の旅に三度の仁王像

小野市 藤 原 泰 宏

咳ひとつ誰だか分かる人の癖
手術跡皴に隠れて分からぬ
別嬪を見れば心が癒やされる
美しい棚田が消える高齢化
寝返りで睡眠不足熱帯夜

加古川市 石 賀 邦 子

一人言増えて真夏の心太
一日の重さの違い確かめる
大げさに泣いてみせてもいいですか
ここにいるここにいるようと午前二時
私をどこか遠くに置き忘れ

三田市 幸 田 厚 子

ほど良く忘れほどよく足して百めざす
タイミング解からぬマスクあご止まり
先祖の墓時の変遷ダムの底
夕映えに野草一輪辻地蔵

三田市 野 口 龍

花びらが舞い散るようには逝く
自身の淋しさ消して一人酒
埴生の宿私の家がそうです
手鏡で自分の顔にほれてます
恐い夢起きたらすでに忘れてる

高砂市 松尾 柳右子

生駒市 永田 芙美子

外出は日陰の出来る時間帯

居乍らに天神祭祇園さん

健康な目覚め促す蟬の声

外出のたびに洗濯物増える

盆やすみ確かめ靴をはき替える

高砂市 裕木るい

和歌山市 北原昭枝

ちちははがそこまで來てる盆おどり

ローソクの灯りがゆれている命

燃え残る線香なにか言いたげに

早朝の水やり花も生き返る

一服のむぎ茶が旨い家事の汗

和歌山市 倉橋悦子

舞いあがる言葉乾燥しきつてる

米を研ぐまるで約束したように

はらはらどきどき合鴨のお引越し

きらきら星が降った八月の灰色

いとおしむ庭の草花まで日焼け

和歌山市 定松宏枝

持ち歩く雨粒ほどの悩みごと

フレドロス奥から取るのやめました

もつたひない無駄に過ごした一昼夜

ため息はそつと丸めてゴミに出す

嫁気さく姑も気さくのやじろべえ

無邪氣ではとても百まで生きられぬ
猫の手じやシップ貼るには役不足
熱帯夜頭の中に金魚鉢う
消えかけた母の名前があるタオル
良心の呵責多々ありおはぎ食う

西宮市 高橋千賀子

夏休み欠伸しているランドセル
初めての花火仔猫が腰抜かす
一日一善自問し床に就く
夏ヤセはしない年中食いしん坊
猛暑でも三食昼寝のしあわせ

生駒市 饗庭風鈴

マグマを抱いている地球愛おしい
始発で終点これからどこへ行く
またねと軽く手を振ったそれつきり
脳ミソの経年劣化ケタはずれ
北斎の波乗りこえて今日をゆく

蟻の列線香花火見上げて
土用波ささいなことは泡と消え
泥んこを洗つた干した夏終る
台風は地球を巡る天邪鬼
少子化は何処の国かと奈良の鹿

外出は日陰の出来る時間帯

居乍らに天神祭祇園さん

健康な目覚め促す蟬の声

外出のたびに洗濯物増える

盆やすみ確かめ靴をはき替える

無邪氣ではとても百まで生きられぬ
猫の手じやシップ貼るには役不足
熱帯夜頭の中に金魚鉢う
消えかけた母の名前があるタオル
良心の呵責多々ありおはぎ食う

西宮市 高橋千賀子

無邪氣ではとても百まで生きられぬ
猫の手じやシップ貼るには役不足
熱帯夜頭の中に金魚鉢う
消えかけた母の名前があるタオル
良心の呵責多々ありおはぎ食う

夏休み欠伸しているランドセル
初めての花火仔猫が腰抜かす
一日一善自問し床に就く
夏ヤセはしない年中食いしん坊
猛暑でも三食昼寝のしあわせ

和歌山市 定松宏枝

マグマを抱いている地球愛おしい
始発で終点これからどこへ行く
またねと軽く手を振ったそれつきり
脳ミソの経年劣化ケタはずれ
北斎の波乗りこえて今日をゆく

和歌山県 三枝 真智子

ムダな事出来る幸せコンパクト

佳き人に出会えた今日ヘドレミファソ

乾き切った手の平愛に飢えている

かくし味ほどのジョークが冴えている

アドバイス素直に受けて裏切られ

山口市 中前幸子

雨垂れのリズムで一日を刻む

白い断章すげ替えた首が浮く

アドリブの街百態の風が吹く

また神話生まれる巨大深海魚

チャンネルはお笑い今日も無事終わる

鳥取市 上山一平

蚊の羽音耳に媚びりて熱帯夜

子子の狭い溜まりは平和です

盆提灯高価でとても買えません

着飾つたシャンシャン踊り水飢饉

被災地の涙を汗にボランティア

鳥取市 佐々木 静恵

あれあれで通じる昭和仲間です

夏疲れ明日の保証もなく眠る

少子化で公園の草伸び伸びと

翔平が息子でなくてほつとする

初体感空恐ろしい電気代

鳥取市 狹武紫陽

扇風機にまで八つ当たりし猛暑

家ばかりいるとハートはすぐしほむ

急がない暮らしを急かす予定表

ごつごつの手働き者とすぐわかる

鰻重は食べたしサブリ飲んでるし

倉吉市 宮田風露

暑いあつい何度も言つても冷めやせぬ

水分補給しすぎて足がパンパンだ

日陰追いぐるぐる回る草むしり

三十度越え卓球は休みます

夏まつり今年はすると回覧板

松江市 中筋弘充

お隣りの犬がハアハア言つてゐる

この暑さ少し辛目の蜆汁

暑いなあ向日葵畑から呻き

心配だ痩せ細つてゐる月

あちこちが焼け焦げてきた世界地図

松江市 山根邦代

十五夜にほほえみかえし照れてゐる

想い出を一つ忘れて生きてゐる

この暑さ外出等はごめんです

エアコンと仲良く出来る有難さ

夏休みこの暑さには声もなし

津山市 高橋由紀女

佐賀県 真島久美子

背もたれの椅子を拒んでいる齡
身に付いたマスク外せぬ必需品

エアコンのメーター知らずフル稼働
萎れても花の命を繋ぐ露

作業着のポツケが呼んでいるスマホ

広島市 松尾信彦

唐津市 前田廣幸

猛暑にも持ち堪える趣味一つ
妻の留守創作メニュー母の味

都合よく忘れるという助け舟

おはようメロディー付いていい数値
マニュアルを分厚くしてクレーマー

広島市 森田博之

宮崎市 惠利菊江

三人になると物事仕切る癖

昭和一桁少し出で来た希少価値
金無いと見たか詐欺電かからない

八十路坂妻先導でつつがない

来客へ書棚の本の配置換え

尾道市 村上和子

豊見城市 あらさくら

恋文をチャットに頼みゴールイン

こころの痛み特効薬のお酒
ふたりとも体重減らぬこの猛暑

色褪せて強さを増した赤い糸
脚光を浴びて人生狂いだす

恋になる恋にならない微炭酸
答えならとつくに出しているロダン
指輪まで脱いですっぽんぽんという
蟻の葬見てる無人偵察機
現実にお逃げなさいと言われる日

温暖化懲だけは寒冷化

指に付く「タレ」まで旨い並ぶ店
訳ありのワケと値段の品定め

外壁に刻む水位の叫び声
暑い熱い「やけど予報」の予感すら

人間の弱さ引き出す脂汗

漫画から少年少女羽博く日

大脱走の虫見てる草巻り

人生の縮図を描く走馬灯
着膨れる言葉が罪を助長する

笑顔ある家にはきっと青い鳥

喜寿祝うケーキ作りの甘い部屋
かんじんな時に携帯置き忘れ

夏の夜にアイスで溶ける恋心
スクワット年の数までいちにさん

正直に嘘とお世辞はわたし無理
マスク顔皆気配りのボランティア

高笑い暑さ吹き飛びさわやかに
猛暑日の立秋入りに冷房を

高値でも食べたい物は食べなきやね

白河市 鈴木 たけし

この猛暑ヒト科が天に吐いた唾
醉芙蓉もお疲れ氣味の炎天下
水を飲む小忠実という字知った夏
姉が逝く九十三の家族葬

無人機が人の命を軽くする

横浜市 嶩田 かず枝

新しいシユーズの匂い米寿の日
独り居の無事を知らせる室外機
野の花も居場所違えばただの草
認証に役立たぬほど減る指紋

カードには対応しないドアもある

富士見市 中島通則

日に三度笑って食べて歯を磨く
身の回り小さな不思議五つ六つ
お尻に火付いていますよ温暖化
耐えている地球上にエール送りたい

小田原市 虎澤昭久

表向き長寿歓迎する政治
A.I 加速一気に遅れ取る老化
下駄の音聞けば昭和へワープする
母と娘の太い絆は長電話

会う度に小さくなつていく老母

東京都 高岡弥生

神奈川県 小田幸子

開けるドア同時に入る蚊のずるさ
力士より土俵溜りのワンピース
関所より通行キツいセルフレジ
ここもかと青春の店消えてゆく

ミサイルを花火に変えて よタマやー

気づかない自分本位に生きると
やつぱりなゴム手袋で手がかぶれ
予報よりも気温は2度高い
飲みきらないペットボトル並べてる

猛暑でも自然と生きる大切さ

目は父に口は母似と気がついた
十六年亡父未だに家長です
耳鳴りかと思つていたのはセミの声
それぞれの窓にそれぞれあかりつく

豊橋市 小 松 くみ子

大阪市 田 原 康 雄

梅雨明けて暑くなると蝉が鳴く
死語になる牛乳BINの底メガネ
夏休みでも子どもの声が聞こえない
仰向けの蟬に群がる蟻元気

京田辺市 加山勝久

団体戦私が取りで缶ビール
七十三薄毛隠しのヘルメット
オモチャ屋に爺がキヨロキヨロ三周目
妻に天下渡して返事いつもはい

米中の狭間に生きて無為無策

多様性トイレバカリが浮き彫りに

定年を又々伸ばし再稼働

福島の魚に罪はないけれど

大阪市 尾崎文子

泉大津市 葛城隆雄

何処けずる家計簿にらみまたうなる

コマーシャル私の財布ねらつてる

鶴橋の駅のにおいて腹がへる

自分道自分で歩くしかないか

大阪市 白谷よしみ

河内長野市 三輪くにお

パブリカは君ピーマンは僕ですか

盆の朝ピシャリと顔をひとたたき

どちらともいえずで埋めるアンケート

水槽に水跡の線金魚去る

大阪市 滝井えみこ

悔しさにする素うどんはねるつゆ

簡単な組立家具の余るネジ

容赦なくマジックのネタあかす妻

ネタ帳をカンニングする妻の家

大阪市 前川善之

甲子園負けても泣くな選手達

熱い夏物価高騰何時下がる

老人の年金下がるどう生きる

夏休み熱中症で行き場なし

さてこれは頭の黒いネズミかな
暑氣払いそんな気分もどこへやら
夕涼みそんな風流死語と化し
好きな道飽きもしないでただ捨る

神祈り加護も頂くテロリスト

若作りそれでも席を譲られる

掛けないが五類のマスクボケットに

休耕田案山子祭りの案山子立つ

吹田市 西沢司郎

あと一歩今年も踏めぬ甲子園
本気なら動き見てたらわかる筈
ひねくれた頭ひねつて出る一句
この暑さ蟬に合わせて上げる声

揖津市 荻 布 律 子

皆出かけ私の仕事ティータイム
ハンバー ガー愚かな夢を咀嚼して
私は守る肩書なんて無い

髭折れた猫に聞いたし明日のこと

藤井寺市 松 井 正 義

地蔵盆手にはファン持つ子供たち
ボケ頭よけいににぶるこの暑さ

まだ夏目秋を知る虫鳴きはじめ
ヒゲ面をかくせたマスク今つけず

寝屋川市 長 尾 千 賀

歯に衣を着せて万端旨くゆき

調律のいる歳カラオケではスター
赤とんぼやさしい肩を知つてます

秋立ちぬ逝く時の言模索中

神戸市 石 川 克 美

この暑さ誰にも文句言えません

転んで気づく筋力の衰えを

来て嬉し帰つて嬉し孫元気
怖いよね地球ふつとうするなんて

神戸市 濱 口 祐 一

神仏は名のらなければ功德なし

文春の音声データなぜ出るの

一〇〇均が安い理由を考える
いかんの「い」何が遺憾か言ってみろ

小野市 田 中 辰 夫

順調に歳を重ねた神経痛
夕焼けと潮騒のみで長湯する
温泉で出来た名句もお湯に溶け
病床へ妻は見舞いに庭の花

三田市 生 田 えい子

三田市 辻 開 子

陽も沈みミミズの干物運ぶ蟻
終発バスひとり占めした里の道
夏祭り衣裳箪笥が踊り出す
猛暑日に癪癩起こす冷蔵庫

三田市 馬 場 貴美江

ストレスを取ろうと出掛け人に酔い
入試には親の希望が見えかくれ
ごろごろとたまには何もせず過ごせ
笑顔なら今日一日を無事過ごせ

三田市 馬 場 貴美江

今日ひと日不平不満は腹のうち
雨だれをセラピーと聞く休息日
土石流豪雨の怖さ肌で知る

あの時が青春だった今想う

三田市 松 下 英 秋

ひぐらしの声を肴に冷酒飲む
夏は蚊に献立をして七十年

睨んでもハの字の眉毛変わらない
オレの帰り待つているのはヤブ蚊だけ

三田市 森 玲子

和歌山市 佐藤 まさき

この先もほど良くなれ生きていく
ご近所さんへ庭の青じそおすそ分け
誕生日ビデオ通話でプレゼント
お昼寝も猫と一緒に川の字で

丹波篠山市 河南 すみえ

尽きるまで嫁いだミシン使う幸

暇なとき一人コトコト芋煮てる

十八番です素麵ゆでるコツがある

亡母の味似てきた料理自分褒め

丹波篠山市 澤 良子

長生きを散歩の犬と競つたが
十八番甚句先に唄われアどうしよう
外灯が夜中点灯鹿散歩
吹く風は待つてましたと腕広げ

西宮市 高瀬 照枝

せみの声早く歩けと急き立てる
夏越えの食べ揃えは本氣です
わたし阿呆気まずい言葉くちすべる
明日のこと分かるはずない笑つとこ

西宮市 藤原 みよし

暑熱順化トレーニングの消防士
過酷さに頭を垂れて視聴する
暑気よけとセールの胡瓜重く汗
早場米の収穫暑さら我慢

和歌山市 鍋嶋 澄子

見せたいよ踏まれても咲く露草を

優しげに涙ひとつ出してみせ

弾けてる高校野球よ雄叫びよ

炎天を日傘くるくる墓参り

和歌山市 まつもと もとこ

むずかしいかんじをさけてやりすごす
沸々とウソを煮込めばセンブリ茶
水たまり避けて通れぬ細い道
夫とは一親等になれぬ仲

鳥取市 大前 安子

迎え火を独り焚きますここですよ
泥水が覆うニュースへただ祈る
八十路行くでもさ だからさ言わぬ旅
子の目には我楽多だらう宝箱

倉吉市 若松 由紀子

仲良しが喧嘩ばかりでまた笑う
己惚れた若さも失せて皆笑う
痛いのよ顔には出さず瘦せ我慢
赤トンボ秋つれて来て涼風も

朝昼夜独りの食事十年目
向かい風追い風もあり生きられる
若者の理会の出来ぬ流行語
三食の飯は忘れぬ物忘れ

米子市 川本 美津子

この暑さ蝉も夏ばて低い声

あやまちは仕返し出来ぬ過去の事

日によつて心変わりは丸四角

厚すぎる親子の壁はくずれない

鳥取県 田中重忠

雀蜂に刺され半日あほになる

自慢話するほど僕は種がない

口下手の僕にはできぬ口喧嘩

終戦で大和魂きえちやつた

鳥取県 橋谷静江

嫁さんに家事分担で楽になり

夜明け前ふと川柳に起こされる

趣味の友気が合い永くつづきそう

起きてすぐラジオ片手に畠へ出る

美作市 岡本余光

しんどさが現われてくる夢にまで

下り坂とはいいうものの樂でない

値上げにも変わらぬ予算絞る知恵

気に入つた句だけが目立つ備忘録

広島市 田桑恵子

大雨猛暑地球がついに狂い出す

やはりソーメン彩りのせて昼とする

財布の中で出番待つてる小銭たち

静寂の車中にマチカバンから

新盆を二人抱えて墓掃除
フレイルを防ぐ集いへ二ヶ所行く

老い二人リズムの乱れ増えてくる
百歳の生きるリズムをお手本に

晩酌で今日のリズムを締めくくる
残されたゴミも遺産と思う縁

福山市 新庄芳春

急ぐのは止めたこれからマイペース

老い二人リズムの乱れ増えてくる
百歳の生きるリズムをお手本に

晩酌で今日のリズムを締めくくる
残されたゴミも遺産と思う縁

三次市 伊藤寿子

宅配へもと彼の荷をナイショする
ああ人生あたしだつたら生きている

変だけど昔の恋は親まかせ

よう出来た奥さまだつたに早すぎた

松山市 郷田みや

石段は足元だけを見て上る
そなんだ観光ガイドから答

大雨を踊りの連が吹き飛ばす
読みかけの本が斜めに置いてある

大洲市 花岡順子

品質はさすが老舗の名に負けぬ

体質を思えど辛い花粉症
がつちりとスクラン少年の息吹

開幕へ夢は半ばの甲子園

竹原市 土井輝恵

品質はさすが老舗の名に負けぬ
体質を思えど辛い花粉症
がつちりとスクラン少年の息吹

開幕へ夢は半ばの甲子園

八尾市 田邊浩三

弘前市 小山内真由美

蝉が消す軽い耳鳴り有り難う
デイハウスこの一日が人生だ
副作用医者の表情参考に
自転車に赤色キップ切る世代

大阪府 高木道子

行列の店は本当に美味しいの
ちぎれ雲のとどのつまりはどうするの
猛暑日はへの字の口の鬼瓦
巻き戻し出来ぬ人生遠花火

神戸市 青木公輔

一波乱有つたか社内騒がしい
指切りを右でするとは限らない
船出というのに見送りは影ひとつ
美しい化石が最大の友で

唐津市 坂本良二

今風景スマホ片手にメール打ち
チャンピオン余裕で奪う四階級
本気だし末席汚し褒められる
長続きつかず離れず夫婦仲

那覇市 宮すみれ

何色もストレスのないリネン服
聞き上手自慢話は取つておく
らんまんに雑草キラリ胸を張る
祝いより葬儀の多い七月や

公園に子どものいない夏休み
素麺がいつも以上にうまい夏
枕の下に写真を置いて夢見た日
主人公真似して食べたピザの味

東京都 宮田栄子

湘南のシラスはピザで夏を食む
憎いやつ京友禅のアロハ着て
この夏は猛暑を避けて引きこもり
残り香の亡父ポマード捨てられず

(前月分) 寝屋川市 長尾千賀

当り触りなしに八十路の大坂弁
「知りまへん」と言って大方判つて
あめちゃん^ちと違うで夏はグミやねん
少な目の打ち水暑さ蒸し返し

声黄色暑さ知らずのギャル神輿
(前月分) 松江市 山根邦代

クーラーに守られて居る心地良さ
口グセの痛いイタイをとなえて
久々にカミナリさんのイカリ聞く
シワかくし長袖シャツははなせない

川柳塔柳箋
3冊 送料共 1000円
事務所あてお申し込み下さい。

川柳句集『肉 眼』

橋 高 薫 風

昭和乱世 今太閤は瘦せていず
愛人を帰して鬪志一転す

寡婦の買う数珠のようなる首飾り

元旦ぞ ルバング島も元旦ぞ

娘のボーアフレンドやよし お元日

ルバングの一兵の生 宮中歌会

父の乗る船の模型が応接間

金剛山

霧這え巴杉の樹間の正しさよ
深眠り 母娘相似のカメオ置き

哀歎の底に穴ある植木鉢

弥次郎兵衛 一人一点 殉死かな
裏切られあたたかきもの放尿す

姦計を鯛の目玉にさげすまる

男ばかり澄む 橋立は松の木ばかり
童貞さんふうわりと跳ぶ 春の泥
昼顔へどどきたけれど波の舌

地下鉄に勤持つなりメーデー歌

暮れるばかり暮れるばかりの木屋町や

尼緑之介氏句碑

この句碑のはじめて会うてなつかしさ

赤鼻の軒佳境に入りたり

呼び戻す 背なの赤子の名を呼んで

白昼夢 灰皿はわがコロシアム

核のこと艱難の歯がこぼれたり

安からめ 御身の胎児たり得れば

足摺の雨は遍路へ地から降る

寂滅と遍路の果ての月見草

路郎忌の天守の鰐に見据えられ

陶枕に睡蓮恋し 女人より

睡蓮は万丈光の光源よ

完

愛染帖

新家 完司 選

(投句 251名)

息子から行けたら行くという返事
(評) 甚だ曖昧な「行けたら行く」は「行き

たくない」というニュアンスあり。相手が親だから言えることで、上司などには厳禁だ。

鳥取市 山野すみれ

笑顔ならどんな服装でも似合う
(評) 不機嫌な顔ではせつかのニューモードも台無し。朗らかな笑顔はどのような服装でも「おっ、似合っている!」と思わせる。

郡山市 安藤 敏彦

出自など知らぬ電気を使ってる

(評) 朝から晩までお世話になつてゐる電気だが、我が家のは水力で生まれたのか、火力なのか、原子力なのか、確認したことはない。

高槻市 島田千鶴子

猛暑でもいつも通りに食べてます

(評) 今年の夏は危険なほど猛暑が続いているが、いつもと変わらず朝昼晩おいしく頂戴している。食欲は健康的のバロメーターダ。

棺より花火の筒に入りたま

（評） 海洋散骨や樹木葬ではなく花火葬か。

人間もよくよく見れば毛だらけだ

(評) そう、毛が生えていないのは手のひらと足の裏ぐらいか。「けもの」の語源は「毛物」とのこと。やっぱり先祖は猿なのだ。

大阪市 岩崎 公誠

勿論、遺体を打ち上げるのは無理。碎いた骨を簡に入れても花火大会の「打ち止め」大花火。

大阪市 大沢のり子

「そうめんでもいいで」の夏が始まった

横浜市 菊地 政勝

百名山踏破した友杖をつく

大阪市 内田志津子

会つたら杖について「歳には勝てないね」と

笑つている。元氣者も歳月には従う他なし。

河内長野市 三輪くにお

長生きで新たな出会い医師ばかり

(評) 若い頃には友が友を呼び、次々と新

たな出会いが生まれた。だが、高齢になると

次々と故障が出て、出会えるのは医師ばかり。

鳥取市 前田 楓花

臓器提供夫の許可がありてから

(評) 自分の身体だから誰にも遠慮せず提

供の意思を示せば良いのだが…。やはり一心

同体のような夫には許しを得ておきたい。

池田市 太田 省三

スピードはないが姿勢は競歩です

(評) 競歩の姿勢は長距離を速く歩けるよ

うに研究して生まれた。同じ姿勢をしているのだがスピードが出ないのはやむを得ない。

箕面市 広島 巴子

猛暑日を我武者羅我慢暑苦し

東京都 宮田 栄子

危険な夏引き籠もるには打つてつけ

猛暑でもいつも通りに食べてます

丹波篠山市 酒井 健一

警報がやつと分かつた温暖化

岡山県 田中 恵

猛暑日は冷房スイッチためらわず

西宮市 福田 正彦

八十路きて暑さこたえる散歩道

福山市 石田 孝純

喉元を過ぎても暑い熱帯夜

大阪市 新庄 芳春

かまつてくれる妻が入院熱帯夜

大阪市 坂 裕之

八十路きて暑さこたえる散歩道

貝塚市 石田ひろ子

雑草も耐えているんだこの酷暑

鳥取県 門村 幸子

熱波という目に見えぬ敵容赦ない

神戸市 奥澤洋次郎

昭和の夏と同じでおれば熱中症

岡山市 大石 洋子

猛暑日を我武者羅我慢暑苦し

東京都 宮田 栄子

危険な夏引き籠もるには打つてつけ

暑いですねに話のきつかけを貰う
大阪市 宇都満知子

神戸市 近藤 勝正

堺市 内藤 憲彦

四年振り選手宣誓夏が来た
堺市 今井万紗子

しばらくは暑いですねで用足りる
羽曳野市 宇都宮ちづる

尼崎市 山田 厚江

アルプス席 吹く子唄う子踊る子も
三田市 堀 正和

主婦業を返上したいこの夏は
米子市 安来市 野川 宣子

高砂市 松尾柳右子

男子でもキラキラネーム甲子園
石川県 堀本のりひろ

失敗の理由暑さのせいにする
三田市 辻 開子

河内長野市 森田 旅人

弘前市 福士 慕情

庭の木が水・水・水と雨を呼ぶ
鳥取市 神戸市 みぎわはな

香芝市 山下じゅん子

プロ並みのユニホーム着る朝野球
那覇市 宮 すみれ

耳鳴りも蝉しぐれだと聞いておく
浴衣なら着ます 水着は眺めます

丹下 凱夫

尼崎市 板谷 賢一

焼けた道熱いだろに蟻の道
三田市 辻 開子

変装用マスク今さら外せない

寝屋川市 富山ルイ子

ニアコンが無いと先月死んでいた
豊中市 水野 黒兎

岡山市 高杉 千歩

線状降水帯 友の身案ず

ライバルの部屋ダイソンの扇風機
佐賀県 真島久美子

大阪市 大坪 一徳

宝塚市 岸田 万彩

代読の祝辞が通過いたします
加古川市 石賀 邦子

川西市 太田扶美代

箕面市 中山 春代

割つたのは五年で五枚皿洗い
ルノアールの絵のようないい和む

八十二歳夢の名残りがまだ少し

進化した小玉スイカと夏を越す

藤井寺市 太田扶美代

弘前市 稲見 則彦

ビタミンが足りないので独りです
百点の謝り方があるそなうな

米子市 山野 双葉

カキ氷頭の芯に突きささる

交野市 山野 双葉

弘前市 稲見 則彦

叫べなくなつてもばやきなら出来る
うつかりはどうやら遺伝するらしい

永らえて死を考えの務め

涼しいな気温たつたの30度
米子市 竹村紀の治

神戸市 敏森 廣光

文豪風万年筆で誤字駄文

鳥取県

齊尾くにこ

姉が逝く好きに生きたと片目閉じ

横浜市

加藤 佳子

そんなもんさ待ち受けに住むスナフキン

弘前市

小山内真由美

男尊女卑化石になつた四字熟語

高槻市

松岡 篤

お経より弔辞喜んでる遺影

越谷市

平田 実男

ほぼ好きといふ君のことほぼ嫌い

那覇市

禱 モモト

八月のふところに降る黒い雨

海南市

久保田千代

分かり合えている筈なのにじれつたい

大阪市

桜井市

童心に返りレンズの星月夜

山中 閑

船橋市 中嶋 常葉

大川 桃花

反省と後悔 夫の脳から脱落す

真っ白なカーテンふわり飛ぶつもり

横浜市

横浜市

性格は変えられないがイメチエンだ

安土 理恵

物忘れ競い合いつつ夫婦老い

篩から零れる日まで悪あがき

川島 良子

裏屋川市 廣田 和織

黒石市 北山まみどり

三浦 強一

子を産まぬ選択したのアナタでしょ

スノボーは無理でも乗れたシニアカー

岡山市 永見 心咲

熊本市 杉野 羅天

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

豊見城市 あらさくら

富永 恭子

夫だけ瘦せる魔法があるらしい

地獄では毎日一度死ぬという

岡山市 城戸 誓子

松江市 中筋 弘充

横浜市

横浜市

スノボーは無理でも乗れたシニアカー

岡山市 富永 恭子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

歳を知る娘に連れられて医者通り

法律が増えて酸素が薄くなる

岡山市 高岡 茂子

豊見城市 あらさくら

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びすれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

横幌市 札幌市

伸びれば待つてましたと足がつる

怪談より背筋が寒い電気代

岡山市 高岡 茂子

松江市 中筋 弘充

TKG食べPPKと逝くつもり

堺市 澤井 敏治

奈良市 大久保真澄

清

おしゃべりはいきいき身体油切れ

橋本市 石田 隆彦

東大阪市 青木ゆきみ

久江

環状線四十分の旅列車

岡山市 片山かずお

高槻市 三田市

北野 哲男

義

おばあさんがいるから賑やかな国道

高槻市 唐津市

防府市 坂本 加代

広島市 江島谷勝弘

谷口

おばあさん年寄りのトリセツなどと洒落臭い

高槻市 仁部 四郎

大川市 仁部 四郎

能勢 利子

信彦

本当に軽いいのちの社会面

高槻市 岩本 岸本

大川市 谷口

玄也

利子

ゴミ出しに行くのも鍵をかけてから

高槻市 岩本 岸本

大川市 岩本 岸本

松尾 信彦

玄也

おばあさん年寄りのトリセツなどと洒落臭い

高槻市 岩本 岸本

大川市 岩本 岸本

岸本

清

おばあさんがいるから賑やかな国道

高槻市 岩本 岸本

大川市 岩本 岸本

岸本

清

おばあさん年寄りのトリセツなどと洒落臭い

高槻市 岩本 岸本

大川市 岩本 岸本

岸本

清

おばあさん年寄りのトリセツなどと洒落臭い

高槻市 岩本 岸本

大川市 岩本 岸本

岸本

清

おばあさん年寄りのトリセツなどと洒落臭い

高槻市 岩本 岸本

大川市 岩本 岸本

岸本

清

おばあさん年寄りのトリセツなどと洒落臭い

高槻市 岩本 岸本

大川市 岩本 岸本

岸本

清

おばあさん年寄りのトリセツなどと洒落臭い

高槻市 岩本 岸本

大川市 岩本 岸本

家計簿がブレーク掛けるエコバッグ 塩竈市 木田比呂朗

赤ちゃんてまつかになつて泣くんだよ 豊中市 きとうこみつ

鈍行の揺れも楽しむ缶ビール 大阪市 小野 雅美

神戸市 米田利恵子

引き算ばかりでつかい穴は埋まらない 松山市 大内せつ子

反抗期ひらかぬアサリ見守つて 大阪市 滝井えみこ

ヘアースタイル変えて息子が缶ビール 弘前市 高瀬 霜石

最後まで主役になれず五円玉 八幡市 武田 悅寛

僕は留守番妻は女子会レストラン 鳥取市 田賀八千代

からあげに大ジョッキもうちとキツイ 三田市 上田ひとみ

真円をフリーハンドで描く家族 生駒市 武田 悅寛

怨みあるのか私ばかりを蚊が攻める 今治市 永井 松柏

痛風の友よごめんなビール飲む 藤井寺市 鈴木いさお

向こう岸たどり着けるかシャボン玉 倉吉市 大羽 雄大

災いは徒党を組んでやつて来る 豊中市 藤井 則彦

胆囊を取つても晩酌は旨い 神戸市 上山 一平

一日に一笑探しくたびれる 香芝市 大内 朝子

忘れてたことも忘れる粹な人 岡山県 藤澤 照代

粹な酒帽子を質に繩のれん 神戸市 齋藤奈津子

新しい朝が来るたび生き返る 大阪市 平井美智子

猫撫でて焦燥感を解けさせす 高砂市 裕木 るい

ショウヘイ熱一丸となる繩のれん 尼崎市 永田 紀恵

遠い耳笑顔で返す古いの知恵 松山市 伊藤のぶよし

片目だけ開けたら糸が通せます 島取市 奥田 由美

裏メニュー目当てに通う繩のれん 笠岡市 藤井 智史

嗅覚が飛びはねている牛丼屋 柳田かおる

約束は友と同居のケアホーム 大阪市 久木野孝治

体内の消毒ですと酒を呑む 羽曳野市 吉村久仁雄

ためらわざ削除スマホに来る疑似餌 村上 直樹

行きつけのそばもうどんも同じつゆ 富田林 中村 恵

もめ事はないことにして酒にする 大阪市 高杉 昭枝

あれほどに咎めたスマホ命綱 津山市 高橋由紀女

年齢欄書いて自分にびっくりし 大阪市 森田 遊子

幻の酒と言われて猪口を出す 和歌山市 北原 昭枝

モヤシのプライド 貫く二十円 神戸市 斎藤 隆浩

たまに飲む酒がやたらに心地よい 羽曳野市 黒木ひとみ

食べだし飲んだしばらばらと解散 奈良県 長谷川崇明

ゴキブリには負けられへんとつい本気 大阪市 島田 明美

三元号生きて昭和が懐かしい 羽曳野市 黒木ひとみ

食べだし飲んだしばらばらと解散 芳山

共選欄

檮亭

卷之三

「本
氣」
鈴
木

いさお
選

詐欺電話本気でさして呉れるのか
核の傘本気で途中まで聞いた
本気度を試されている被爆国
公約は誰も本氣にしていない
静かだが八冠睨む目は本気
本当に好きだと言つたのは一人
本気で咲いている酷暑のひまわり
本気度を試されている崖っぷち
茶化しては本気を隠す照れ屋です
俺だってその気になれば象になる
添えぬなら死んでやります本気です
減量に頑張る妻を冷やかせぬ
いつもより濃い目に引いた赤い紅
ようかんの厚さに母の本気見え

宇部市	鳥取市	西予市	神戸市	山崎市	平田市
福西市	茶子市	西予市	西予市	武彦市	実男市
大坂市	堺市	大坂市	堺市	坂上	大坂市
堺市	坂上	坂上	寺本	黒田	茂代市
坂上	淳司	中嶋	寺本	黒田	実
坂	裕之	常葉	寺本	黒田	大坂市
坂	裕之	はる子	寺本	黒田	大坂市
船橋市	鳥取市	石澤	寺本	黒田	大坂市
黒石市	鳥取市	堀本	寺本	黒田	大坂市
石川県	島田	のりひろ	寺本	黒田	大坂市
大阪市	島田	明美	寺本	黒田	大坂市
尼崎市	和夫	和夫	寺本	黒田	大坂市
内長野市	宗	えみこ	寺本	黒田	大坂市
大阪市	坂野	澄子	寺本	黒田	大坂市
澁井えみこ			寺本	黒田	大坂市

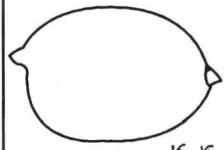
本氣川本

真理子選

本気です百まで生きる後四年
ありのまま正直に生きていきたい
本気だから太い字で書いてある
ボク叱る母は本気で泣いていた
夢の中でも本気で叱ってくれる母
母さんが本気で怒ることはせぬ
ようかんの厚さに母の本気見え
正座した妻は本気な顔になる
いつも本気共に笑って泣いた友
おばあちゃんこれでも本気走つて
頑張れど本気だしてと孫は言う
澄んだ瞳に大人の本気試される
守るもの出来て本気も嘘もない
誰のため何のためと問う本気
茶の間みな監督となる甲子園

豊見城市 あらさくら
大阪市 宮崎シマ子
大阪市 川端 一歩
黒石市 石澤はる子
大洲市 花岡 順子
大阪市 滝井えみこ
吹田市 太田 昭
豊中市 貝塚 正子
豊中市 池田 純子
和歌山市 奥村 五月
広島市 夕胡
神戸市 有田 澄子
和歌山市 富永 恭子
岡山県 照代

(投句312名)



人生は本気遊びのバランスで
悪知恵が本気になると湧いてくる
愛されて本気が怖くなってきた
本気だな捻り鉢巻しているぞ
本気らしい笑つてると目が恐い
実力はこの程度です本気です
本気だなお国訛りのお説教
打ち込めるものに魂かたむける
擦れ擦れの本氣でうまく遊ばはる
愛情の本気度試すチ子家出
本気ではない返事が軽すぎる
バレぬよう本氣で嘘をついている
本気と本気だから血の沸く甲子園
答弁の本気度見えぬもどかしさ
寿命知るセミが本気の七日間
七夕の短冊に見る子の本気
少子化へ国の本気度見えてこず
本番の仮面そろそろつけ換える
本気なら神様の目に止まるはず
ハルキストいつも本気で待っている
もう一度本気になつてみる卒寿
太陽が本気を出している猛暑

尾道市 小畑 宣之
鳥取県 田中 重忠
島根県 南あわじ市 田中 重忠
松山市 宮尾みのり
高松市 宮尾みのり
河内長野市 杉野 羅天
奈良市 加藤江里子
熊本市 中島 一彌
奈良市 岩谷 道子
尾道市 萩原 狸月
河内長野市 中島 一彌
奈良市 加藤江里子
奈良市 小川 道子
生駒市 飛永 ふりこ
堺市 村上 玄也
寝屋川市 伊達 郁夫
安来市 原 徳利
河内長野市 村上 直樹
箕面市 広島 巴子
八幡市 武田 悅寛
寝屋川市 長尾 千賀
神戸市 岩田 恵子
生駒市 岸本 孝子
富士見市 饋庭 風鈴
鳥取市 羽曳野市 伊達 郁夫
豊中市 三好 通則
きとうみつ

本気と本気だから血の沸く甲子園
あと一人あと一球と甲子園
敵方を本気にさせた野次ひとつ
指ならば力士に勝てるかも知れん
環境保全ヒト科の本気待つ地球
本気度を試されている被爆国
核の傘本気でさして呉れるのか
本気ではないから謝罪練り返す
追伸の二行は本気 本音です
あと二キロを神と誓ったダイエット
三日なら本気でできるダイエット
三回目風が嗤つて本気
本腰を入れた禁煙四回目
今度は本気や五回目の禁煙
繩のれん朝の本気をもう忘れ
冗談か本気か読めぬ微笑だ
冗談と本気わからぬ程陽気
バレぬよう本氣で嘘をついている
本気でも勝てず手抜きのふりをする
後悔は本気になつたことがない
本気など重いだけですチョコレート
マンボウになりたい半分本気です

河内長野市 村上 直樹
米子市 竹村紀の治
三田市 村田 博
浜松市 山崎 武彦
宇都宮市 平田 実男
高槻市 松岡 篤
松山市 栗田 忠士
藤井寺市 太田扶美代
鳥取市 奥田 由美
米子市 妹能令位子
神戸市 酒井 宏
可児市 板山まみ子
大阪市 岡田 恵子
奈良県 長谷川崇明
弘前市 福士 慕情
鳥取市 吉田 弘子
安来市 原 徳利
寝屋川市 吉村久仁雄
羽曳野市 伊達 郁夫
河内長野市 森田 旅人
鳥取県 斎尾くにこ

針の穴くぐつてやつて来た男

本気一徹冗談も通じない

本気度を試すリトマス紙が欲しい

本当のことを伝える糸電話

本気ですか敬老会の御案内

のほんと暮らした日日が悔やまれる

本気かと問われ三秒躊躇する

本気度は心拍数がお見通し

まだ八十本気で恋をしてみたい

こんな俺おいて家出は本気なの

正座して動かぬ少年の一途

初めから本気でやれば出来たはず

尻に火がつかぬと本気出ぬ私

何も要らない貴方と長く暮らしたい

トンネルを抜けて芽吹いてきた本気

ぶつかった本気が誤解解きほぐす

敵方を本気にさせた野次ひとつ

たわむれが本気になつて火傷する

本気ではないから謝罪繰り返す

三日なら本気でできるダイエット

ダイエット本気でやつたことがない

岐阜県 喜多村正儀

神戸市 みぎわはな

香南市 桑名 孝雄

越谷市 久保田千代

三田市 野川 宣子

東大阪市 青木 隆一

東大阪市 青木 ゆきみ

岡山市 丹下 凱夫

奈良県 中堀 優

大阪市 田中ゆみ子

尼崎市 永田 紀恵

三田市 大西 重男

大坂市 内藤 憲彦

奈良県 渡辺 富子

羽曳野市 藤原 大子

和歌山市 北原 昭枝

松本市 村田 博

栗田 忠士

米子市 妹能令位子

尼崎市 羽奈 和子

来世では眞面目に生きてみる本気

のほんと暮らした日日が悔やまれる

秋になれば本気出しますホントです

占いを信じてしまう歳になる

ネクタイを緩め本気で飲む顔に

にこりともしないで酒を飲んでいる

本気らしい酒を止めたという噂

本気だな飾りを何もつけてない

本気だなお国訛りのお説教

本気度が肩にくい込む生眞面目さ

本気出す時はラーメン食べる時

4Bで本気で書いたラブレター

いつもより濃い目に引いた赤い紅

本気ですかと通帳見せられる

本屋から真一文字の口で出る

一心にひたすら祈る百度石

短冊に口には出さぬ願い事

本気なら神様の目に止まるはず

全力で泣いたからもう迷わない

本当のことを伝える糸電話

西宮市 亀岡 哲子

三田市 多田 雅尚

鶴原市 居谷真理子

八尾市 田邊 浩三

堺市 黒石市 柿花 和夫

岡山市 丹下 凱夫

黒石市 北山まみどり

堺市 澤井 敏治

松山市 柳田かおる

河内長野市 中島 一彌

広島市 松尾 信彦

東大阪市 青木 隆一

三田市 野口 龍

河内長野市 坂野 澄子

佐賀県 平井美智子

大坂市 岸田 万彩

宝塚市 岸田 朝子

鳥取市 岸本 孝子

三田市 上田ひとみ

越谷市 久保田千代

小野 雅美

路集

「糸」

石澤はる子 選

(投句 212名)



糸トンボよ熱中症に氣いつけや
五十年木綿の糸でむすばれて
裁縫が得意な友の糸切り歯
糸瓜の酢物楽しむ夏の膳
初デート誘う手段は糸電話
幸せに死角があつて蜘蛛の糸
墨糸の張り具合ですこの道は
失恋の傷を二か月にて抜糸
一の糸ビビンと津軽三味喰る
父母に繋いでほしい糸電話
核廢絶へ糸がからまる被爆国
袖通さぬしつけ糸から母の声
鉢より手つとり早い糸切り歯
信念を貫く母の糸通し
赤い糸金糸に変えた五十年
停戦の糸口どこにウクライナ
ハズキルーペ無ければ糸を通せない
糸トンボよりも密かに棲んでいる
糸くずの白が際立つ通夜の席
自分史は金糸銀糸を織り込んで

堺市 澤井 敏治
樺原市 居谷真理子
尼崎市 山本 百合
熊本市 杉野 羅天
八幡市 武田 悅寛
佐賀県 真島久美子
弘前市 稲見 則彦
笠岡市 藤井 智史
弘前市 福士 慕情
男鹿市 伊藤のぶよし
堺市 内藤 憲彦
大阪市 古今堂蕉子
大阪府 米澤 優子
河内長野市 坂野 澄子
南あわじ市 萩原 狩月
大阪市 平賀 国和
松山市 宮尾みのり
岡山市 丹下 凱夫
池田市 太田 省三
木田比呂朗

タコ糸を切つたらちっぽけな自由
横糸に笑いを足して今日を織る
くもの糸きみは構造建築士
言い過ぎた今日を繕う木綿糸
回れよ回れ平和を紡ぐ糸車
人
大物を釣り上げるまで糸垂らす
歳月の懐にある糸
天
地
和解への糸口探る夕あかね

豊中市	上出 修
犬山市	関本かつ子
倉吉市	大羽 雄大
豊中市	松尾美智代
米子市	妹能令位子
今治市	永井 松柏
香芝市	大内 朝子
奈良県	中原比呂志
三原市	笹重 耕三
富田林市	山野 寿之
高槻市	富田 保子
神戸市	みぎわはな
黒石市	北山まみどり
三田市	稻角 優子
貝塚市	石田ひろ子
大阪市	平井美智子
大阪市	高杉 力
越谷市	米子市 中原 章子
弘前市	高瀬 霜石

ネトキ教室

題一 道

平井 美智子

道は通行するところですが人の守るべき
義理とか教えとしての道もあります。した
ことや見たものをそのまま詠むのではなく
思いや感情を入れた自分だけの道として、
具象を使って詠むことも大切だと思いま
す。

★リズムについて考えよう！

安易な中八音や下六音の句、本当に他の
言い方がないのか推敲してみましょう。
蝶の道という素敵な言葉を見つけられた
のに残念！ 中八です。

★表記に注意しましよう！

参考 横道にそれたまんまの恋ひとつ

原 嫁さんは回り道かなまだ来ない 不二夫

何で回り道なのか言葉を膨らませるとイ
メージが湧きやすいです。

参考 嫁さんは匂いに釣られ回り道

★参考にしてください！

参考 道端のカンナをそつと持ち帰る

原 決めた道進んでいくこと正解だ 弥生

原 道路標識見落しやけに遠回り 風露

上句は七音でもよいのですが五音になる
のなら五音の方が落ち着きます。

参考 標識を見落しやけに遠まわり

原 後世の道はきれいに空けておく 良子

参考 後世への道はきれいに空けておく

参考 越し方を振り返りつつ進む道

原 行く宛が無くてやっぱり戻る道る い

参考 間違いではありませんが宛は送り先、届

け先の意、当ては目当て、目的の意です。

原 したたかに我道歩み今生きる ひとみ

参考 我道は我が道と表記しましよう。

参考 強かに我が道歩み生きてゆく

原 正直に生きれた道で嬉しいの 照枝

(生きれた) の表現を変えてみました。

参考 正直に生きた道だと胸を張る

原 道路ふちカンナ色花そつと折る ミヨノ

参考 作者の意図と違うかもしれません
がつくと限定されますのである。

参考 大丈夫道の先には僕がいる

原 あの人には遭わぬようにと回り道邦子

参考 その人を(先輩)とか(天敵)等の具象

参考 ライバルに遭わぬようにと回り道

参考 越し方を振り返りつ、道すすむ 純子

参考 返えりは返りです。

原 自転車道杖の代りに押して行くえい子

題の（道）という字に拘り過ぎかも・。

参 自転車を杖の代りに押す歩道

原 夢を追う老いの坂道汗を積む（原幸 子）

汗を積むという表現が気になります。

参 汗かいて老いの坂道夢を追う

原 道筋を立てた子育て軋む音 レイ子

親としての切なさが胸を打ちます。

参 道筋を立てた子育て軋みだす

★このままでも良いと思ひます

原 実家への道は老いても忘れない 静恵

静恵さんの想いを、少しドラマチックに表現してみました。

参 実家への道を辿れば母の声

原 お手軽に地産地消の道の駅 行久

上五に（村起こし）など色々入れてみてください。

参 まとめ買い地産地消の道の駅 閑

原 道すがら汗を拭きふき六千歩（道）

という題を強調するのであれば

参 六千歩数え私の散歩道 正義

人の道外れたニュース多過ぎる

これでもよいのですが正義さんならでは

の具象を入れた表現を試みて下さい。

参 人の道外れ子殺し親殺し

原 久々に逢えた余韻の帰り道 百合

逢えたを省いて余韻に重きを置くかどう

か。作者の好き好きです。

参 久々の余韻に浸る帰り道

原 イケメンのガードマン立つ道普請 律子

（道普請）と素敵な言葉なのですが親し

みやすく表現する

参 工事中ですとイケメンガードマン

原 振り向けば蛇行と氣付く己が道 博之

その時は夢中で歩かれたのでしようが。

参 振り向けば曲がりくねった道だった

○峰道いたわりながら一人連れ 一平

仲の良いご夫婦像が浮かびます。

★添削不要の句

○峰道いたわりながら一人連れ 一平

尚の良いご夫婦像が浮かびます。

○峰道いたわりながら一人連れ 一平

上句が少し説明的ですが、世話を焼きた

くなるような可愛い男性像が浮かびます。

○峰道いたわりながら一人連れ 一平

（年金での生きる道）も道という発想の確

○電線の影さえ頼る夏の道 タカ

電柱ならしかりですが電線の細い影さえ頼りたい暑さ。電線が見つけです。

○影二つ部活帰りの回り道 双葉

いいですねー。主将とマネージャー？

何だか胸キュンの世界ですね。

○散歩道犬の速度が心地よい 栄次

速度に目をつけたところに○。人間と犬

きっと、一体で歩まれているのでしょうか。

○マイウエイ歌い続けて半世紀 芙美子

言い換えれば自分の信じる道を歩き続けたということ。素晴らしいことです。

○極楽へ行く道ナビで探して 泰宏

最近のナビは優秀と聞きますが極楽へは

上手く案内してくれるんでしょうかねー。

○真夜中のゼブラゾーンを埋める雪 えみこ

季節感が少し気になりましたが具象の確

かさでいただきました。

○何ひとつ道も極めず行く八十路 賢二

屹立とした句姿に感動。

○峰道いたわりながら一人連れ 一平

沢山の佳句に明日への道を考える機会をい

ただきました。ありがとうございました。

川柳塔鑑賞

同人吟 内田 志津子

—9月号から

院通り出来ますように。

奥様と呼ばれるための日傘買う

太田省三

貧しさも今健康の麦ごはん

吉道あかね

の正体を見失い悩む事もしばしば。

恥ずかしい情けないことこれからも

すご婦人。確かに奥さんではなく奥様と声掛けたくなります。女性心理を言い当てて

いると思ひます。

麦ごはんが貧しさの象徴とされていた

あの頃。芋と共に貴重なエネルギー源でもありました。今は玄米と並んで体脂肪対策としてオシャレなカフェ等で提供されてる麦ごはん。時の流れと共に昭和が遠くなりります。

若い漫才笑いどころがわからぬ

大久保真澄

全くの同感です。笑うツボが鈍化したのか、喋りのスピードについて行けないのか。そのうち『ここ笑う所ですよ』なんて言われてしまいそうです。

夫婦だとも思う他人だとも思う

工藤千代子

夫婦とは共に一生を過ごすパートナーとあります。夫婦は、実際に不可解なもの。時々そ

年々出来ない事が増え続ける情けなさ。A.I.だのS.N.Sだの教えられてもすぐに忘れる習得力の欠如。もう聞き直るしかありません。私はそうしています。

遺産なし運と知恵だけいただいた

田中ゆみ子

胸の内語り出したら発火する

大島ともこ

神経内科の先生がおっしゃるには、背骨の歪みまでも心理的ストレスが要因だそうですよ。ともこさんも我慢するのは程々にして発火しちゃって下さい。

休肝日守り元気になる米寿

澤井敏治

休肝日なくとも元より元気な作者。米寿の今でも句会の中心を担う姿に頭が下がります。益々のご活躍を期待します。

病院は元気でないと行けません

田中廣子

ドクターが頑張らなくて良いと言う

雪本珠子

思わず笑ってしまいました。おっしゃる通り！元気に歩けなければ病院へは行けません。廣子さんがいつまでも元気で病院をご覧になつての助言でしょう。時にはズ

ボラも大事。

川の水が澄んでいるだけで癒やされる

辻内

げんえい

水 野 黒 鬼

山を歩いていると丁度疲れた頃に澄ん

だ水の流れる川、池、滝寺に遭遇します。

それだけで心が癒やされ、また元気に歩く

事が出来るのです。

人間が元に戻った脱マスク

山 野 寿 之

マスク下かくれた皺が顔を出す

大 浦 初 音

マスク姿三年も経つとマスクを外した

時、『あれ、あの方こんな顔だけ』と思

う事があります。本当の素の姿に戻って仕

切り直しです。もうこれ以上コロナが蔓延

しませんように。

味はまだ新鮮訳ありの半値

佐々木 満 作

今や日本の年間食品廃棄量は523万

トンと言われています。賞味期限は自分の舌で決める。賢い選択で少しでも食品ロス

の削減に努めたいのです。

父の日に朝一番の宅配便

辻内

げんえい

母の日に比べて認知症の低かった父の

日ですが近頃は父の日もすっかり定着し

ました。さて、げんえいさんには朝一番に

何が届いたのでしょうか?

母子家庭悲劇を生んだ母の恋

萩 原 犹 月

後を絶たない児童虐待死。母と女の狹間でゆれ動く母親の姿も切ない。記事を目に

するたび胸が痛みます。

梅雨の入り慈雨も時には牙をむく

長谷川 崇 明

多くてもゼロでも困る雨の量

永 原 昌 鼓

梅雨は庭の草木や街路樹にとつて救世

主と言えますが近頃の雨は人類を襲う凶

器ですね。樹木を倒し、家屋を流す。時に

は人の生命さえ奪ってしまいます。梅雨らしいシトシト雨は何処へ行つてしまつた

のでしょうか。

向日葵と書いて「ヘイワ」ルビを振る

丹 下 凱 夫

いいですね。

飽きもせず小さき火傷を繰り返す

川 名 洋 子

この場合の火傷とは体に受けた外傷ではなく、心的ストレスだったり人間関係の摩擦だったりするのでしょうか。『飽きもせず』と自分で自分を評価されている所が

ウクライナの向日葵畠には花はいつ咲くのでしょうか。戦争の惨状を知るたびに平和な日本に生まれた事に感謝しています。

あきらめ上手きっと生き方上手だね

大 内 せつ子

過ぎ去った事をよくよしても何も始まらない。サッサと諦めて次の目標に向かって歩き出す。見習いたいものです。

身の丈で生きてきました悔いがない

小 松 紀 子

『悔いがない』はつきりと言いついた紀子さん。その時その時を精いっぱい生きて来られた事と想像します。ブランボーと叫びたい。

飽きもせず小さき火傷を繰り返す

川 名 洋 子

水煙抄鑑賞

—9月号から

牧野芳光

頑張ろうすこし薄めて生きてみる

小山内 真由美

シャカリキになつて生きてゆくのは若い年代の時だろう。ひと歳とった今は人生を味わう時だと思える。一日一日を味わつて生きてゆきたい。

淋しさに慣れていくのはなお淋し

と淋しさを紛ら

事は出来るが、根本的には無くならない。

中出来るものを探すのが一番

山野双葉

朝起きた時に鳥の声が聞こえたらしい日だと感じる。天候に関係なくいい日だと自分に言い聞かす事が出来れば、いい日になる確率はアップする。

夫婦箸せめて寄り添う箱の中

板谷賢二

村松久江

高齢者になると夫婦と言ふとも俗人は近くなる。家庭内別居もあり、同じ箸箱に同居するだけでも上々である。

高木道子

評客範囲を枠外と表現したところが綺妙。余裕を持って人と接する事が出来た
ら世間も広がっていく。

足腰が弱って来るのは年相応であるが、
口だけは長年の経験により鍛えられてお
り、老化とは無縁なものである。

倉橋悦子

割れない風船どこまでも追い掛ける

中前幸子

割れない風船とは「理想」を指す言葉と思える。勇気を持つて追いかければいいつか叶うに違いない。

試写会の余韻茶漬けで流し込む

西川千鶴

映画を観てゐる間は主人公になりきつて観てゐる。家に帰つて現実に戻るのをお茶漬けで流すとの表現が効いてゐる。

記念像誰か知らぬが道標

幸田厚子

私が思い当たるのは、本人が建てた銅

が幹道沿いに建てられていて、自己主



新家完司のせんりゅう飛行船

154

こんな私です（2）

他人を客観的に眺めてその言動の面白さを一句に表す場合は、掴んだものを歪曲せず正確に表現するのが肝要です。

一方、自分自身を詠つ場合、特に内容が「自嘲」では少し誇張をした方が面白味があります。読者もそのあたりのことは心得ていて「謙遜し過ぎ」と笑つて受け止めてくれるでしょう。前回の（1）に紹介した作品も今回のも、それぞれ少し大きめの自嘲が面白味を醸しています。

身の丈を少し伸ばして生きている

直感で生きて生傷たえまない

でたらめに生きてマワシがずれてくる

思考回路どんどん軽く天然化

CMの合間ちよこちよこ仕事する

据上げとボタン付けならまだ出来る

まだ出来るることを数えて生きていく

「身の丈を伸ばす」ということは「背伸びをしている」と

いうこと。「直感で生きている」ということは、「あまり深くは考えず」ということ。「でたらめに生きて」は誇張が過ぎますが、「フンドシ」に替えた「マワシ」がお手柄です。

思考回路が「天然化」も「CMの合間ちよこちよこ」も「据上げとボタン付けなら」も、謙遜し過ぎの面白さがあります。

話し方スローテンポは生まれつき

もぐもぐと予習してから電話口

大羽 雄大

頑張らないもどもと私みそつかず
好き嫌いないがときどき人嫌い
やさしさも意地悪もみな私です
断る役慣れて団太くなりました
話し方がスロー・テンポのもの、もぐもぐと予習してから受
話器を取るのも、やはり遺伝的なものが大きいでしょう。
謙遜の極みのような「もともと私みそつかす」には苦笑させられます。また「ときどき人嫌い」とか「意地悪もみな私」とか「嘘も無しでは生きられぬ」、そして「団太くなりました」等々、いささか大袈裟に言っていますが、「このようない私ですがご勘弁ください」という開き直りが愉快です。
ああ言えばこう言う病氣完治せず
たらばを食べすぎ前へ歩けない
愚痴弱音吐き放題で生きている
子離れが出来ず親離れが出来ず
傷ついてしまうことには無視をする
たいていはプラス思考で乗り越える
「ああ言えばこう言う」のも病でしょうが、「たらば」ばかり言つて前に進めないのも、「愚痴弱音吐き放題」のもの、「子離れも親離れも出来ない」のも病でしょう。しかし、それを自覚しているのは病などに負けていい証拠です。
傷ついてしまうことを無視できるのも「いぶりがっこ」の味になってきたからでしょうか。このように自嘲しながら「プラス思考で乗り越える」のは川柳作家の逞しさです。

中山 春代
高瀬 霜石

松尾美智代

菊地 政勝

内藤 憲彦

石田 孝純

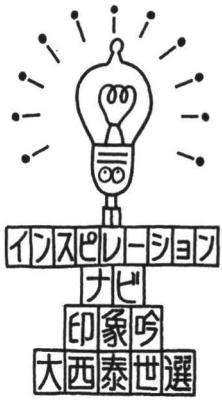
太田扶美代

杉野 羅天

斎尾くにこ

居谷真理子

北山まみどり



(投句 173名)

台風が次々と発生し、かといって気温はあまり下がらず、相変わらずの猛暑の中で次々と手抜きすることが多くなりました。料理はあまり煮炊きせずに簡単なものになり、お風呂は湯舟に浸からずシャワーで済ませてしまう。本当は冷房で冷え切った身体を湯舟で温めるのがいいってことは分かつていて、暑さのせいで気が進まない、こんな自分の横着さにちょっと腹を立てながらの毎日です。では、ナビを。

藤井寺市 鈴木いさお

学生の頃から一夜漬けの癖
(評) いわゆる、尻屁に火が付かない不出来ないタイプですね。実はワタクシもそうなんです。懲りませんや。

好奇心だけで私は生きている
(評) でも、これつてすごい事です。若

明石市

桃谷 和郎

いという証拠、普通はだんだん面倒くさくなってしまいますもの。

神戸市 奥澤洋次郎

明日には思い通りにするつもり

(評) とにかく今日までは相手の言うことを聞いておく訳ですね、今までのガマンが報われる劇的な明日。

大阪市 寺井 弘子

盆踊り炭坑節の盛り上がる

(評) 炭坑節、懐かしいですね、コロナが落ち着いてきて、盆踊りも各地で復活してきて楽しみが増えました。

豊橋市 小松くみ子

行かなくちゃいけないのか鬼退治

(評) 行きたくない所へ行くのは気が進みませんよね。ましてや鬼退治だなんてコワそ�でヤダ!

熊本市 杉野 羅天

本当は捻り鉢巻きしたいのだ

(評) 人間の身体って不思議です。鉢巻きって氣力体力を出すのに結構効果あるそう。やりましょうよ、捻り鉢巻き。

大阪市 田中ゆみ子

年令は單なる数字祭笛

(評) その通り、単なる数字にとらわれて人生の幅を狭めるなんてバカバカしいこと。やりたいことはやりましょうよ。

檜原市 居谷真理子

頂いたときだけ頂けるメロン

(評) ホントですねえ。自分のために高いメロン買うのは勇気要るけど、最近流行りの自分へのご褒美という手も。

和歌山市 柏原 夕胡

好奇心だけで生きている
(評) 強がっていてもダメダメです、人

徒競走昔は僕も早かつた

恋しくてねえ。でも会えれば会つたですぐケンカ、救いよう無し。

大阪市 寺井 弘子

温暖化地球の汗が吹きこぼれ

(評) 地球の汗とはダイナミックな表現です。最近の異常気象はいくら大層に言つても足りないほど。

尼崎市 宗 和夫

継いできた櫻を受ける人は何処

枚方市 藤田 武人

竹槍で戦車に挑む神の国

西宮市 亀岡 哲子

土星なら行つてみたいなでも遠い

大阪市 今村 和男

肉饅しつかり食べて酷暑越え

黒石市 北山まみどり

道場の鍛えた腕で西瓜割り

三田市 村田 博

鉢巻をしただけですが様になる

三田市 村田 博

留守ですと唆されている空き巣

那覇市 宮 すみれ

孫がくるばあちゃん好きと言わせたい

大阪市 平賀 国和

思い出の土を袋に甲子園 西宮市 福島 弘子

西宮市 福島 弘子

箕面市 出口セツ子
見切り発車マイナンバーの保険証

鳥取市 山下 凱柳

八王子市 川名 洋子

松山市 大内せつ子
てもいいと言う

企みの汗がすこうし粘つこい
大阪市 平井美智子

今治市 永井 松柏

泣き言は言わぬと決めたはずなのに
松本市 栗田 忠士

河内長野市 中島 一彌
ここにおわすのじや

お世辞だと分かっていても木に登る
弘前市 高瀬
河内長野市 森田 霜石
旅人

同じ色
神戸市
みぎれはな

縁切りをしても誘つてくる薰り

大阪市 小野 雅美

せつかちねそこでゆつくり深呼吸

松が壁になる

ポケットにいつも元気な好奇心
宝塚市 岸田 万彩

古差し次の策
香芝市 大内 朝子

尺玉の意地を發揮してドカーン

の時が来た
富士見市 中島 通則

永世中立つてどうすんのアンタ

ールが待つて いる
鳥取市 奥田 由美

毎日がイザ鎌倉の永田町
松山市 宮尾みのり

にきたシワタルミ

ひとり旅いいえスマホに指示される
岡山市 永見 心咲

高はまだ若い
大阪市 石橋 直子

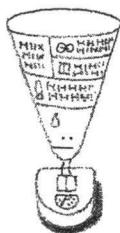
とつぶりと歴女かはまる奥の院

のとり 張切て
羽曳野市 黒木ひとみ

がんばって生きでござる。しかし古利半は
横浜市 菊地 政勝

唐津市 坂本 蜂朗
さき締めてみせ

12月号発表
(10月15日締切)



(平本 霧石人 画)

『ここでゆつくり』

小 谷 小 雪 著

川 上 大 輪

作家川柳選集（近畿編）にも句を発表されている小雪さん。いつも笑顔の絶えない明るさで「川柳塔わかやま」の句会をリードし盛り上げてくれている。

この度、新葉館出版より小谷小雪川柳句集『ここでゆつくり』を上梓された。

第一章 「まぶしい まぶしい」

思うまま伸びてごらんと春の土

手のなかの朝日あなたと半分こ

わたくしの脱皮を急かす春キャベツ

早起きにたくさん打てる句読点

素っぴんのようで手抜きをしていない本を読むことも一つの格闘技

第二章 「ほんやりと雲をみている」

メツキが剥げてもわたしらしく光る

これ以上縮まぬように鍵かつこ

台風に少しどきどき鬼瓦

鎌のおかげ互いに角隠す

アンテナにまだ平成の周波数

途中からどしゃぶり泣いていられない

第三章 「陽気にいきましょう」

ストレスを空っぽにして千鳥足

血管の流れもさらり春になる

挙げた旗一人きりでも振り続け

ふるざとの隅っこに私の陣地

見守つて何にもしないのも一手

何となくぐすぐずしたい月曜日

小谷小雪川柳句集『ここでゆつくり』

B6判96ページ。2023年6月14

日、新葉館出版発行。（定価1200円+税）

てくる小雪さんの姿が見えてくる。

長い人生そんなに急がないで、この邊でお茶でも飲みながらのんびりとお喋りでもしませんか、と緊張感をほぐしてくれる心遣いも嬉しい。

自然に溶け込み、自分の姿をもう一人の自分が眺めているような細やかな感性。

蝶のように自由に飛び回る遊び心や精神力の強さなど、何の衒いもない。

しっかりととした生活に根を張りながらも、句の背景には温かく優しい家族の絆さえも見えてくるようだ。

各章のタイトルを見ても小雪さんらしいネーミングで楽しい。是非一度は目を通して戴きたい句集であり、次回の句集にも期待は膨らむばかりだ。

川柳塔なら

創立25周年記念 誌上大会に寄せて

中原 比呂志

「川柳塔なら」はこの10月で創立25周年を迎えることが出来ました、これもひとえに柳友各位のご支援のたまものと感謝を申し上げます。

振り返ってみれば奈良県下においては番傘句会は数多く存在していましたが川柳塔社の同人たちでお世話する句会はなかったのである。

奈良においての川柳塔社との関わりは、1951年（昭和26年）1月15日、若草山焼きに路郎先生の「俺に似よ俺に似るなど子を思ひ」の仕掛け花火が打ち上げられるイベントが過去にあって世間を驚かせたが一過性のものであった。

1961年（昭和36）阪大川柳会の内海貞三博士が奈良医大に移られ、御子息が奈良高校に入学されたのを機に学内に短詩型文学同好会が創設され、麻生路郎先生が講師として招聘されたのが組織的な動きの最初である。

創立句会では兼題「奈良」を掲げ、今回も「奈良」を皆さんに詠んでいただくこと

初である。そして、橋高薰風子、宮口笛生、戸田古方の人達も参加して、川雑奈良支部が発足し、ガリ版摺りA5版句報誌『川雑奈良』が発行された。1年後、改題して印刷版16ページ冊子『桜井線』が発行されるまでになった。

その中で中内孚彦君は卒業後、関西学院に進学し「関学川柳会」を立ち上げたが学生故に卒業後の学内では後継者が続かなかつた故に自然消滅の形となってしまった。

1998年（平成10）春の本社常任理事会では塔社同人も増えたこともあって「奈良県下で何とか句会の設立」との要望もあり、秋の設立句会へと準備が始まったのである。会長・宮口笛生、事務局・中原比

呂志、会計・米田恭昌、句会担当・坊農柳宏、吉川寿美の5名であった。

会の名称は平仮名書きが良いと、田中正坊編集長の提案命名である。

兼題と選者（各題2句）	
〔奈 良〕	大久保眞澄 謝選
〔秋 晴 れ〕	稻葉 良岩 選
〔わくわく〕	島岡美智子 選
〔か け る〕	田中 薫 選
〔競 う〕	土田 欣之 選
〔アクトイブ〕	新家 完司 選
私の一句（自由吟）自作一句（既发表句も可）	
締 切 令和5年10月31日（火）必着	
投句料 1000円（切手はご遠慮ください）	
投句用紙 指定用紙（コピー可・便箋可）	
投句先 〒636-0202	
奈良県磯城郡川西町結崎421-64	
長谷川崇明宛	
問い合わせ先 (TEL&FAX 0742-44-845)	(携帯090-9548-9610)

川柳塔なら創立25周年記念 川柳誌上大会

になつた。1／4世紀前と比較して、どのような「奈良」の句が生まれるだろうか楽しみである。

『麻生路郎読本』余滴(78)

「雪」⑦

桑原道夫

「雪」5号は、大正4年12月1日発行。
通しの頁で53～68頁。表紙(53頁)、57頁
「何を観てゐるのか」裏表紙「猿芝居の立役」の挿画を伊藤觀魚が描いている。「猿

芝居の立役」を下段に載せておく。

54、55頁に、日車の新短歌が掲載されて
いるが、三行分から書きになつてある。

「淨沙門」7句より

淋しい／＼時は

淨沙門

海荒るる日は

お念佛を

申します

「佛の日」8句より

佛の日

旗の日を

その描いた畫が

如何に淋しく

氣に入らず

越す身かな

56頁の路郎作品は一行書き。

「中年」8句より

家、さがし疲れてひたすらに花を見る
こころたひら冬の珈琲する
中年になつて考へることのみ多き
中年の眞摯さを僕も知りそめし
降りさうな十一月の火鉢に黙す

假裝せし人々に

白粉を洗ひ落せばさびしからんに

58～60頁は、中谷義一郎の「劇作者としてのショウ」。ジョージ・バーナード・ショーの劇評を紹介している。

61頁は、川上日車の「權威の窮屈」。最終回なので全文挙げておく。

權威の窮屈

川上 日車

多くの場合自分等は、事實の最も正確なるものとして、之を檢事の調書に求めて居る。檢事は自己の濶合を豫審の階梯に用ひても、調書には一切の自己を打捨てゝ、只なつてゐる。藝術が自己的思想を假裝せず

表白する尊さと、檢事が己を空^{むな}して事實を追究する權威とは、共に相讓らぬ程緊張した態度である。

嘘をつく女には嘘をつく處に眞實は流れてゐる。嘘をついた爲にどんな影響が人々に及ぼしたかは、女が最初から豫期して居つた事ではない、只嘘をつくべくその時の心理やら、苦みやら、嬉れしさが女の眞實であつて、嘘をついたといふ罪惡はほんの批評に過ぎない。

天才の多くに氣違じみた言行の多いは、眞實の追究が段々尖つて、そこに常人と全く掛け離れた眞實を見出すからであつて、この點から言へば現代の人々は一様に氣違じみた方面に進みつゝあるとも言へる。眞實の權威は自分等の怒を不平に化し、喜びを嘲に轉じ、天地は窮迫して、死の新生涯に導かんとする。自分等はこの眞實の權威から來る窮屈に、超越した思想に向つて道を拓かねばならぬ。(打切り)



「權威の窮屈」
（路郎著）

62～65頁に、游魚選の「雪俳壇」47句が掲載されている。

爪先の痛ひ足袋で自転車に乗る
大根と並べて足袋が干してある

岸の明るさ柳大搖れに散る

炭つぐさへあじきない夜なり

三味線を掛けば南天に日が當る

66頁は、觀魚の詩「東片町より」。

至水 緑郎 游魚 同



「雪」6号は、大正5年1月1日発行。
通しの頁で69～88頁。表紙(69頁)、76頁「品川にて」の挿画は伊藤觀魚。
77頁「奈良に」と「川上日車の評論」
の挿画は小出栄重。
裏表紙の加藤靜兒
の挿画「薄氷のはりつめた朝」を次に載せておく。

70頁、日車作品「極望」8句より
よろこびの髪に冷たい櫛を見る

壺抱いて戀より深いものを見る

71頁、路郎作品「二食」8句より
風邪のここち飛行機の音を遠くきけり

六疊に「ん」日父としての愛
72、73頁は、川上日車の評論「ちかめの
よりあひ」。第一次世界大戦下の日本の貿易問題について評している。

74、75頁は、路郎の「僕のマント」。父の古いマントの話。後半を挿入する。

「明治四十二年の夏、大阪に未曾有の大
火があつて間もなく親爺は脳溢血で亡くな
つた。引續いて人のいゝ兄が戸主になつた
ので自然マントも兄の手に移つた。兄はそ

の後萩の茶屋の郊外に安い家を借りて會社員生活を續けてゐた。西風をまともにうけて毎朝葱煙を抜けて行く兄はいつもこのマントにくるまつてゐたが、會社を退いて自分で商賣をするやうになつてから殆んどマントの必要がなくなつたので僕に呉れることになつた。

兄でも僕でも段々と親爺に似て背はすらりと高くなるし肥つてゐた肉は自づと落ちて了つたので寸法の上からは左程見苦し

くもなかつたが、扱貰つてみると聊か迷惑でもつた。その頃の僕は高商出のチヤキチヤキで一ト角の青年紳士になりすまして居たんだもの、月賦の洋服やオバーコートは着ても三十年式のマントは御免蒙りたかったのだ。それからの數年間は僕の野心が東京へ走つたり大阪へ舞ひ戻つたりして夢のやうに暮らしてゐた。幾度か病魔のために翻弄されたのもその間であつた。それから結婚もすれば金錢問題の苦痛も現實に知るやうになつた。そのころに僕の病軀をしつかりと抱き締めて僕の心的革命を助けて呉れたのはこのマントであつた。僕は毎日平氣な顔で舊世紀のマントを着て歩くやうになつた。

僕に第二の心的革命が起つた時分には僕は一人の兒の父になつてゐた。此の調子では僕に二人目の子が産きることはあつてもマントとの新調はとても覺束ない。

僕は天の恵みの甚大なのを思ふてこの古マントに深く感謝してゐる次第である。僕等は既に社會から勞力對報酬の問題は聞き飽きてゐるが、僕に與へられた一着の古マントは永久に報酬を求めてゐない。

(次回に続く)

本社九月句会

◇九月七日（木）午後一時

ア ウ イ 一 ナ 大 阪

きくけこ」でよりよく生きましょう。（眞澄）
月間賞は高杉力さん（大阪市）
司会—武人・真理子（脇取—勝弘・志津子）
(受付—すみ子・志津子)（懸垂幕墨書—耕治）
(清記—憲彦・勝弘・国和)

席題「稀」 上田 和宏 選

長い猛暑日から少し解放されたかと思う7

日、9月句会は、112名（うち投句者17名）の参加で開催された。初出席は若屋市の筧靖夫さんと西宮市の矢野むべさんのお二人。

今月のお話は平井美智子さん。題は「2と3と4と5」。「太郎を呼べば太郎が来る」とは、美智子さんが母とも仰ぐ時実新子の言葉。明るい言葉は明るく前向きにしてくれる。

今月は二度も小遣いくれた妻 正和
下五ではねる句

きれいだな焼くのは惜しいデスマスク

かすみ

老いや死を見つめて

エンディングノートにそつと書く預金

重男

老いても恋

古いの恋とろとろ着込む粥の味 武彦

か感動、(き)興味、(く)工夫、(け)健康、(こ)恋「か

呼名する声が稀だと裏返る

谷口 東風

握手とハグ稀なチャンスを待っていた
ラムネ瓶ビーエフたつ入つての
あの男奢つてくれた雨ふるで

長谷川崇明

稀の稀今日はボーカー一人勝ち
昨日見たのは夢かサンマの大漁旗
当てずっぽう稀に当たつてうろたえる

虹の橋二重にかかる雨あがり

百点にまれではないと威張る孫
投げて打ち走りおまけに男前

正論を稀に言いだす天邪鬼

くどうくみつ
35年2月29日生まれです

稀に咲く月下美人と徹夜する

稀に来る孫へクーラー取り換える

森 菊江
米田利恵子
青木ゆきみ

石田 孝純

富永 恭子

ユニセフへ稀には寄付もするオトコ

竹の花が咲いたあなたに逢えました

片岡 加代

森 松まつお
居谷真理子
吉道航太郎

伊達 郁夫

高杉 力

35年2月29日生まれです

秋まつりまぐれ当たりは米俵

特上のうなぎが届く敬老日

青木 隆一
吉道航太郎
奥野健一郎

鈴木 いさお

佳

稀にでも当つて欲しい宝クジ

稀にでも當つて欲しい宝クジ

出口セツ子

ぐうたらの夫がお風呂磨いてる
僕だけが文庫読んでる電車内

ごく稀にウケることある親父ギャグ

森林まつお

片岡 加代

ごく稀にウケることある親父ギャグ

鳥田 握夢

稀に言うジョークに妻の眼が光る
我が家ではジーコジーコの黒電話

エスカルゴが好物という日本人

藤井 宏造

ごく稀にウケることある親父ギャグ

川端 六点

お父ちゃんオレがネクタイ締めてやろ

ごく稀にウケることある親父ギャグ

居谷真理子

片岡 加代

ごく稀にウケることある親父ギャグ

居谷 真理子

ごく稀にウケることある親父ギャグ

ごく稀にウケることある親父ギャグ

藤井 宏造

ごく稀にウケることある親父ギャグ

片岡 加代

ごく稀にウケることある親父ギャグ

片岡 加代

両手挙げ稀にはあるぞチップイン

西上 遊二

Jアラート稀が普通になる恐さ

長谷川崇明

稀に抜けるから頑張って来る句会

出口セツ子

文庫本読んでる人に鳴呼昭和

松岡 篤

もう飲めぬ貴方が美女に見えてきた

村田 博

職退いて昼行灯になる男
佳

木本 朱夏

僕達の罪なんですか温暖化

野口真桜子

ほんやりと見れば愛妻超美人

今井万紗子

突つ立つてないあなたも手伝つて

坂上 淳司

白熊の寝床も溶かす温暖化

プロボーズ出来ぬ息子の背中押す

鈴木いさお

大久保眞澄

老後設計を壊してしまう物価高

坂上 淳司

ほんやりの彼にもあつた傷の跡

山下じゅん子

吉村久仁雄

羅針盤壊れ彷徨うネオン街

青木 隆一

掏摸だつてほんやりすればスラれます

奥野健一郎

視界ほんやりあなたを見つめすぎたから

今井万紗子

歩くも暑いし川柳浮かばんし

糸谷和郎

内藤 憲彦

内藤 憲彦

青木 隆一

麻酔切れこの世に戻る声を聞く

吉道あかね

廃線を知らずにバスを待つている

木本 朱夏

坂上 淳司

ほんやりと空見てた子が予報士に

谷口 東風

ほんやりと月を眺める妻が好き

人

青木 隆一

別嬪に見惚れふた駅乗り過ごす

新家 完司

名人のほんやりした手後で効く

川端 一步

新家 完司

ほんやりしてゴキブリになめられた

内藤 憲彦

激暑の日半分とけた顔が行く

古今堂蕉子

新家 完司

ほんやりと見ると島の名が変わる

山田 耕治

天

中岡千代美

坂上 淳司

次の世がほんやり見えて来た八十路

坂上 淳司

足元がほんやり消えているが美女

川端 六点

新家 完司

ほんやりしても貸したお金は忘れない

今井万紗子

軸

斎藤 隆浩

新家 完司

ほんやりと添つてくれるかおぼる月

森 菊江

ほんやりと見て飽きない人の波

斎藤 隆浩

新家 完司

ほんやりとなく遺影はほんやりが似合う

江島谷勝弘

ほんやりとなじみの猫を待つ暮れ

齋藤 隆浩

新家 完司

ほんやりとひとり旅ですほんやりとひとり

荻野 浩子

ブーチンの頭は破壊されている

村田 博

新家 完司

ほんやりは出来ぬブーチンの影武者

澤井 敏治

日本の心壊して流す汚染水

長尾 千賀

新家 完司

ほんやりと袋どじには目がきりり

新阜 義明

穏やかな暮しを破壊する戦

大内 朝子

新家 完司

ほんやりでも見えたらありがたいやんか

川端 六点

少年の夢は壊れて閑バイ

廣田 和織

新家 完司

ほんやりのような案山子が穂を守る

奥野健一郎

一度壊すとすぐになくなる一万円

斎藤 隆浩

新家 完司

借りたのか貰ったのかももう忘れ

居谷真理子

ほんやりと空見てた子が予報士に

山崎 武彦

新家 完司

眺めるだけの人生だったかも

コンタクト外せばわたくしの世界

日常を異常気象が壊し出す

酒井 健二

新家 完司

青木ゆきみ

兼題「壊れる」

藤井 宏造 選

満開が散る美しい壊れ方

居谷真理子

撮り鉄の旅ですほんやりとひとり

新家 完司

母さんが壊れるキッキンが荒れる

中岡千代美

ほんやり見えて来た八十路

新家 完司

ほんやり消えているが美女

川端 六点

新家 完司

ほんやりとなく遺影はほんやりが似合う

江島谷勝弘

ほんやりとなじみの猫を待つ暮れ

斎藤 隆浩

新家 完司

ほんやりと見ると島の名が変わる

新家 完司

ほんやり消えているが美女

川端 六点

新家 完司

ほんやりと見つてくれるかおぼる月

新家 完司

ほんやりと見て飽きない人の波

斎藤 隆浩

新家 完司

ほんやりとなく遺影はほんやりが似合う

江島谷勝弘

ほんやりとなじみの猫を待つ暮れ

斎藤 隆浩

新家 完司

青木ゆきみ

春と秋四季が壊れる温暖化
飲み会の予定壊れた妻の喝
佳
しあわせが壊れないよう手を繋ぐ
ヒビ割れは皺の仕業だ厚化粧
壊れたら困る一位は冷蔵庫
見なければ良かつた君の大欠伸
少しつつ壊れてしまう父を抱く
静寂を壊してしまう蚊の羽音
地
人
天
軸
水のようなつきあいだから壊れない
壊れそうな妻には薬よりも愛
水のようなつきあいだから壊れない
派遣切り僕が壊れていく予感
兼題「色 色」 新家
「声」欄の色々な声なるほどね
ブーチンを崇拜してる人もいる
様々な人に踏まれて丸くなり
秋の七草派手さはないがいい仲間
お茶でもと長い色色聞かされる

川上	大輪	山崎	武彦
山田	耕治	藤田	武人
吉道あかね		矢野	むべ
柿花	和夫	糀谷	和郎
小野	雅美	小野	雅美
きとうこみつ		初代	正彦
居谷真理子		藤井	則彦
岸田	万彩	太田	昭
吉道あかね		山田	耕治
山田	耕治	吉道あかね	

掃除すんだよ洗濯がまだやんか
英語にも訛りがあつてややこしい
子が家出夫蒸発かなわんな
充電に七色食事しています
色々と手を焼いた子が母介護
飾りもの全部外すとどちら様
色々と試したけれど増えぬ髪
団塊とまとめて言うないろいろよ
色々な神様拝む日本人
「人生いろいろ」さ島倉千代子だよ
肘鉄かハゲかそれとも平手打ち
しつかりと昨日は泣いて今日笑う
色々とあつて四度目の出戻り
いろいろな漫才ネタのある浪速
平凡な夫婦などないボブスレー
色々と話すが返事ない仏
恋もいろいろキツネタスキが好きな人
色々な男と同じ映画観る
安楽死を願う色悪悲さして
本命が出るまでガチャガチャを回す
どの色が出るかサクマのドロップス
よくもまあ色々不正思いつく
ふる里に人それぞれの青い空
デザートもうどんも廻る廻る寿司

大久保真澄
島田 宏造
藤井 握農
山崎 武彦
青木ゆきる
柴本ばつは
山野 寿之
柿花 和夫
奥野健一郎
平賀 国和
江島谷勝弘
森 廣子
奥澤洋次郎
水野 黒重
柄尾 奏子
平松かすみ
川端 一歩
高杉 力
米田利恵子
小島 蘭幸
中井 菊
森松まつぶ
斎藤 隆浩
きとうこみつ

アレに向は 手拭いにし 肩寄せ合つて	豪雨慈雨冒 逆立ちちもぱ 遺失物係	性别はその ままのままの 卒寿でもじ 艶魅魍魎に	ご意見を免 同じ服の、 負け方を乞 色々な意見	色々な鬼 妻が捨てよ 負け方を乞 色々な意見	違う顔違 色んな顔
兼題	封	ト	付	付	付

「さあ正念場
包んでロッ
チリメンジャヤ
「自由吟」
泰風微風好き
人地
八
他の欄に○
入れ歯お骨
エ
るの親戚筋ら
ハまずいない
ヨギング古琴
夫は三十種類
色言つて「知
りわってる終
点鼻に医者に
人が拾う粗大
巳々知つて強
先があつて民
住

電車行く ゴミくなる 主主義
電車待ち しい らんけど くる
でも徘徊 ある 小島 勝手

澤井 敏治
吉谷真理子
青木 隆一
千井美智子
村久仁雄
近々木満作
上田 和宏
林 菊江
店谷真理子
久保真澄
初尾 奏子
不嶋 千岡 加代
千井美智子
盛隆 淳司
長尾 千賀
青木 公輔
園幸 選

怪我しなや折つてたのに大谷君 古今堂蕉子 行く夏を惜しむわたしの余命表 木本 朱夏
 また何か悪さしそうな黒い雲 森松まつお 少しだけ元気になれたわらび餅 片岡 加代
 朝日見る夕日見るのもふたりきり 吉道あかね 薫風俊平新子居た頃熱かった 西出 枫楽
 トーストも焦げて猛暑がまだ続く 秋ですね少しお話しませんか 奥野健一郎
 怒りは小出しに喜びは爆発 吉道あかね
 今ならばとても言えない「おーいお茶」 古今堂蕉子
 金一封額はともかくいい気分 奥野健一郎
 動物に芸をさせたくない私 柴本ばっは
 二番目の悩みを友へ打ち明ける 小野 雅美 森田 旅人
 帰るなり母ちやん逆上がりが出来た 島田 握夢 長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお
 黄泉行きも試練満席の火葬場 富野 幸也 横田 あきこ
 寝込んだら愛想ない子が先に来た 山本加おり
 風の時代仲間とともに生きていく 平賀 国和 油谷 克己
 地球沸騰われら明日へどう生きる 初代 正彦 折田 あきこ
 家族の証明特に要らない家族風呂 きとうこみつ
 善人の方に分類されている 高杉 力 山本加おり
 追っ払うコロナヘダンジリの太鼓 萩野 浩子 重荷用自転車 中二の夏だった
 美味しいと食べて風評追い返す 上田 和宏 軸
 真夏日に五百羅漢も苦笑い 長谷川崇明
 背を伸ばしまだこの世歩かねば 今井万紗子
 析る手の形で開花待つ蕾 坂上 淳司
 鯖洗う叱つてくれる人恋し 敏森 廣光
 鯖の眼は見れば見るほど夢憂げな 青木 隆一
 スナックのマイクは俺を歌手にする 江島谷勝弘
 逝く夏を詩人になつて見送ろう 上田ひとみ

— 蘭幸・完司・朱夏・美智子推薦	— 蘭幸・完司・朱夏・美智子推薦	— 蘭幸・完司・朱夏・美智子推薦	— 蘭幸・完司・朱夏・美智子推薦
天才はいつも頭を搔いている 川上 大輪	少しだけ元気になれたわらび餅 片岡 加代	薰風俊平新子居た頃熱かった 西出 枫楽	
神戸市東灘区本山南町1-1-1-12-608	大阪市阿倍野区阪南町4-2-1-7	吉道あかね	奥野健一郎
— 545-00015	— 545-00031	秋ですね少しお話しませんか	
— 546-00031	— 546-00031	一人旅世界は温いものと知る	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	キヤリーパックが横切るご免とも言わず	
— 546-00031	— 546-00031	廃屋の庭に夾竹桃の白	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	平凡な人生なんかあるもんか	
— 546-00031	— 546-00031	新家 完司	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	地	
— 546-00031	— 546-00031	山本加おり	
— 546-00031	— 546-00031	龍	
— 546-00031	— 546-00031	重荷用自転車 中二の夏だった	
— 546-00031	— 546-00031	軸	
— 546-00031	— 546-00031	待つておるうちにハシビロコウになる 高杉 力	
— 546-00031	— 546-00031	天	
— 546-00031	— 546-00031	人	
— 546-00031	— 546-00031	森田 旅人	
— 546-00031	— 546-00031	長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお	
— 546-00031	— 546-00031	居谷真理子	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない 新家 完司	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	地	
— 546-00031	— 546-00031	山本加おり	
— 546-00031	— 546-00031	龍	
— 546-00031	— 546-00031	重荷用自転車 中二の夏だった	
— 546-00031	— 546-00031	軸	
— 546-00031	— 546-00031	待つておるうちにハシビロコウになる 高杉 力	
— 546-00031	— 546-00031	天	
— 546-00031	— 546-00031	人	
— 546-00031	— 546-00031	森田 旅人	
— 546-00031	— 546-00031	長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお	
— 546-00031	— 546-00031	居谷真理子	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない 新家 完司	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	地	
— 546-00031	— 546-00031	山本加おり	
— 546-00031	— 546-00031	龍	
— 546-00031	— 546-00031	重荷用自転車 中二の夏だった	
— 546-00031	— 546-00031	軸	
— 546-00031	— 546-00031	待つておるうちにハシビロコウになる 高杉 力	
— 546-00031	— 546-00031	天	
— 546-00031	— 546-00031	人	
— 546-00031	— 546-00031	森田 旅人	
— 546-00031	— 546-00031	長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお	
— 546-00031	— 546-00031	居谷真理子	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない 新家 完司	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	地	
— 546-00031	— 546-00031	山本加おり	
— 546-00031	— 546-00031	龍	
— 546-00031	— 546-00031	重荷用自転車 中二の夏だった	
— 546-00031	— 546-00031	軸	
— 546-00031	— 546-00031	待つておるうちにハシビロコウになる 高杉 力	
— 546-00031	— 546-00031	天	
— 546-00031	— 546-00031	人	
— 546-00031	— 546-00031	森田 旅人	
— 546-00031	— 546-00031	長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお	
— 546-00031	— 546-00031	居谷真理子	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない 新家 完司	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	地	
— 546-00031	— 546-00031	山本加おり	
— 546-00031	— 546-00031	龍	
— 546-00031	— 546-00031	重荷用自転車 中二の夏だった	
— 546-00031	— 546-00031	軸	
— 546-00031	— 546-00031	待つておるうちにハシビロコウになる 高杉 力	
— 546-00031	— 546-00031	天	
— 546-00031	— 546-00031	人	
— 546-00031	— 546-00031	森田 旅人	
— 546-00031	— 546-00031	長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお	
— 546-00031	— 546-00031	居谷真理子	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない 新家 完司	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	地	
— 546-00031	— 546-00031	山本加おり	
— 546-00031	— 546-00031	龍	
— 546-00031	— 546-00031	重荷用自転車 中二の夏だった	
— 546-00031	— 546-00031	軸	
— 546-00031	— 546-00031	待つておるうちにハシビロコウになる 高杉 力	
— 546-00031	— 546-00031	天	
— 546-00031	— 546-00031	人	
— 546-00031	— 546-00031	森田 旅人	
— 546-00031	— 546-00031	長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお	
— 546-00031	— 546-00031	居谷真理子	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない 新家 完司	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	地	
— 546-00031	— 546-00031	山本加おり	
— 546-00031	— 546-00031	龍	
— 546-00031	— 546-00031	重荷用自転車 中二の夏だった	
— 546-00031	— 546-00031	軸	
— 546-00031	— 546-00031	待つておるうちにハシビロコウになる 高杉 力	
— 546-00031	— 546-00031	天	
— 546-00031	— 546-00031	人	
— 546-00031	— 546-00031	森田 旅人	
— 546-00031	— 546-00031	長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお	
— 546-00031	— 546-00031	居谷真理子	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない 新家 完司	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	地	
— 546-00031	— 546-00031	山本加おり	
— 546-00031	— 546-00031	龍	
— 546-00031	— 546-00031	重荷用自転車 中二の夏だった	
— 546-00031	— 546-00031	軸	
— 546-00031	— 546-00031	待つておるうちにハシビロコウになる 高杉 力	
— 546-00031	— 546-00031	天	
— 546-00031	— 546-00031	人	
— 546-00031	— 546-00031	森田 旅人	
— 546-00031	— 546-00031	長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお	
— 546-00031	— 546-00031	居谷真理子	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない 新家 完司	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	地	
— 546-00031	— 546-00031	山本加おり	
— 546-00031	— 546-00031	龍	
— 546-00031	— 546-00031	重荷用自転車 中二の夏だった	
— 546-00031	— 546-00031	軸	
— 546-00031	— 546-00031	待つておるうちにハシビロコウになる 高杉 力	
— 546-00031	— 546-00031	天	
— 546-00031	— 546-00031	人	
— 546-00031	— 546-00031	森田 旅人	
— 546-00031	— 546-00031	長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお	
— 546-00031	— 546-00031	居谷真理子	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない 新家 完司	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	地	
— 546-00031	— 546-00031	山本加おり	
— 546-00031	— 546-00031	龍	
— 546-00031	— 546-00031	重荷用自転車 中二の夏だった	
— 546-00031	— 546-00031	軸	
— 546-00031	— 546-00031	待つておるうちにハシビロコウになる 高杉 力	
— 546-00031	— 546-00031	天	
— 546-00031	— 546-00031	人	
— 546-00031	— 546-00031	森田 旅人	
— 546-00031	— 546-00031	長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお	
— 546-00031	— 546-00031	居谷真理子	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない 新家 完司	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	地	
— 546-00031	— 546-00031	山本加おり	
— 546-00031	— 546-00031	龍	
— 546-00031	— 546-00031	重荷用自転車 中二の夏だった	
— 546-00031	— 546-00031	軸	
— 546-00031	— 546-00031	待つておるうちにハシビロコウになる 高杉 力	
— 546-00031	— 546-00031	天	
— 546-00031	— 546-00031	人	
— 546-00031	— 546-00031	森田 旅人	
— 546-00031	— 546-00031	長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお	
— 546-00031	— 546-00031	居谷真理子	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない 新家 完司	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	折田 あきこ	
— 546-00031	— 546-00031	地	
— 546-00031	— 546-00031	山本加おり	
— 546-00031	— 546-00031	龍	
— 546-00031	— 546-00031	重荷用自転車 中二の夏だった	
— 546-00031	— 546-00031	軸	
— 546-00031	— 546-00031	待つておるうちにハシビロコウになる 高杉 力	
— 546-00031	— 546-00031	天	
— 546-00031	— 546-00031	人	
— 546-00031	— 546-00031	森田 旅人	
— 546-00031	— 546-00031	長生きの蟬が十日目に死んだ 鈴木いさお	
— 546-00031	— 546-00031	居谷真理子	
— 546-00031	— 546-00031	神戸牛です神戸の街で食べたから	
— 546-00031	— 546-00031	天使なら先ほど通り過ぎました	
— 546-00031	— 546-00031	吉道航太郎	
— 546-00031	— 546-00031	死にかけた今年の夏を忘れない 新家 完	

モヒカ

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。

編集部

川柳塔みちのく(青森) 稲見 則彦報

外食もうかうか出来ぬ世になつた 龍馬
火事の度必ず死者の出る怖さ ふさゑ
触れないでおこう紫陽花枯れるまで 炙
王林にけたい県民栄誉賞 霜石
それぞれのルージュの色をとり戻す 和香子
良い事がひとつあつたよ今日は丸 洋子
返り咲くはなもおぼろに年をとり 規子
笑われたなら笑つてやるさ ケセラセラ
老いの道空氣を読めず浮くばかり のぶよし
読む気力失せるニュースが多すぎる 初枝
読みぬのに英字新聞持ち歩く 則彦
読ませたい本に子供はそっぽ向き 英子
マネキンに心読まれる試着室 ひとし
読み込んでは出來ない選者です 孝子
読めるけど書けない漢字増えていく 隆樹
言う時は相手の心読んでから 重虎
読み込んで没に出来ない江

政治家が庶民の気持ち読みません
終りまで約款読んだ事がない
AIも追いかけてません読む聰太
きみの真意確かめてリトマス紙
読みかけのページを風にめぐられる
宿題の本読みの声甘えてる
全力より余力残してする仕事
暑い暑い扇風機背にゴロ寝です
クーラーが毎日唸る夏日くる

懐かしい魚に秋刀魚名を連らね 松岡
方言を覚えて馴染む転任地 篤報
方言を喋りに行こう縄のれん
品格はどうあれわたし河内弁
古里を捨てて方言守り抜く
大阪の人ねと一言ばれる

方言と知らなかつたなわが言葉 懐かしい魚に秋刀魚名を連らね
方言にフツと浮かんだ里景色 松岡
もうかりまつかほぢでんなそらよろし
炎帝も避暑に出かける40℃
ほろ酔いに吹く極楽の余り風
誰にでも優しいそれは罪だらう
さざ波が輝く一日溶けてゆく

電話詐欺ドボンと嵌る高齢者 川柳塔吹(鳥取)
夏休みドボン飛び込む川の堰 齊尾くにこ報
川風のそよそよ昼夜邪魔もなし
そよそよとしても見え見え下心 照彦
日本中七夕飾り夏を飲む 清人
自分でそよそよ手持ち扇風機 義人
そよ風と会話が弾む夕涼み
ゴミ捨て場地上も海も宇宙まで 加おり江

どの面を下げるプライド捨てようか

重利

布ぞうり古布捨てず手編みする
見栄捨てることは私でもきそだ
へその緒と母子手帳とも捨てましよう

久米代

うなだれて捨てられていく扇風機
ゴミ捨てに天神様が捨ててある
素直になれとじつと見守る星月夜

貴恵

次々と捨てて山頂目指します
七夕の星に願うはまず健康
愛娘希望の星が逝つちやつた

三津子

さくら葉桜星降る街に住んでいる
惜しみなく貴男にあげる星五つ
星と星つなぎ神話が生まれ出る

美知江

我家流もてなし方は星いくつ
さくら葉桜星降る街に住んでいる
惜しみなく貴男にあげる星五つ

石花菜

龍枝
富隆
重忠
貴子

龍枝
富隆
重忠
貴子

七夕の星に願うはまず健康
愛娘希望の星が逝つちやつた
我家流もてなし方は星いくつ

美千
節子
芳光
紀の治

美千
節子
芳光
紀の治

さくら葉桜星降る街に住んでいる

くにこ

川柳さんだ(兵庫)

酒井 健二報

七夕の星に願うはまず健康
愛娘希望の星が逝つちやつた
我家流もてなし方は星いくつ

美千
節子
芳光
紀の治

さくら葉桜星降る街に住んでいる
惜しみなく貴男にあげる星五つ
星と星つなぎ神話が生まれ出る

美千
節子
芳光
紀の治

ゆづくりとゆづくり歩きけつます
ゆるゆると湯船に浸かり忘れました
車椅子母とのんびり紫陽花を

和子
英秋
宗鉄

ゆづくりとゆづくり歩きけつます
ゆるゆると湯船に浸かり忘れました
車椅子母とのんびり紫陽花を

和子
英秋
宗鉄

人生の午後はゆづくり川下る
公園デビューこの子パパ似のダンゴ鼻

喜久子
真桜子

人生の午後はゆづくり川下る
公園デビューこの子パパ似のダンゴ鼻

喜久子
真桜子

入道雲アニマル達がいつばいだ
カバ観ればなぜか先生想い出す

利子
義徳

入道雲アニマル達がいつばいだ
カバ観ればなぜか先生想い出す

利子
義徳

若竹に孫の成長重ねみる

野薫

嫁さんは母親を見て決めました
村の牛連想させる鼻ビヤス
戦争あまりに軽い生と命

修平

横綱が休場すると軽く言う
耳元で床屋のハサミよく喋る
若い命死にたにいなど言うでない
骨拾いあなたこんなに軽くなり

俊朗

一度だが背負った母は軽かった
ハルカスの高さを察知する鼓膜
山寺にあるといいなエレベーター

敏夫

階段とエレベーターが駅支え
ニンニクとコロン悲惨なエレベーター
タワマンの二階が我が家で階段で

正和

動くのをみんな待ってる押し忘れ
原発のツケまで払う電気代
伝票の取り合は加減難しい

宏造

暑氣払い毎日ビール欠かせない
目前でゴールドカード出しよった
父の名の表札捨てるに捨てられぬ

万彩

夏散歩陰を求めて増える距離
アナログ派マイナーカードも作らない

祐康

渡辺 富子 選

雅尚

夕焼けの彩がわたくしに染みていく
人と人心耕す笑みと笑み

徹

とりあえず謎の行列ついてみる
手品師の鳩は夢見る広い空

哲男

改心の指は一本ずつ洗う
忍び違う二人春見逃さぬ

耕治

ヤジロペー金を見せたら傾いた
四捨五入すれば人生多分マル

雄太郎

本当のところ波打ち際で知る
あつさり語る背中に修羅の海

義朋

藤井 則彦	選	敬子	洋子	明子	文子	雅子	澄子	宏子	陽子	美子	道子	限子	之子
鋪装路の割れ目にタンボボの粘り		浅はかな自分を責める茶の苦さ		母という傘は豈んだことがない		法律に勝る田舎にあるルール		知恵絞り出でくる知恵は握りかす		以前の山が決断せよと言う		償いに名もない花は地に還る	
村の牛連想させる鼻ビヤス		浅はかな自分を責める茶の苦さ		母という傘は豈んだことがない		法律に勝る田舎にあるルール		浅はかな自分を責める茶の苦さ		空気より水より妻の有難さ		償いに名もない花は地に還る	
戦争あまりに軽い生と命		母という傘は豈んだことがない		母という傘は豈んだことがない		知恵絞り出でくる知恵は握りかす		母という傘は豈んだことがない		空気より水より妻の有難さ		償いに名もない花は地に還る	
嫁さんは母親を見て決めました		嫁さんは母親を見て決めました		嫁さんは母親を見て決めました		嫁さんは母親を見て決めました		嫁さんは母親を見て決めました		嫁さんは母親を見て決めました		嫁さんは母親を見て決めました	
耳元で床屋のハサミよく喋る		耳元で床屋のハサミよく喋る		耳元で床屋のハサミよく喋る		耳元で床屋のハサミよく喋る		耳元で床屋のハサミよく喋る		耳元で床屋のハサミよく喋る		耳元で床屋のハサミよく喋る	
若い命死にたにいなど言うでない		若い命死にたにいなど言うでない		若い命死にたにいなど言うでない		若い命死にたにいなど言うでない		若い命死にたにいなど言うでない		若い命死にたにいなど言うでない		若い命死にたにいなど言うでない	
骨拾いあなたこんなに軽くなり		骨拾いあなたこんなに軽くなり		骨拾いあなたこんなに軽くなり		骨拾いあなたこんなに軽くなり		骨拾いあなたこんなに軽くなり		骨拾いあなたこんなに軽くなり		骨拾いあなたこんなに軽くなり	
一度だが背負った母は軽かった		一度だが背負った母は軽かった		一度だが背負った母は軽かった		一度だが背負った母は軽かった		一度だが背負った母は軽かった		一度だが背負った母は軽かった		一度だが背負った母は軽かった	
ハルカスの高さを察知する鼓膜		ハルカスの高さを察知する鼓膜		ハルカスの高さを察知する鼓膜		ハルカスの高さを察知する鼓膜		ハルカスの高さを察知する鼓膜		ハルカスの高さを察知する鼓膜		ハルカスの高さを察知する鼓膜	
山寺にあるといいなエレベーター		山寺にあるといいなエレベーター		山寺にあるといいなエレベーター		山寺にあるといいなエレベーター		山寺にあるといいなエレベーター		山寺にあるといいなエレベーター		山寺にあるといいなエレベーター	
階段とエレベーターが駅支え		階段とエレベーターが駅支え		階段とエレベーターが駅支え		階段とエレベーターが駅支え		階段とエレベーターが駅支え		階段とエレベーターが駅支え		階段とエレベーターが駅支え	
ニンニクとコロン悲惨なエレベーター		ニンニクとコロン悲惨なエレベーター		ニンニクとコロン悲惨なエレベーター		ニンニクとコロン悲惨なエレベーター		ニンニクとコロン悲惨なエレベーター		ニンニクとコロン悲惨なエレベーター		ニンニクとコロン悲惨なエレベーター	
タワマンの二階が我が家で階段で		タワマンの二階が我が家で階段で		タワマンの二階が我が家で階段で		タワマンの二階が我が家で階段で		タワマンの二階が我が家で階段で		タワマンの二階が我が家で階段で		タワマンの二階が我が家で階段で	
動くのをみんな待ってる押し忘れ		動くのをみんな待ってる押し忘れ		動くのをみんな待ってる押し忘れ		動くのをみんな待ってる押し忘れ		動くのをみんな待ってる押し忘れ		動くのをみんな待ってる押し忘れ		動くのをみんな待ってる押し忘れ	
原発のツケまで払う電気代		原発のツケまで払う電気代		原発のツケまで払う電気代		原発のツケまで払う電気代		原発のツケまで払う電気代		原発のツケまで払う電気代		原発のツケまで払う電気代	
伝票の取り合は加減難しい		伝票の取り合は加減難しい		伝票の取り合は加減難しい		伝票の取り合は加減難しい		伝票の取り合は加減難しい		伝票の取り合は加減難しい		伝票の取り合は加減難しい	
暑氣払い毎日ビール欠かせない		暑氣払い毎日ビール欠かせない		暑氣払い毎日ビール欠かせない		暑氣払い毎日ビール欠かせない		暑氣払い毎日ビール欠かせない		暑氣払い毎日ビール欠かせない		暑氣払い毎日ビール欠かせない	
目前でゴールドカード出しよった		目前でゴールドカード出しよった		目前でゴールドカード出しよった		目前でゴールドカード出しよった		目前でゴールドカード出しよった		目前でゴールドカード出しよった		目前でゴールドカード出しよった	
父の名の表札捨てるに捨てられぬ		父の名の表札捨てるに捨てられぬ		父の名の表札捨てるに捨てられぬ		父の名の表札捨てるに捨てられぬ		父の名の表札捨てるに捨てられぬ		父の名の表札捨てるに捨てられぬ		父の名の表札捨てるに捨てられぬ	
夕焼けの彩がわたくしに染みていく		夕焼けの彩がわたくしに染みていく		夕焼けの彩がわたくしに染みていく		夕焼けの彩がわたくしに染みていく		夕焼けの彩がわたくしに染みていく		夕焼けの彩がわたくしに染みていく		夕焼けの彩がわたくしに染みていく	
人と人心耕す笑みと笑み		人と人心耕す笑みと笑み		人と人心耕す笑みと笑み		人と人心耕す笑みと笑み		人と人心耕す笑みと笑み		人と人心耕す笑みと笑み		人と人心耕す笑みと笑み	
とりあえず謎の行列ついてみる		とりあえず謎の行列ついてみる		とりあえず謎の行列ついてみる		とりあえず謎の行列ついてみる		とりあえず謎の行列ついてみる		とりあえず謎の行列ついてみる		とりあえず謎の行列ついてみる	
手品師の鳩は夢見る広い空		手品師の鳩は夢見る広い空		手品師の鳩は夢見る広い空		手品師の鳩は夢見る広い空		手品師の鳩は夢見る広い空		手品師の鳩は夢見る広い空		手品師の鳩は夢見る広い空	
とりあえず謎の行列ついてみる		とりあえず謎の行列ついてみる		とりあえず謎の行列ついてみる		とりあえず謎の行列ついてみる		とりあえず謎の行列ついてみる		とりあえず謎の行列ついてみる		とりあえず謎の行列ついてみる	
改心の指は一本ずつ洗う		改心の指は一本ずつ洗う		改心の指は一本ずつ洗う		改心の指は一本ずつ洗う		改心の指は一本ずつ洗う		改心の指は一本ずつ洗う		改心の指は一本ずつ洗う	
忍び違う二人春見逃さぬ		忍び違う二人春見逃さぬ		忍び違う二人春見逃さぬ		忍び違う二人春見逃さぬ		忍び違う二人春見逃さぬ		忍び違う二人春見逃さぬ		忍び違う二人春見逃さぬ	
アナログ派マイナーカードも作らない		アナログ派マイナーカードも作らない		アナログ派マイナーカードも作らない		アナログ派マイナーカードも作らない		アナログ派マイナーカードも作らない		アナログ派マイナーカードも作らない		アナログ派マイナーカードも作らない	
ヤジロペー金を見せたら傾いた		ヤジロペー金を見せたら傾いた		ヤジロペー金を見せたら傾いた		ヤジロペー金を見せたら傾いた		ヤジロペー金を見せたら傾いた		ヤジロペー金を見せたら傾いた		ヤジロペー金を見せたら傾いた	
四捨五入すれば人生多分マル		四捨五入すれば人生多分マル		四捨五入すれば人生多分マル		四捨五入すれば人生多分マル		四捨五入すれば人生多分マル		四捨五入すれば人生多分マル		四捨五入すれば人生多分マル	
本当のところ波打ち際で知る		本当のところ波打ち際で知る		本当のところ波打ち際で知る		本当のところ波打ち際で知る		本当のところ波打ち際で知る		本当のところ波打ち際で知る		本当のところ波打ち際で知る	
あつさり語る背中に修羅の海		あつさり語る背中に修羅の海		あつさり語る背中に修羅の海		あつさり語る背中に修羅の海		あつさり語る背中に修羅の海		あつさり語る背中に修羅の海		あつさり語る背中に修羅の海	
淑子 彦彦 宏雄 幸俊 和俊 和幸 美知江		淑子 彦彦 宏雄 幸俊 和俊 和幸 美知江		淑子 彦彦 宏雄 幸俊 和俊 和幸 美知江		淑子 彦彦 宏雄 幸俊 和俊 和幸 美知江		淑子 彦彦 宏雄 幸俊 和俊 和幸 美知江		淑子 彦彦 宏雄 幸俊 和俊 和幸 美知江		淑子 彦彦 宏雄 幸俊 和俊 和幸 美知江	

「春兵衛」のラベルを胸に飲みに行く完司
喜んで妻の翼になつて補佐

信用を背負つてラベル旅に出る

くたびれて嘘も誠もごちや混ぜ

僕のこと勝手なラベル貼らないで

カレンダー予定日に貼る赤ラベル

品種別謄むラベルの試験田

凄腕だ民芸館に漆盆

酒好きがラベルを当てて褒められる

願い込めふわりふわりを腕に抱く

はびきの市民川柳会(大阪)藤原大子報

炎天下ひたいの汗は滝のよう

とばつちりは受けたくないと口閉ざす

しぶきあげブールで遊ぶ声聞かぬ

誠実に生きいくのは難しい

頑張つても私は蛙の子

高価なラベルを観ていて五輝星

夕焼けに染まつて燃える朱の鳥居

交わりでいつの間にやら方言で

朱の色が古墳壁画に鮮やかに

勇気出して交わつた朱も色褪せる

御朱印船異國のロマンも乗せ帰り

朱に染まる大きな秋の空の雲

赤門が遠くに見える受験生

添削の朱筆で駄句が甦る

忙しいああ忙しい忙しい

忙しい日々に元気を貰うてます

忙しいふりして妻の目を逸らす

79日間の巴里の暮らしあはめまぐるし

忙しいと断る理由今は無い

朝ドラに合わせ父ちゃん忙しい

カレンダーなんもない日は月五日

泣いて笑つて恋はいつでも忙しい

止まること忘れた暁の中華鍋

食べながらしゃべり携帯テレビ観る

妥協して時計廻りに添う余生

草取りを子らも手伝う雨上がり

給料が子の成長に化けて行く

傘さして散歩する人立派です

おだやかに夫婦時計が合つてている

零細の計上だけの社長給

振込みの数字に染みる汗の跡

宏造 いさお 康一 正義 大子 菊美 重忠 瑞子 草文 静恵 延子 平一 蟹郎 すみれ 茶子 かおる はびきの市民川柳会(大阪)藤原大子報

水害の恐怖しつかり記憶する

雨傘も遊び道具となる下校

目覚しをセット予定がある至福

給料で少しはそくり旅資金

誰にも見せぬ悔し涙の一秒差

日時計と今日話を話して過疎に住み

給料アップ裏で労働強化され

青春に時計が戻るクラス会

強がつて傘をささない反抗期

母介護時計がせかす終電車

回復を報してくれる腹時計

小心で時計三分進めとく

負けないで止まない雨はないのです

雨続祺喜ぶ人と困る人

腕時計外し夕餉の腕捲り

一秒が過去となつて大切さ

太陽の言うままで年後

世のゴミを雨雲呼んで流しましよう

雨の朝二度寝樂しむりタイヤ後

セレブでもビニール傘を買う時雨

両親に霜降り肉の初給与

捨捨離の決意が揺らぐ走り梅雨

仕舞い風呂今日一日を褒めてやる

給料の一部を飢餓の子に送る

趣味のお陰心に歳は取らせない

炎天とコロナ疲れの数珠つなぎ

腕時計装飾品に成り下がる

曾祖父になつた自覺の時計巻く

眞智子

悦男

知香

康則

あき子

明子

和美

俊介

さやか

庸郷

洋一

一步

瑞子

洋一

千鶴子

千鶴

富柳会(大阪富田林)山野寿之報

曖昧な笑顔に僕は騙される

炎天とコロナ疲れの数珠つなぎ

上品に喋ると口が縛れ出す

和子

保州

彦彦

豊剛

次栄

幸侃

桂明

弘泰

由夏子

武人

千鶴

軽快に西を目指している歩幅

人情は紙のごとしのブーチン氏

温暖化超え地球はもはや沸騰化

風一陣川が心が動き出す

すいすいと世間を渡る二枚舌

失敗も恐れず夢の花を待つ

人間の海で抜手を切る河童

世知辛い世間にすいすい泳ぐ猛者

効果適面すいすい通る茶封筒

マイナンバー人の懐探す指

足るを分け足らずを足していく番

飲むと言う知らせの指を丸くする

マイナンバー使うかどうか迷つてる

傘寿米寿愉快に過ぎた待つ白寿

ヤングケアラー今日もまつすぐ帰宅する

悲しみは暗闇の中流れ星

本心も天日に晒し除菌する

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

ともかくも行列あれば並ぶ人

ボランティア家族絵出でゴミ拾い

半夏生凜と立つて夏美人

酒飲みにノンアルコール勧められ

火花散らす和服姿の土俵下

七夕の願い多すぎしなる竹

孫達のサボータです少しだけ

女子会で声高らかにはほ笑んで

ホイホイゴキブリ素直に入らない

A.I.も支えきれないブーチン氏

シミしわにポイントが付く夢を見た

雨上がり不要なカサを道連れに

ネジ巻くと雄弁になる古時計

長柳会(大阪)

大島ともご報

雨乞いなら一肌脱ぐわ雨女

ともこ 開バイトネットで出会いはある罠

恵みの雨時に牙をむいてくる

多數決少し遅れて手を擧げる

ごめんねの一言だけで雨上がる

ふる里の空き家を守る父母の墓

醉つてもいつもの場所に着地する

炎天下風鈴の音かき水

恥いっぱい包んで生きるが笑い

いろいろ人生持つて同じ趣味

人々の故郷の山河事も無げ

バランスを妻ファーストで整える

俄か主夫レシピ片手にまた味見

この出逢い誤解だつたと妻が言う

フィルターを通して愛を確かめる

肩書きは専業主婦と言ふ名刺

久しぶり繋いだ妻の手が温い

あやふやな数字に困るパスワード

電気代命と比べクリーを

引越した気分だ部屋の模様替え

読めるけど書けぬ漢字が多くなる

難題を抱えて悩む青い星

難問とケーキを抱え友が来る

川柳花の輪(大阪)

川本 信子報

袖にしたイケメン娘を見直した

亜成 イケメンもみんな同じく老いていく

やすの イケメンもいつときだけよビール腹

笑子 イケメンの周りで蝶になる熟女

ひと見てズキンときた夫の友

和織 メチャクチャに運動し過ぎ熱中症

好きなだけ応援をした甲子園

世の流れ滅茶苦茶にした新コロナ

博泉 動かない家人に笛を吹いてみる

まみ子 優先席に並ぶスマホに杖が泣く

三樹夫 平凡な暮らし保てる有り難さ

かつ子 結弦ちゃんの結婚そっとしてあげて

美千代 結弦ちゃんの結婚そっとしてあげて

あらいやだほうけたまねはしんさんな

一平 ほうけるなまだお迎えは来ませんぞ

隆浩 エンディングノートはほうける前に書く

八千代 ほうけるなど俺の辞書には載つてない

(ほうける)因幡方言で呆ける

登美子

克巳

福子

ふみ

子が産まれ親の恩知る時が来た
早口のコントを嫌う老いの耳
運だけで後半戦も駆けるだけ
遠回り急がなくて明日がある
泥かぶる愛する家族守るため
継ぎ接ぎの人生だから味がある
青空に打ち明けようか胸の内
人間を拒み続けて水は澄み
平和への台本誰が持っている
台本の余白好き好き好きで埋め
悔やまれる書いたシナリオ全て没
不思議にも台本通り生きている
台本のない人間の白い道
人生は見えぬ台本迫つて生き
神様に生きる台本渡される
男女とは流れに添うて海に入る
BGM自然に体動き出す
ありのまますっかり慣れたグレイヘ
あー無常自然の髪がなくなつた
あつけらかんと卒寿の母は自然体
天然と自然が同居わが夫
柿たわわ自然へ還る音がする
笑顔つていいね自然と輪ができる
仕返しかこむら返りに泣く夜中
仕返しを虎視眈々と狙つてる
仕返しは紙に納めて神棚へ

(門)
秋昌 紫無由回勲紀節峰欣厚賴茶鐘拓千善紫宏金
勝 紀美江子明之子夫人旭治子真理由千賀子
月鼓 陽限女章子代祥平陽章代

段末のエイの尻尾に刺されちゃ
仕返しの銃は狙いを外さない
仕返しはしない君より大人です
まな板の鯉が指噛むこともある

川柳あまがさき(兵庫) 大浦

この暑さ大好きだけど離れてよ
猛暑にも平気で入るサウナ風呂
暑がり屋冬になつたら寒がり屋
あちちあちち日本列島まつ赤ッ赤
ソーセージ車内に忘れ蒸し上がる
ないないを数えずあるあるを数える
セミ取りをする子が居ない夏休み
遠くから好きな娘見てた部活動
えいやあと判子を押して家を買う
赤ちゃんがわろたわろたと皆が寄り
昨日へは戻つてゆかぬと決めたのに
死の前夜夫の電話「ありがとう」
死を覚悟遺影をおいて戦場へ
覚悟して老いねばならぬ余生の日
死神と話の覚悟昼夜寝覚め
土用の丑腹をくくつて内地産
腹決めて三十九度の町へ出る
覚悟してチャットGPTにトライする
老後などなんとかなると覚悟する
本物の鮨屋にたまに行きたいが
握り寿司最後はシャコでとめました

朝子和修り初ゆきみ
蟹郎吾一紜
郎和柳素楓新初
君眞理子江華録音
良種洋次郎
紀明江厚
英鉄華夫
宗種明

米粒を握つただけで五つ星
翔平聰太握手をすれば大ニュース
最後には指まで食べる握り飯
飽きる程添つた夫とフルムーン
戒名とお話ししてゐる妻の数珠
首相の耳は初めから遠かつた
冬きらい言うてた口で夏はいや
後悔は遠いあの日についた嘘
認知症妻に受診を勧められ

一歩
宏造
紀惠
祐康
弘勝
耕治
一英
坊

原稿紙二枚を埋める小半日
面倒は白紙に戻すことにする

わかやま吟社

松原 藤塚 克三報

句会ではまだ青いプリトマト
菜園の不出来なトマト今盛り
さんざめく祭りの音頭にわかぶし
学校はほめてくれますこのスコア
ナストスマトキユウリの花の風物詩
トマトむくひと手間かけて離乳食
あれ欲しい可愛い孫の甘い声
体型が目立たぬように遊ぶ服
未来永劫平和であれと原爆忌
目立たないところにさりげなくオシャレ
弁当の隙間を埋めるブチトマト
ケチャップでオムレツぱつと華やいで

何にでも化けて重宝新聞紙

あの時の二つ返事が重くなる

お気軽に越し下さい言われても

お安い約束で忘れてるらしい

お礼の言葉から人柄が透ける

電話口頭を下げる気配

合掌へお礼の言葉包み込む

目に見えぬパンチハートに突き刺さる

腹立つとパンチの効いた味になる

増税の連打財布に効いている

パンチなら今でも打てる舐めるなよ

半端じやないパンチの効いた激カレー

ハットするパンチの効いたコマーシャル

一発のパンチは父の愛だった

テリトリリー壊すと怖い猫パンチ

一発のパンチにタオル投げ込まれ

蟬の声聞こえた待った梅雨明けた

よしこ 大輪

川柳ねやがわ(大阪)

籠島 恵子報

アホですわ風上ばかり立たざられ

恐ろしいワナは優しい顔で来る

どうしても合わぬ差額で徹夜する

かみさんが風上に居て平和です

蕎麦の香だ峠の茶屋はすぐ其処だ

風上に立つとひとりぼっちになる

風上に立つ心地よさ知らぬまま

風上にバキュームカーが停つてゐる

片足を鬼が掴んでいる夢悪

暴風雨瞬時に水で歩けない

人間が恐くて布団被つてゐる

差額分こつそり裏でご褒美に

平均寿命超えた余命は白寿まで

消し忘れこげる匂いでどきりんこ

うつかりと熨斗袋札人れ忘れ

うつかりは日常茶飯事です傘寿

のめり込み朝が来たのも知らなんだ

地獄行き天国行きと間違えて

うつかりが増えて大丈夫と訊かれ

うつかりをあわせ税と母笑う

スコップでびょんびょん飛んで遊んだな

悪事ばかり考へてゐるひまな人

閑居して飲むことばかり考へる

スコップで防空壕を掘った日よ

カバンの底で眠り込んでた当たりくじ

生きてるか生きているよと案じ合う

これからは気ままに跳べる羽を買う

これがまたおじぎ草

かばんの底で眠り込んでた当たりくじ

生きてるか生きているよと案じ合う

これからは気ままに跳べる羽を買う

これがまたおじぎ草

かばんの底で眠り込んでた当たりくじ

生きてるか生きているよと案じ合う

これからは気ままに跳べる羽を買う

これがまたおじぎ草

かばんの底で眠り込んでた当たりくじ

生きてるか生きているよと案じ合う

これからは気ままに跳べる羽を買う

軒先のぶらり瓢箪見てくらす

農繁期不眠不休のバインダー

極楽に行けぬと知つてから氣楽

タクシー代あれば良いんだあとは呑む

叱られて平気な自分に腹が立つ

消しゴムで消して欲しいな世の慘事

想い出は一直線の海彼方

だつたらいいな風上のはるらんまん

アホですわ風上ばかり立たざられ

恐ろしいワナは優しい顔で来る

どうしても合わぬ差額で徹夜する

かみさんが風上に居て平和です

蕎麦の香だ峠の茶屋はすぐ其処だ

風上に立つとひとりぼっちになる

風上に立つ心地よさ知らぬまま

風上にバキュームカーが停つてゐる

片足を鬼が掴んでいる夢悪

暴風雨瞬時に水で歩けない

人間が恐くて布団被つてゐる

差額分こつそり裏でご褒美に

平均寿命超えた余命は白寿まで

消し忘れこげる匂いでどきりんこ

うつかりと熨斗袋札人れ忘れ

うつかりは日常茶飯事です傘寿

のめり込み朝が来たのも知らなんだ

地獄行き天国行きと間違えて

うつかりが増えて大丈夫と訊かれ

うつかりをあわせ税と母笑う

スコップでびょんびょん飛んで遊んだな

悪事ばかり考へてゐるひまな人

閑居して飲むことばかり考へる

スコップで防空壕を掘った日よ

カバンの底で眠り込んでた当たりくじ

生きてるか生きているよと案じ合う

これからは気ままに跳べる羽を買う

これがまたおじぎ草

カバンの底で眠り込んでた当たりくじ

生きてるか生きているよと案じ合う

これからは気ままに跳べる羽を買う

これがまたおじぎ草

カバンの底で眠り込んでた当たりくじ

生きてるか生きているよと案じ合う

これからは気ままに跳べる羽を買う

高壽彦夫峰志

郁武順銀博鈍恵子

高壽彦夫峰志

蟬の声聞こえた待った梅雨明けた

純子

川柳ねやがわ(大阪)

籠島 恵子報

川柳ねやがわ(大阪)

閑静な邸大きな堀の中
昼下がり居留守を使い長閑なり

川柳de遊ぼう会(大阪) 石田

孝純報

風露
雄大

波に乗り波に溺れていく世間
まだだとそろそろの波せめぎ合う
定年後波打ち際の漢たち

嫌いの波こぬまま好きが押しよせて
心臓の鼓動たしかめ部屋をでる
ブランコの揺れが止まらぬまで喜寿

満知子
次郎

必ず事故起きそう空飛ぶ車
要りますか空飛ぶ車理解不可
飾られて出番待てる高級酒
週刊誌表紙を飾る殺し

自叙伝のところどころにある飾り
電飾みたい天気図のカミナリ記号
ひとり身になればゆつくり出来るかな
ゆつくりと島が沈んでいく地球

宏造
一弥

東欧の最前線から来た遺品
この星に誰が線引く国と国
喜寿を過ぎローカル線に乗り換える
八百万山の神までいる日本

二人の世界ゆつくり回れ観覧車
鶴亀算係に習つて腑に落ちる
マイナンバー個人情報手の内に
なるほど連発されて興がさめ

黒兎
直子

曲げもする強い信念札束が
なるほどをはてなマークが消す時世
手を合わす今日神様は留守でした
なるほどね二重瞼になつてゐる
嘘つかれ氣付かぬ振りも年の功
突き詰めれば裏で糸引く人がいた
人生のレシピ白寿に導かれ

奈津子
久仁子

久仁子
篤

馬鹿算係に習つて腑に落ちる
マイナンバー個人情報手の内に
なるほど連発されて興がさめ
鶴亀算係に習つて腑に落ちる
マイナンバー個人情報手の内に
なるほどをはてなマークが消す時世
手を合わす今日神様は留守でした
なるほどね二重瞼になつてゐる
嘘つかれ氣付かぬ振りも年の功
突き詰めれば裏で糸引く人がいた
人生のレシピ白寿に導かれ

川柳塔なら
大久保眞澄報

恭昌
貫一

エックス線に透けたまさかの腹黒さ
東欧の最前線から来た遺品
この星に誰が線引く国と国
喜寿を過ぎローカル線に乗り換える
八百万山の神までいる日本

樂しみは孫が一人でくると言つ
昼間から一人宴会妻は留守
孫が来てはしゃぐ毎日夏休み

休肝日ゼロで毎日飲んでる
八月忌エンジョイ知らず散つた兵

冬のト
隆一
則彦
冬のト
隆一
則彦

てゐるひこ
よしみ
のり子

勝弘
百合子

北のドンひとり膨れて恙ない
卒寿でのふくれつ面が愛らしい
膨らんだ餅がブシユッと深呼吸

歳月が徐々に抜ける隙間風
疲れてる今日は切身で生きてます
お父ちゃんうちが裏口開けといだ

(阪) 恵子
康雄

良岩
行久
崇明
良岩
行久
崇明

短冊に書ききれぬ程願い事
幸せのふり行間にある涙

喜美子
爽也

まさじ
みほ子
薰
崇明

連れ合いの気分の波に揺れ動く
運合中バナナ一本またファイト

千恵子
千恵子

馬鹿算係に習つて腑に落ちる
マイナンバー個人情報手の内に
なるほど連発されて興がさめ
鶴亀算係に習つて腑に落ちる
マイナンバー個人情報手の内に
なるほどをはてなマークが消す時世
手を合わす今日神様は留守でした
なるほどね二重瞼になつてゐる
嘘つかれ氣付かぬ振りも年の功
突き詰めれば裏で糸引く人がいた
人生のレシピ白寿に導かれ

歳月が徐々に抜ける隙間風
疲れてる今日は切身で生きてます
お父ちゃんうちが裏口開けといだ

孝純
敬子

馬鹿算係に習つて腑に落ちる
マイナンバー個人情報手の内に
なるほど連発されて興がさめ
鶴亀算係に習つて腑に落ちる
マイナンバー個人情報手の内に
なるほどをはてなマークが消す時世
手を合わす今日神様は留守でした
なるほどね二重瞼になつてゐる
嘘つかれ氣付かぬ振りも年の功
突き詰めれば裏で糸引く人がいた
人生のレシピ白寿に導かれ

琴線に触れる言葉に愛がある
温暖化超える酷暑化沸騰化

自らがこだわる線でなやみぬき

一線を退き見えた人間味
川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

(中) 佳子

子

ほたる川柳同好会(大阪) 水野 黒兎報

正子

ママチャリを捨てた理由はヘルメット

春代

琴線に触れる言葉に愛がある

ママ

チヤリ

を捨

た

理

由

は

ヘル

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ッ

ト

メ

ブーチンよゼレンスキード握手しろ
恐竜と握手したあと強くなる
ボテンヒットから打者一巡の攻め
トンネルのため一本の巨樹が泣く
引き金を引く涙腺に命中す
泣くような苦しみ耐えた人生路
涙腺に鍵をかけたとチヤップリン
太陽を冷やせ日本が焦げている
夜々にゴッドハンドを磨いてる

あきら
孝子
徳利
小鹿
ゆき子
豊仙
美智子
芳山
のり子

西宮きたぐち(兵庫) 緒方美津子報

三叉路の入り口打算よぎりだす
友情の狭間で迷う保証印
慎ましく生きた証に家ひとつ
「限定品」なぜか不思議と欲しくなる
置いたはずいつも不思議と老婆言う
バイキング迷う事なく全部とる
割勘に強いお方がおられます

恭子
良種
俊雄
ゆきみ
みよし
盛夫
和夫
利子
恵美子
美津子
野薫
朝子
ダン吉
志津子
龍せん
光子
則男

あきら
孝子
徳利
小鹿
ゆき子
豊仙
美智子
芳山
のり子

涙腺に鍵をかけたとチヤップリン
太陽を冷やせ日本が焦げている
夜々にゴッドハンドを磨いてる

あきら
孝子
徳利
小鹿
ゆき子
豊仙
美智子
芳山
のり子

西宮きたぐち(兵庫) 緒方美津子報

三叉路の入り口打算よぎりだす
友情の狭間で迷う保証印
慎ましく生きた証に家ひとつ
「限定品」なぜか不思議と欲しくなる
置いたはずいつも不思議と老婆言う
バイキング迷う事なく全部とる
割勘に強いお方がおられます

恭子
良種
俊雄
ゆきみ
みよし
盛夫
和夫
利子
恵美子
美津子
野薫
朝子
ダン吉
志津子
龍せん
光子
則男

ひと付き合い馴染む馴染まずなぜ起きた
あなた待つそんな私にさようなら
生き様の証を晒す立志伝
戦争を許して死刑許さない
お疲れと10時3時の骨休め
子の涙ここはひとまず許そつか
ニンゲンを迷わずチャットGTP
迷つたら必ず大きい方をとる
瘦せていた頃の証拠を持ち受けに
女性にはまずはキレイと言つておく
二割引きなら迷わず買う饅
ガン告知そudsセカンドオピニオン
夕立にひとまず避難いざ酒屋
迷つたらかあさんの顔見て決める
苦節越え生きた証しの皴数多
何でやろ好きも嫌いも女偏
慰めも励ましもする缶ビール

義幸
ひとみ
野鶴
洋次郎
義明
緑
和宏
宏造
隆一
廣光
宏
和
君の機転で八方丸く収まつた
握手したから味方とは限らない
そもそもが敵と味方じゃない握手
グータッチより握手の方が気が通う
ごつごつの温かい手だ信じよう
ケンカした子供が握手すぐ笑顔
八十の手習いでる五七五
沖縄戦追いつめられて死のダイブ
トップレスでダイビングする古希の夢
飛ぶよりも着地練習せよと月
死にみやげやつたらスカイダイビング
ダイビングもう好きになつてしまつたから
議事堂でふとしなくなるダイビング
核禁へ耳傾けず目もくれず
使われて迷惑だらう除草剤
東電がIAEA拌んでる
検察は人権壊す機関かや
物価高わけは聞くなとウクライナ
ウクライナ被爆地だけはしたくない

義幸
ひとみ
野鶴
洋次郎
義明
緑
和宏
君の機転で八方丸く収まつた
握手したから味方とは限らない
そもそもが敵と味方じゃない握手
グータッチより握手の方が気が通う
ごつごつの温かい手だ信じよう
ケンカした子供が握手すぐ笑顔
八十の手習いでる五七五
沖縄戦追いつめられて死のダイブ
トップレスでダイビングする古希の夢
飛ぶよりも着地練習せよと月
死にみやげやつたらスカイダイビング
ダイビングもう好きになつてしまつたから
議事堂でふとしなくなるダイビング
核禁へ耳傾けず目もくれず
使われて迷惑だらう除草剤
東電がIAEA拌んでる
検察は人権壊す機関かや
物価高わけは聞くなとウクライナ
ウクライナ被爆地だけはしたくない

大阪は饅より體や負けはせん
八・五一非戦の誓いなお固し
国会の八百長質疑反吐が出る
八百万の神怒りは沸騰中
八つあんと熊さん仲良く喧嘩する
八の字を並べて平和ハハハハ
八月は悲惨な思い永遠に継ぐ
君の機転で八方丸く収まつた
握手したから味方とは限らない
そもそもが敵と味方じゃない握手
グータッチより握手の方が気が通う
ごつごつの温かい手だ信じよう
ケンカした子供が握手すぐ笑顔
八十の手習いでる五七五
沖縄戦追いつめられて死のダイブ
トップレスでダイビングする古希の夢
飛ぶよりも着地練習せよと月
死にみやげやつたらスカイダイビング
ダイビングもう好きになつてしまつたから
議事堂でふとしなくなるダイビング
核禁へ耳傾けず目もくれず
使われて迷惑だらう除草剤
東電がIAEA拌んでる
検察は人権壊す機関かや
物価高わけは聞くなとウクライナ
ウクライナ被爆地だけはしたくない

は
郁夫
征之
文聰
拓治ゼミ
ひろし
松敏子
浩子
文構
文子
忍
正
楓楽
万作
裕之
志津子
龍せん
光子
則男

空爆の絶え間絵を描く子ら真顔
健闘たたえ抱き合い握手球児達

六甲川柳会

糸谷 和郎報

正 康
福貴子

塩梅の勘がゆれだす台所
デコボコのメンバー揃う夏祭り
友だちの名の宝ものメール来る
あの世とこの世日々に壁が薄くなり
よく動き食べてストンと眠る日日
旅立ちの母へ施す薄化粧
何もかも違うふたりのこの暮し
喜怒哀楽デコボコ道の隠し味
台風もノロノロして盆休み
家族葬これ幸いの薄い縁
すんなりと巣には戻れぬ迷い蟻
やんわりと打たれた釘の正確さ
うたた寝のまま永遠に眠りたい
貸した千円今更返せと言ひ難い
七回忌今更悔やむ親不孝
裏方の影は薄いが欠かせない
十年もたつて今更どうするの
薄っぺらな知識も時には役に立ち
デコボコの道で鍛えた晴れ姿
デコボコを触覚頼り点字読む
凸淡路凹は琵琶湖でピツタンコ
誰やつた今更聞けぬ同窓会

義博
盛夫
紀乃
廣光
恭子
美恵子
ひとみ
和宏
崇史

「明日がある」当り前だと歌つてた
翔平聰太勝つておこらすよく眠る
生きている証か山も谷もある
隣にはトドガ寝息をたてている
熱波だな夜中蝉が騒いでる
いつからか皆が追い抜いて歩く
凸凹にしてから修理やつてます
判押して重たくなつた薄い紙
あの頃の美貌戻してお願ひね
「ほな眠る」言つてあの世へ行つたきり
ホームランでびたつと止めた蝉時雨
今更に既婚者でしたそれはない
ペラペラの紙が恐怖の武器になる

武彦
宏
勝弘
健二
宗鉄
寿之
義明
和郎
利子
祐一
光久
道子
弘
則
哲
廣
和
光
子
英
満
玲
作
旺

豊中もぐせい川柳会(大阪)初代 正彦報
八十の手習いはじめ湧く元気
甘辛い人生だつたと苦笑い
信念を曲げてる欲にからんでる
うきうきと娘とベアーシースル
熱線で焼けた戦禍の思いなお
老いてなお旋毛まげてる一人膳
辛いけどうま味のあった父の説
日々ニュース観るのも辛いウクライナ
もう少し地味なら何度でも着れる
風呂敷を派手に拡げてみたものの
この坂を越えよううと明日が来る

道子
弘
則
哲
廣
和
光
子
英
満
玲
作
旺

順之
千賀子
正美
次郎
利恵子
千賀子
和宏
崇史
狸月
次郎
和郎
利子
祐一
光久
道子
弘
則
哲
廣
和
光
子
英
三
晴子
多美子
健二
真理子
時子
武彦
公輔
憲央

世間とはずれても老母の自己犠牲
若い二人すれた会話も恙無い
ふる里は稻穂実つて秋まつり
プレーがずれて地上は大地震

クーラーがなれりや人間どうしてた
監督が目立ちたがつてアッピール (福正)
警察官派手に笛吹く事故の処理
もつともっと猛暑を煽る蝉時雨
どん底に落ちても信念は曲げぬ
主婦歴が五十年もう飽きました
力むからいつも空振りしてしまう
社長だけ曲げる角度が浅い詫び
辛いときは見上げてみよう青い空
人の字の左の方が夫なの
鉄板の上で焼かれている思い
生き様が熱い男のむこう脛
エアコンに深夜手当も払わねば
なんとしても曲げたい鼻が二三人
針金の通りにならぬボクは松
なんやかや地球まるごと熱中症
夢破れ男は捨てた故郷へ
派手を捨て愚直に生きた土踏まず
四つ角を曲れば灯りつくわが家
水割りと今日の暑さを語り合う

道子
弘
則
哲
廣
和
光
子
英
満
玲
作
旺

川柳藤井寺(大阪)

鈴木いさお報

久仁雄
ちづる
さくら
かずお

75回 岸和田市文化祭参加 第72回岸和田市民川柳大会

日 時 2023年10月22日(日) 12時開場
(昼食は済ませてお越しください。
お茶は用意します)

会 場 岸和田市立福祉総合センター 3階大会議室
(岸和田市野田町1-5-5 ☎ 072-438-2321)

清 興 音楽サークル・らんらん(女性コーラス)

課題と選者 (各題2句)・席題なし

「救 う」	冬の ト	選	瑠美子
「穏 や か」	内藤 憲彦	選	いさお
「あっさり」	荻野 浩子	選	
「ド ラ マ」	居谷真理子	選	
「夜 明 け」	岩佐ダン吉	選	

締 切 13時10分

披 講 14時30分

会 費 1,500円

呈 賞 「岸川賞」「文化祭賞」「操子賞」

問い合わせ先

岩佐ダン吉 072-428-0325 石田ひろ子 072-431-2672

雪本 珠子 072-423-3116 中岡 香代 072-423-5569

主 催 岸和田市・岸和田市教育委員会

共 催 岸和田市文化祭実行委員会

参加団体 岸和田川柳会

新緑に出会って初夏に別れたの
梅雨明けの緑殊更目にしめる
骨休め緑のシャワーあびにゆく
緑児が笑える星であつて欲し
昭和の悪夢夜空を棲めた焼夷弾
陽に染まる大阪城が美しい
もう爪は染めずあなたの子に戻る
もみじさん見事染めたね風の声
友禅の色鮮やかさ寒の川
自分色に染める余白を残して
じっくりと染めあげられたこの私

瑠美子
いさお
昌 常 克 己 一 歩 ひろ子 緑 栄 子

藍染にのめり込んでる手の青さ
解禁のマスク怖くてはずされず
喪が開けてエラいきれいにならはった
声出せる応援やはりすかつとす
長髪も解禁されての甲子園
夏至が来た女子学生の白い肌
愛あれば邪魔はしません喉ほとけ
四年ぶりマスク解禁妻の顔
言い訳はしないと決めた筈なのに
安全とはつきり言えぬ汚染水
三度目の結婚ついてくる不安

英 峰 二 敏 澄 真 三 勝 久 哲 夫 三 勝 久 哲 夫 二
珠 子 一 まさき 吾 一 まさき 三 勝 久 哲 夫 二
多代美 好きにしる父の震えた低い声
勝成 乳房と命どちらも生かす道探す
人間に戻ろうせめて核だけは
排水に安全神話稼働する
白無垢は貴方の色に染まる意思

この歳で心ゆるがす人がいる
八十路来て平らな道でけつまずく
観光で生きる沖縄武器要らぬ
悪政はどんどんひどく安倍亡き後
排水に安全神話稼働する
クラスターを送るバイデン戦犯に
人間に戻ろうせめて核だけは
(松)敏 進 ひとみ 万 和 康 信 作
博 美 子 五 二 ダン 吉 五 二 ダン 吉 五 二

第45回 寝屋川・川柳大会

誌上大会として実施することになりました。

課題と選者 各題2句

「魔 」	共選	居谷真理子	選	英 雄
「魔 」	共選	平松かすみ	選	敏 澄
「額 」	共選	池田 武彦	選	英 雄
「額 」	共選	伊達 郁夫	選	英 雄
「レール」		平井美智子	選	英 雄
「すたずた」		土田 欣之	選	英 雄

投句要領 既定の用紙(コピー可)・なければ、
便箋可

投句料 1000円 (切手不可)

投句締切 令和5年11月10日(金)厳守

呈 賞 各題 天位の句に呈賞

結果発表 12月下旬頃、発表誌送付

お問い合わせ・投句先

廣田 和織 TEL/fax 072-822-5823

携 帯 090-4905-3024

〒572 - 0840 寝屋川市太秦桜が丘7-17

柳界展望

四万十市観光協会賞

★第74回一朶の雲まつ

△動向△

▽新誌友紹介△

★令和5年芳春龍ヶ崎市

栢尾 奏子

○木本朱夏さん（和歌山

四国中央市 大西 進

私をスカーレットにする
赤だ

やま川柳大会。参加者
235名。同人・誌友成

紹介者 大内せつ子

中村ロータリークラブ賞

秀句 黒田 茂代

川柳の力」と題して講

績。 紹介者 石橋 芳山

真島久美子

残照にすんなり溶けて

演された。

寝屋川市 長尾美智子

惱みなら大きな河馬が

ゆくふたり

○倉吉川柳会（鳥取県）

紹介者 藤村 亜成

食べました

デショウウネでまとめる

の会長が竹信照彦さんか

ら大羽雄大さんに交代。

四万十ロータリークラブ賞

秀句 真島久美子

「川柳の力」と題して講

演された。

高瀬 霜石

辻内 次根

友と焼鳥屋

京都市 野坂真美子

いないないばあー君

秀句 大内せつ子

△訂正とお詫び△

大阪市 鈴子

が笑つてくれるまで

秀句 伸びしろを信じりセツ

○八月号P97後ろから3

9月7日。出席21名。(1)

四万十ライオンズクラブ賞

秀句 トくり返す

行目、大義名分揚げて↓

人事異動について(2)六賞

四百十三句。同人・誌友

秀句 大落暉いいえりセツ

P36中段17行目、新聞を

時間はP79上段「シヨツ

四万十市長賞

秀句 ボタンです

時間はP79上段「シヨツ

度収支報告最終版(4)「第

四万十のイオン海馬が

秀句 手に触れて転んでいた

時間はP79上段「シヨツ

連事項について(5)「第12

四万十のイオン海馬が

秀句 のだと気づく

時間はP79上段「シヨツ

回春の川柳塔まつり誌上

四万十だ

秀句 喜んで転がり落ちる夏

時間はP79上段「シヨツ

大会」の題と選者について

成績。

秀句 漆器から飛び出してゆ

時間はP79上段「シヨツ

て(6)「100周年記念行事」

不感だけをピンセツ

秀句 く深夜バス

時間はP79上段「シヨツ

について(7)懸案事項「見

トでつまむ

秀句 永見 心咲

時間はP79上段「シヨツ

直し案」について(8)定例

かなしみのかたちで眠

秀句 どこをどう撫でられた

時間はP79上段「シヨツ

確認事項。(9)その他

中村商工会議所賞

秀句 平井美智子

時間はP79上段「シヨツ

(木) A M 10 (

川は今明日に向かつて

秀句 いる現在地

時間はP79上段「シヨツ

次回常任理事会11月7日

第二十五回全日本川柳誌上大会

(令和柳多留)入選作品

(参加者1,530名)

令和柳多留賞

シャガールの青に戦禍は似合わない

兵庫県

瀧谷 さくら

川柳大賞

山脈を越えて大きくなる翼

秋田県

三浦 千両

NHK会長賞

平和への願い地球がひびき合う

岐阜県

武藤 敏子

日本青少年育成協会会長賞

子どもらの笑顔マスクを突き抜ける

福岡県

木村 久則

全日本川柳誌上大会賞

自画像に花の野望が秘めてある

鳥取県

木天麦青

全日本川柳誌上大会賞

続編の限りへ青い権を漕ぐ

山形県

荒江本

道化師よ集え世界は餓えている
未知数のかたまり青い実のたわわ
内輪もめしてくる場合じやない地球

秋田県

原井一光

漠よ待て砲弾の音消えるまで

福岡県

悦絃昌一子

第一次選者	(50音順)	「青い」	「飛ぶ」	「マスク」	「内覧」
仁多見	坂下	西平	菅沼	鈴木	瀧尻善英
千	いしがみ	西村	荒川	さくら	のぶなが
絵	天根	川柳	西村	八洲雄	
清	夢花	美和子	寛子		
鉄	草城	章舟	匠		
草	城				

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 打吹	14日(土) 13時30分締切 奥・ひく・ばたばた・席題	会場 倉吉市上灘町9 上灘コミュニティーセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川柳 藤井寺	15日(日) 14時締切 運動・じわじわ	会場 パープルホール 4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
豊中 もくせい 川柳会	16日(月) 14時締切 果物・鍛える・これから・自由吟	会場 豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 ねやがわ	17日(火) 13時締切 空っぽ・オンボロ・落ち込む おもしろい・自由吟	会場 寝屋川市産業振興センター 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
川柳 さんだ	17日(火) 13時30分締切 案外・高い・バッグ・笑う 自由吟	会場 キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1322 三田市すずかけ台3-4-1 E棟804 村田 博
川柳 たちばな	21日(土) 13時45分締切 印象吟・音(互選)・広い 自由句	会場 東園田町総合会館 2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳塔 みちのく	21日(土) 17時締切 葡萄・もやもや・割る	会場 - 未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稻見則彦 宛 TEL0172-36-8605
はびきの 市民 川柳会	22日(日) 14時締切 黄・賑やか・くるくる・席題	会場 陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鶴」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
岸和田 川柳会	22日(日) 第71回市民川柳大会	会場 岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄岸和田駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川柳 ふうもん 吟 吟社	22日(日) 13時から 自由吟・太い・頭・夜明け 席題	会場 県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
南大阪 川柳会	23日(月) 18時締切 逆境・ごまかす・エネルギー 雑詠	会場 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
川柳塔 すみよし	28日(土) 14時締切 父・たたく・ブロック	会場 住吉区民ホール集会室4(図書館棟2F) 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山 三幸 川柳会	28日(土) 13時15分締切 旅・早い・気持	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

10月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 なら	5日(木) 13時50分締切 あぜん・じわじわ・のぞく	会場 奈良市中部公民館 近鉄奈良駅③番出口徒歩5分 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
倉吉 川柳会	7日(土) 14時締切 汗・眉・チャンス・席題	会場 倉吉市明倫公民館 投句先 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川柳塔 まつえ 吟社	7日(土) 13時40分締切 掃除・弾む・軽い・品	会場 雜貨公民館 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
おりひめ☆ ひこぼし 川柳会	7日(土) 消印有効 ちょっと・集合・ひとやすみ	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこぼし川柳会』 藤田武人
西宮北口 川柳会	9日(月) 13時30分締切 席題・鯨・おごる・半分 自由吟	会場 西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
川柳塔 わかやま 吟社	9日(月) 14時10分締切 兼 題=小指・苦しい・スリム 課題吟=犬	会場 和歌山県JAビル11階 兼 題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諫訪森町東2-208-5 萩原道夫
ほたる 川柳 同好会	10日(火) 13時30分締切 林、森・嬉しい・さあ	会場 豊中市立螢池公民館 阪急・モノレール螢池 螢池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川柳塔 さかい	10日(火) 14時締切 しまった・重い 折句:あ・お・き	会場 東洋ビル2F (堺東駅北西改札口から2分) 欠席投句先 〒599-8122 堺市東区穴六77-4 斎藤さくら
川柳 あまがさき	10日(火) 14時締切 拾う・ヒント(連記)・まさか 自由吟	会場 東園田町総合会館2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
あかつき 川柳会	13日(金) 材・炊事・トリック・時事吟	会場 大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F203会議室) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
城北 川柳会	14日(土) 開場13時 締切14時 好き・ドッキリ・思案・自由吟	会場 旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	14日(土) 名月・盜む・自由吟・席題	会場 富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
六甲 川柳会	14日(土) 14時締切 席題・派手・ぐらぐら・運ぶ 自由吟	会場 瀬戸内市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光

のない作家の本を中心には読みあさつた。

★骨折で入院していた期間は、腰への負担を軽くするために、座るのは30分以内に制限され、食事とパソコンを使つた。食事とパソコンを使つた。食事とパソコンを使つた。

うとき以外は、ベッドに寝転んだままで過ごしたが、全く苦にはならなかつた。本を読んでいれば、知らぬ間に時間が経つからである。

★寝転んで本を読むのは苦ではなく、というよりも、中学校2年頃から寝転んだまま本を読むようになり、本を読むとき寝転ぶのが私にとっては一番楽なスタイルなのである。

★家から持つてきてもらつた本を読んでしまつてからは、病院の談話室の本棚を利用した。時代小説や推理小説が多かつたが、今まで読んだこと

シリーズを読み終え、岡本さとの「取次屋栄三」シリーズをせつせと読んでいるところ。もちろん寝転んで。

(道夫)

◆元気そうねと言われるが、内科と脳神経外科に定期的に通院している。

◆内科の待合室にいると、おじいさんが受付であれやこれやと話す声が聞こえてきた。

◆若い、受付の女性が応対している。どうやらも

らっている薬のことを訴

た。案の定おじいさんは意味が伝わらない。何

度も聞き返されるが、同

じことしか言つてもらえない。おじいさんは、

薬のことを誰が誰に話すのかがわからない、受付

の女性には、自分の言い

方の不備がわからない。

◆聞き終わつて受付の女

性が「お薬のことは、診

察の時に先生にお話して

接お話してくださいね」と実感しました。

(眞澄)

◆吉宗の長男ながら生ま

れつきの脳性麻痺、尿意

も感じない等の障害ゆえ

に、まいまいつぶろ(かた

つむり)と揶揄された。

◆障害を持ち、十五年の

その家重がなぜ九代将軍

に成りえたかが描かれる。

◆家重と直に会話をでき

た。ちょっとと夢物語風で

すが、一度読まれては如

ひとこと

（駄目なことの一切を／時代の

半生を支えられたと言つても過言

ではない。

茨木のり子の詩には魂のほとば

しるような、いのちの言葉が紡が

れる。それは戦争に奪われた青春

の深い傷みの声であろうか。ま

た、時代に翻弄されながらも自分

の目と耳を信じ、大地にすつくと

立つ姿が私には見える。

いつの日か私も人の心に灯をと

つぶやきであろう。私はこの詩に

もせるような一句を紡ぎたいもの

だと思う。冒頭の結句の前の一節

せいにはするな／わざかに光る尊

嚴の放棄』

を紹介しよう。

◆「駄目なことの一切を／時代の

半生を支えられたと言つても過言

ではない。

茨木のり子の詩には魂のほとば

しるような、いのちの言葉が紡が

れる。それは戦争に奪われた青春

の深い傷みの声であろうか。ま

（饗庭 風鈴）

た。案の定おじいさんは、つぶろを楓楽先生にお

借りし面白く読みまし

（もう一度生まれても、

だつた作者が、暗愚で低

忠光に会えるのならば、

と言わしめた主従関係を

描いた330ページの單行本。

◆吉宗の長男ながら生ま

治、また正義の味方とし

て若き田沼意次が登場す

るなど多彩で興味深い。

◆大岡越前や十代將軍家

重はこの身体でよい。

◆障害を持ち、十五年の

将軍在位を全うした忍耐

力と指導力に勇気が貰え

た。ちょっとと夢物語風で

すが、一度読まれては如

るただ一人の家臣、大岡忠

何でしようか。（憲彦）

川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目

」 発表(12月号)

地名

市道都
県府姓雅号

きりとりせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。
愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、
檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の
10時から14時までにお願いいたします。

檸 檬 抄 投 句 用 紙

「彩 り」(10月15日締切)

12月号発表

川本真理子選 —共選— 鈴木いさお選

B	A	B	A
地名		地名	
県 府	市 道	県 府	市 道
姓 雅	號	姓 雅	號

切ら
ない
で下
さい

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。
きりとりせん

左右に同じ句を書いて下さい

川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

氏名	住所	電話	紹介者	年 月から半年 月から一年
	〒 —	—		年 月から半年 月から一年
5000円 9800円				
該当の方に○をつけて下さい				

〒543
-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル
201
川柳塔社（電話 06-6779-3490）
振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

作品募集

初歩教室	一路集(2句)	檸檬抄「半端」	愛水川染煙柳帖抄塔(28句)	12月号発表(10月15日締切)
初歩教室	〔足は1月号発表担当〕	〔足は1月号発表担当〕	〔足は1月号発表担当〕	〔足は1月号発表担当〕
初歩教室	〔足は1月号発表担当〕	〔足は1月号発表担当〕	〔足は1月号発表担当〕	〔足は1月号発表担当〕
初歩教室	〔足は1月号発表担当〕	〔足は1月号発表担当〕	〔足は1月号発表担当〕	〔足は1月号発表担当〕
初歩教室	〔足は1月号発表担当〕	〔足は1月号発表担当〕	〔足は1月号発表担当〕	〔足は1月号発表担当〕

1月号
一路集「影」「いよいよ」
初歩教室「屋根」

川柳塔柳箋

3冊 送料共 1,000円

事務所あてお申し込み下さい。

〒543-0052

大阪市天王寺区

大道一丁目二

花野ビル

201号室

振替
電話
〇〇九八〇一四〇五八四七九番

川柳塔社

編集人
印刷所
美研アート
原道和
島幸ト

定価
半年分
一年分
九千八百円(同)
（送料共
100円）

二〇一三年(令和五年)十月一日発行

第29回 川柳塔まつり

とき 2023年10月7日(土)

開場:午前11時 出句締切:正午 開会:午後1時
ところ ホテル アウイーナ大阪 4階 金剛の間
〒543-0031 大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12

TEL 06-6772-1441

会費 2,000円(記念品呈)

おはなし フレイル予防のための「食」と「社会参加」
井尻 吉信 氏

兼題(各題2句・欠席投句抒辞)

「刻む」 藤井智史 選

「まっすぐ」 藤田武人 選

「揺れる」 大久保真澄 選

「未來」 萩原道夫 選

「笛」 片岡加代 選

事前投句 「自由吟」 (受付済み)

小島蘭幸 選

主催 川柳塔社

〒543-0052 大阪市天王寺区大道1-14-17
花野ビル 201号室
電話 06-6779-3490

本社11月句会

7日(火) 午後13時から

兼題「華やか」「ガチャン」「
「あなた」「家族」「自由吟」

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10

TEL (06) 4800-3018

FAX (06) 4800-3028

Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp

ホームページ <https://www.bikenart.com>

川柳塔のホームページアドレス <https://senryutou.net>

コーキコーポレーションは 川柳塔を応援しています。

句 箋

川柳塔本社句会と同じ句箒
サイズ 4.5cm × 25cm
厚み 90kg

一箱 7000枚入り 代金 5000円（送料込）

申込先

川柳塔社 電話・FAX 06-6779-3490

※ 到着後、代金を下記の郵便振替口座へお振り込み下さい。

加入者名 川柳塔社

口座番号 00980-4-298479

兼題と選者（各題2句）

「自由吟」

浪越

靖政・大西

泰世

共選

「まさか」

中前

棋人・樋口由紀子

共選

「ふわり」

平

川柳・鈴木

順子

共選

「積む」

もりともみち・木本

朱夏

共選

「色」

横尾

信雄・赤松ますみ

共選

専用用紙

（コピー可）

共選

令和5年10月から

令和6年1月15日（月）

消印有効

投句用紙

発表誌呈

締切

1000円（切手不可）

佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲2426-2

参加費

TEL
FAX

0952-52-1061

投句先

卑弥呼の里川柳会

真島久美子

賞

各題特選1句・有田焼
各題佳作5句・図書券
(その他サプライズ賞あり)

※ 投句用紙は11月号に同封します

第12回卑弥呼の里誌上川柳大会